

めざす子ども像

**地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切に
にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子**

取組目標

**地域と学校園、保護者との連携を深め、地域と学校園が連携
し協働した取組を充実させるとともに、ボランティアスタッフとして地域
人材を積極的に活用する。**

【今年度の取組紹介】

春日中学校区地域教育協議会では、多くのボランティアスタッフ
に支えられ、美化作業や放課後の学習支援に取り組みました。

また、「みんなの学習クラブ」を活用することでタブレット端末を
活かした学習活動支援事業の充実につながりました。

今年も、地域の方々が中心となって、日本漢字能力検定を2回
実施しました。他にも多くの方たちのボランティア協力によって
登下校の安全見守り活動などが行われました。

そして、今年のふれあい文化祭では、ギターマンドリン部と吹奏
楽部の演奏がありました。また、人権作文発表会や落語家の露の新
治さんの講演と夜間学級卒業生による二胡の演奏も行われました。



【わかるわかる学習教室会】



【ふれあい文化祭】

【今年度のまとめ】

地域の方々の協力を得て、子どもたちが地域の方々と触れあったり、地域の方々に見守られたりすることは、自分の住む地域やそこに暮らす人々を愛する心を育てる良い機会となりました。

地域の方々による「地域の子は地域で育てる」という意識のもと、学校と協働した取組を今後さらに発展させようと考えています。

【来年度に向けて】

今年度までの事業を検証し、より発展させることで、地域と学校、園、家庭の連携をさらに強いものにしていきたいと考えています。また、地域人材の活用については、地域との連携を深めることで、新たな人材の発掘に取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子

取組目標

地域との交流やフェスタを通して、子どもたちが主役として活動することができるよう学校園と地域が協働して取り組むとともに、地域人材を積極的に活用する。

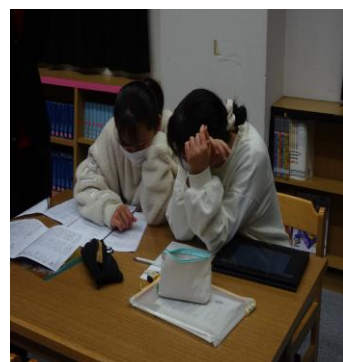
【今年度の取組紹介】

本年度はキャリア教育としての「職場体験」などの各種体験学習については3年ぶりの実施となり、地域の方々の協力を得ながら、3年前とは縮小とはなりましたが、実施することができました。

また、本校が長年にわたって取り組んできている学習活動支援事業として学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るための放課後学習会「わかるわかる学習会」に重点的に取り組みました。

「わかるわかる学習会」では、生徒の学習進度に応じて、基礎学力の定着や発展的な学習に取り組んでいました。生徒たちは、持参した問題集などを使って学習し、生徒一人一人に配付されたタブレットを使って学習に取り組んだりしていました。タブレットにデジタル教材「みんなの学習クラブ」を導入したことにより、小学校から中学校までの学習内容が容易に復習できるようになりました。

自分の自学自習を基本としますが、大学生を中心としたボランティアスタッフにアドバイスをもらいながら熱心に学習に取り組んでいました。



【今年度のまとめ】

学ぶ意欲のある生徒からの「勉強がわかるようになりたい」という思いを受けて始まった「わかるわかる学習会」も14年続いています。生徒たちは、ボランティアスタッフとともに学習に取り組み、「勉強がわかるようになった」と実感するとともに、自信が芽生え、学習意欲の向上につなげることができました。また、タブレットを使っての学習は、生徒たちが自分のペースで学習するのに有効な手段となりました。

【来年度に向けて】

今年度の取組への成果と課題をふまえ、来年度も「わかるわかる学習会」や「各種体験学習」などの学習活動支援事業、「出前で部活」などの地域交流事業に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像 ・ 地域とのかかわりを大切にする子 ・ 自分を大切

にする子 ・ なかまを大切にする子 ・ 学習を大切にする子

取組目標

済美の町と人、そして奈良の町と人に関わる体験活動を行うことで、
地域に誇りを持つ取組を進めていく。

【今年度の取組紹介】 ☆世界遺産学習事業・学習支援事業☆

「英語でアート」～The World We Love～

済美の町の歴史・産業・人について学習したことをイメージしながら
ドミニク先生にご指導いただき、子どもたちの自由な発想で全校児童
462名による協働作品を完成させました。



3年生「済美歴史探偵団」

済美の町と済美小学校の歴史について、自分たちが知
りたいことを地域の方にインタビューにいたり、学校
に来ていただきお話を聞きました。地域の行事や学校の
昔の様子を知っていくにつれ、現在の自分たちの生活が
多くの方に支えられ成り立っていることや、これからも
大切にしていきたいという思いが強くなりました。

4年生「済美の人間校区宝さんを探しにいこう」

済美の町でしか出会えないすてきな人を探しました。地域の
方も初めて知ったとおっしゃられるぐらい、たくさんの校区宝
さんに会い、それぞれの思いや願いを聞いてますます校区宝さ
んのすばらしさに気づいたようでした。



【今年度のまとめ】

今年度は昨年度の取組に加え、済美の町の歴史や産業、地域のために活動してくださっている方を
子どもたちが主体となって調べたり、話を聞きにいたりできたことはとても有意義だったと考えま
す。

また、心を育む事業の芸術鑑賞会ではパーカッショングループの演奏を聴いたり、校歌をアレンジ
して地域の方と一緒に歌ってみたりととても楽しい体験をしました。生け花体験では自分たちで制作
した花器に地域の方の指導を受けて花を生けるなど、地域の方とともに学び、喜びを共有できる活動
ができました。

【来年度に向けて】

これからも、地域連携を大切にし、子ども達の心を豊かに育み、「済美・奈良を誇りに思う子ども」
を育てる取組を進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子
自分を大切にする子
なかまを大切にする子
学習を大切にする子

取組目標

地域で学び、つながろう、大安寺っ子

【今年度の取組紹介】

1年生は地域の万年青年クラブの方とけん玉やたけとんぼなどを使い昔の遊び体験を行いました。ゲームでしか遊んでいない1年生にとって初めて経験する児童も多く、終わってからも休み時間や下校後などけん玉を練習し上達する児童もいました。3年生は七輪を使いながら、煙が目に入り涙目になりながらも活動をしていました。毎年欠かさず実施していただいている5年生の田植え体験・稲刈り体験を実施していただきました。

その他にも中庭の剪定作業や運動場の環境整備など児童が安心・安全に生活できる学校環境を整えていただきました。



5年田植え体験



3年かきもち焼き体験

【今年度のまとめ】

今年度も地域の方々の協力を得ながら様々な行事を進めていきました。子どもたちは、普段教室では味わえない活動に目を輝かせていました。今年は大変暑く、非常に大変な環境の中で作業もしていただきました。しかし、参加していただく方々の高齢化・固定化が進んでおり、地域での新たな人材発掘という課題もあります。

【来年度に向けて】

来年度 150 周年を迎えるにあたり、より地域にある学校づくりを推進していきたいです。地域の学校として何ができるのか、教職員がどのようなことを考え、子どもを成長させていくのか学年単位ではなく、学校全体でしっかり計画をたて、実施していきたいと考えます。

子どもたちにとって地域の方と様々な活動することは実りのあるものでありました。今後は、教員の働き方改革も考えながら取組を進めていきたいと考えています。



1年昔の遊び体験

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子/自分を大切に する子/なかまを大切にする子/学習を大切にする子

取組目標

地域とのふれ合いを通して、郷土愛やコミュニケーション力を育む。
また、事業での関わりを通して、子どもと地域、学校と地域、地域同士のつながりを
深めていく。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症に関わる制限がなくなり、以前行っていたような地域と学校が一体となった活動を行うことができるようになりました。11月には済南ふれあいフェスタを開催することができました。様々なお店があったり、ミニ運動会を行ったり、子どもたちがダンスを披露したりと楽しい時間を過ごすことができました。

1・2年生の生活科の学習では地域の方の協力を得て、チューリップの球根やビオラの苗を植える活動を行いました。また、5年生は校内の田んぼで稲を育てますが、この活動にも地域の方からご指導いただきました。秋には稲刈りを行い、収穫したお米を使って地域の方を招いてお米パーティーを開きました。

【お米作り】



【ありがとう集会】



「ありがとう集会」では、普段からお世話になっている地域・保護者の方々に感謝の気持ちを伝えることができました。画面越しや手紙ではなく、対面して同じ時間を過ごすことで一体感を感じることができました。

昨年度に引き続き、6年生が卒業を目前に控えた3学期に地域の方々の協力を得て、校区内の環境美化活動を行うことも予定しています。自分たちが6年間毎日登校した通学路に落ちているごみを拾うことで、地域に愛着をより一層感じる機会と同時に地域の方々と一緒に作業することで地域の方々に見守っていただいていることを実感できるいい機会となっています。

【今年度のまとめ】

地域の多くの方々が「子どもたちのために何かできることはないか」との思いをもって活動してくださいました。学校だけではできない豊かな体験と、人とのふれ合いを積み重ねることができました。学校と地域が協力して積み重ねてきた取組を今後も続けていきたいです。

【来年度に向けて】

地域の子どものための健全育成のため、今までのように地域と学校が一体となった「チーム済南」の活動を続けていきたいです。子どもたちも地域を支える一員として、6年生が行う清掃活動のような、地域と共に地域のためにできることも増やしていきたいと思います。

めざす子ども像

・地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切に 大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子

取組目標 子ども達にとって地域とのつながりを意識できるふれあい活動事業を中心に、様々な経験や体験を通して地域とのつながりを強く感じられる取組を行う。

【今年度の取組紹介】

万年青年クラブの方と「七夕集会」を行いました。七夕の歌を歌ったり手遊びやふれ合いあそびをしたりして楽しみました。コロナ制限が解け、久しぶりに万青さんとのふれあいに、こども達にもたくさんの笑顔があふれていました。豊かな人との関わりで、子ども達の心もぽかぽかと温かいものになり、優しさや思いやりを感じられる経験となりました。



「ならまちたんけん」では、今年度も地域の方に安全指導と案内をしていただき、音声館・庚申堂・鎮宅霊符神社や元興寺・興福寺など、年3回実施しました。興福寺へとつながる階段では何段あるか、みんなまで並んで登りながら数えました。地域の方からその由来や言い伝えに興味を持って聞くことができ、身近にある地域の良さを見たり体験したりすることができました。また、保護者の方も参加してくださり、今後もみんなにとって地域の方々を身近に感じられるものにしていきます。



【今年度のまとめ】

子ども達にとって、地域とのつながりを意識できる活動（「七夕集会」・「ならまちたんけん」・「新年を祝うお茶会」・「親子花苗植え」・「絵本の読み聞かせ」・「子育て支援」・「ダンス・サッカークラブ」・「昔遊び」・「押し花教室」等）を今年度も地域の方から支援をいただき行うことが出来ました。たくさんの方々とのかかわりを通して、子ども達に豊かな心が育ってきています。また、自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちを持てるようになってきました。保護者からは、「ならまちたんけんや、お茶会等親が教えられないことを地域の方から学んで貴重な体験をさせてもらっている」という意見が多く聞かれるようになっていきます。子ども達は、さまざまな経験から、思いやりの心・挑戦する心・あきらめない気持ちを持てるようになってきていると感じています。

【来年度に向けて】

引き続き、地域の方々からの温かさやふれ、多くの事を学び、地域とのつながりを感じられるよう、連携を深めながら、取り組んでいきたいと思っております。

めざす子ども像

○地域とのかかわりを大切にする子**○自分を大切にする子****○なかまを大切にする子****○学習を大切にする子**

取組目標

家庭・地域・幼稚園が一緒になって事業に取り組む中で、子どもの現状を知り共に子育てをする。**【今年度の取組紹介】**

万年青年クラブの方々を園に招き、交流をしました。紙飛行機などの折り紙・あやとり・絵本・おはじき・こままわし・カルタなどを一緒に楽しんだり、教えていただいたり、昔ながらの遊びを経験することができました。興味のある遊びにやってみたく、子ども達がやり方を尋ねたり、地域の方がしている姿を真剣に見たりなど積極的に地域の方と触れ合うことができました。子ども達は、教えていただいたり頑張っていることを褒めてもらったりしたことで、地域の方の優しさに触れ、地域の方への親しみを感じることができました。



地域の方と保護者に協力を得て、子ども達と共に園庭の雑草抜きをしていただき、きれいで安全な園庭を思いきり走り回って運動遊びを楽しんだり、花壇や畑などで菜園活動を親子で体験したりすることができました。畑を耕したり育て方を教えてもらったり、花壇では花の苗植えや育てた花を遊びに使うことも知ることができ、試し学ぶ経験になりました。地域の方や保護者の協力で苗や種・球根等を植える等一年を通して菜園活動を経験することができ、子ども達にいろいろな物を大切にする気持ちや感謝する心を育てることができました。

**【今年度のまとめ】**

地域や親子の触れ合いを通して、子ども達は地域の方を身近に感じ、優しさや温かさを感じることができ、感謝する心も育ってきています。行事や交流の機会を通して頑張りを褒めてもらったことで自信になり、更に意欲的に取り組めるようになりました。また、お茶会・英語・キッズサッカー・運動遊びなど様々な体験を親子参加にすることで、園の取組を理解してもらう機会になりました。家庭・地域の方々に協力していただきながら、豊かな感性を育む保育の充実を図っていききたいと思います。

【来年度に向けて】

幼稚園が地域・家庭とつながり、地域の教育力を生かし、人との触れ合いの中で感動する体験を多く取り入れ、地域に根ざした園づくりに努めていきたいと思います。また親子での触れ合いや体験の充実を高め、より子育ての楽しさや幼児教育の大切さを感じてもらえるように取り組んでいきたいと思います。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

合言葉を「三笠はひとつ、三笠はならのまほろば」とし、奈良の中心地としての文化・誇りを再認識し、新たな郷土愛や誇りを育む。

【今年度の取組紹介】

○第14回子ども未来会議

今年度は、「時間割を創ろう！」～子どもたちが創る未来の小学校～をテーマとし、50年後の未来にタイムスリップし、小学校の先生になっていたという設定で、未来の小学6年生の時間割を考えてくれました。未来の小学校はどのように変化をしているのか、自分が先生になっていたらどんなことを教えたいのか、どんな新しい教科ができているのかなど、未来の小学校について話し合いました。小学生からはたくさんの意見が出され、中学生は司会進行をしながら、地域コーディネーターさんと一緒に意見をまとめ発表をしてくれていました。

○親善交流会事業「ミニ運動会」

新たな活動として、三笠中学校で「ミニ運動会」を開催しました。各小学校の3年生から6年生と地域コーディネーターさんをあわせて、3チームに分かれて、「お玉でピンポン」「風船をはさんで運ぼう」「玉入れ」の競技をしました。その他には、保護者や、大学生参画事業に参加している大学生や、各小中学校の先生にも競技に参加してもらいました。



【今年度のまとめ】

子ども未来会議では、リモートから対面での開催に戻すことができ、参加者は生き生きと意見交流をすることができました。参加者の感想には、保護者、教員からは、「中学生が上手く司会をしている姿をみることでよかった」「小学生が、仕事や経済に関して興味を持っていることに驚いた」「未来の三笠校区はどんな街になっているかをテーマにしてほしい」小学生からは、「人権のことを取り上げてほしい」「実際にあったらいいなと思って夢がふくらんだ」中学生からは、「小学生と一緒に意見を出し合って決めるのは楽しかった」などがありました。

【来年度に向けて】

地域教育協議会の活動の活性化のため、継続的な事業を進めていきながら、子ども未来会議などで出された子どもたちの意見を取り入れた新たな事業の可能性を提案・検討を続けていく必要があります。また、地域教育協議会の活動の活動への理解をより一層深め、多くの人々に参加してもらうための情報発信を続けていきたいと思っています。

めざす子ども像 **郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって**

未来を切りひらく子ども

取組目標 **保護者・地域と連携し特色ある学校・地域づくりを協働する。**

【今年度の取組紹介】

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。



さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度は、新型コロナウイルス5類引き下げに伴い、対面の活動も増え、地域の清掃活動や地域の祭り等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み、「生きる力」を培ってきています。またキャリア教育として様々な業種の方にお話をいただいたり、高等学校の先生方に模擬授業を行っていただいたりすることで卒業後の進路やその後の社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍が明け、様々な活動が再開される中で、コロナ禍前に戻すということではなく、新しい形も模索しながら実施を試みました。2年生での「ゲストティーチャー」を招いての「労働に学ぶ」はその中の1つの事業です。地域の方々には、教員とは違った視点から進路や職業について子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えていただきました。また地域で取り組んだPOPづくりを学校図書館の事業に活かし、図書ボランティアの方にその活動にちなんだコーナーづくりを開設してもらうなど、地域の活動と学校の活動を融合して取り組む活動も増えてきました。

【来年度に向けて】

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切に、子どもたちのため、学校や地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域 みんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標にさらに取り組んでいきます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもつて、未来を切りひらく子ども

取組目標

世界にはばたく世界で生きる椿井っ子

【今年度の取組紹介】

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高いです。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めてきました。

昨年度までの制限がなくなったために、地域参画事業の防災学習において、のっぺ汁の振る舞いが行われました。学校地域支援事業においては、人・モノ支援センターの皆様の協力を受け、盲導犬学習を行いました。郷土学習事業雅楽鑑賞学習では、地域で活動している方に来校していただき、本物の雅楽を鑑賞して郷土に伝わる芸術を学ぶ機会を設けることができました。



【今年度のまとめ】

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができました。地域行事が例年に戻す形で行われるようになったことで、行事に参加する児童も増えて、一層郷土愛が育まれました。また、環境整備事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していく予定です。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に 誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

やさしく、温かく、さわやかな 大宮の風の中で学び、
たくましい子どもを育てる大宮アクション

【今年度の取組紹介】

◆図工サポート・家庭科サポート・生活科サポート

昨年度に引き続き、図工・家庭科・生活科の授業をサポートする取組を行いました。図工サポートでは、児童がカッターナイフや電動糸のこぎり等を使う活動の時に、児童の安全確保と学習支援のために来ていただきました。家庭科サポートでは、ミシンを使う裁縫等の実習の時に同じく児童の安全確保と学習支援のために来ていただきました。各班に1人ずつ入っていただけるほど、家庭科サポートは非常に心強いサポートになりました。生活科サポートでは、お手玉やあやとりなどの昔遊びを講師として子どもたちに教えに来ていただきました。



◆環境整備事業

10月9日に地域の方々に、運動場の草引きや木の剪定など、学校内の環境整備を子どもたちのために行っていただきました。登下校の見守り活動や環境整備事業など地域の方々の協力により、子どもたちの安全が守られているのだと、改めて感じる事業の1つです。

【今年度のまとめ】

上記の取組以外にも夏休み中の「おおみや未来塾」、そして年間を通しての図書室の環境整備など、地域の皆様の支援をいただきながらたくさんの取組を実施することができたことに感謝で一杯です。この地域と学校の繋がりが「郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども」の育成に大切な役割を果たしていると思います。

【来年度に向けて】

地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。また、コーディネーターさんの負担軽減などをまだまだ検討していく必要があります。そして、新しい取組として防災教育事業にも力を入れていこうと思っています。そして、学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたいと思います。

めざす子ども像 **郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標 **自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実。**

【今年度の取組紹介】

今年度はゲストティーチャーを招いた「子どもの力を高める事業」「地域とともに学ぶ事業」に重点をおいて、取り組みました。

「子どもの力を高める事業」では、アーティストのドミニク氏を招き、6年生を対象とした「英語でアート」を行いました。この取組はドミニク氏が子どもたちに英語で指導をし、建物をドローイングで描かすというものです。すべて英語での指導ですので、戸惑う子どもがいましたが、アシスタントの方が日本語でアドバイスしてくださったので安心して取り組んでいました。子どもたちが描き上げた絵をドミニクさんが写真のように、一人ひとりが描いた建物を立体的に配置し一つの作品に仕上げていただきました。



「地域とともに学ぶ事業」では、大安寺西地区自主防災防犯会の方を招き、4年生を対象に防災についてお話をしていただき、本校に設置している防災倉庫の見学をさせていただきました。実際に大安寺西地区で防災に携わっている方のお話を伺うのは、子どもたちにとって身近な学びとなり、防災について考えを深める機会になりました。この取組は総合防災訓練前に行いましたので、子どもたちから「防災訓練に参加したい。」という声を聞くことができました。本取組を通して、子どもたちの防災意識を高めるとともに地域の防災を考える機会になればと取り組みました。



【今年度のまとめ】

アフターコロナになり、制限が緩和され、様々な取組を積極的に企画することができました。ゲストティーチャーの招へいだけでなく、環境整備活動においても子どもと地域の大人が一緒になって活動することができました。地域の大人と一緒に活動することにより、子どもたちだけでは気が付きにくいことも地域の方の姿を見て、学ぶ場面をふやすことができたのではないかと考えています。

【来年度に向けて】

地域にはいろいろな特技をお持ちの方が多くいらっしゃると思います。地域と学校が協力し合って、子どもたちの自尊感情を高めることができるような取組を創出し、目指す子ども像に迫ってきたいです。しかし、地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。情報発信を工夫し、地域・学校・家庭が一体となり、「自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる子ども」を育んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをも**って、未来を切りひらく子ども**

取組目標

地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物にやさしく、地域を愛する子どもを育む。**【今年度の取組紹介】**

《学習支援》家庭科の学習支援では、「ミシン指導」「調理実習補助」に約30回、延べ150名以上の地域の方々に来ていただき、子どもたちの学習支援を行っていただきました。各班1名、地域の方に補助についていただいたおかげで、子どもたちが困ったとき、わからないときに気軽に質問をして支援をしていただくことができました。教えていただいた回数も多いことから地域の方と顔見知りになる5、6年生がたくさんいました。また、1年生の昔遊びの遊び方、2年生のおもちゃ作りの学習支援では、とても楽しく優しく教えていただいたおかげで、子どもたちがいきいきと活動することができました。教えてもらった後の休み時間も、竹馬に乗ったり、こまを回したり、作ったおもちゃで楽しく遊んだりすることができました。



《プロに学ぶ》「ギコギコとんとんクリエイター」（のこぎりの使い方を学ぶ）（4年生）を地域の工務店の方に、また、「園芸指導」（園芸委員会5・6年生）を地域の花屋の方に来ていただき、プロの方から技術面だけでなく仕事への思い等キャリア教育につながることも教えていただくことができました。子どもたちは、真剣に話を聞いて、教えてもらったことをもとに活動に励んでいました。

【今年度のまとめ】

これまで行っていた内容はもちろんのこと、今年度より新しく「地域史跡巡り」（本校周辺の古墳について学ぶ）（6年生）を地域史跡の詳しい方に、園芸委員会（5・6年生）「園芸指導」を地域の花屋の方に、おもちゃ作りの学習支援（2年生）を地域の方にお願いして、学習することができました。

教職員だけでは教えることが難しい、より専門的な学習内容を楽しんで学べたり、地域の方の思いや考えを知ったりすることで、子どもたちがこれまで以上に学習に興味を持ったり地域を誇りに思う気持ちを育んだりすることができました。

また、今年度は地域コーディネーターとして地域の民生児童委員さんに日程調整やボランティア募集等をお願いし、これまで以上に学校と地域各種団体などを結んでいただいたことで、大変スムーズに活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々と触れ合い、佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したいと考えます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

地域の人との関わりや自然環境、教育力をいかした体験を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、自尊感情を高め何事にも意欲的に取組む。**【今年度の取組紹介】****《地域で学ぼう事業 お茶会を体験より》**

西方寺様でお茶会の体験をしました。玄関から廊下にかけて秋の草花が生けられて自然に親しむことができました。子どもたちは相手を思いやる気持ちをもってお茶を点てることや思いを受け止めてお茶をいただく作法などを教えていただきました。厳粛な雰囲気の中で、子どもたちは正座をし、背筋を伸ばして臨むことができました。また、庭には防空壕が残っていて自分たちが住んでいる奈良にも空襲があったことを知り、平和学習にもつながりました。

**《地域で学ぼう事業 木工で遊ぼうより》**

スギやヒノキ等の木材や山の話や、家が出来上がるまでの工程を写真を通して教えていただいたりしました。子どもたちは自分の作りたいものを描き大工さんや設計士さんに見せ、必要な木切れを選び、つくり方を相談したり形を切ってもらったりしました。初めて使う金槌は、徐々にコツが分かって上手になり、根気強く取り組んで作品に仕上げることができました。自然環境を守ることの大切さも知ることができました。

**【今年度のまとめ】**

今年度開園し初めての地域で決める予算事業でしたが、昨年度の取組を参考にしたり、地域の方と相談したりしながら進めることで、より地域の方との関わりが広がり、子どもたちにとって豊かな体験活動を実現することができました。

地域の様々な環境（人・もの・こと）に関われる事業内容を実施することで、子どもたちは人と関わって初めてのことを学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動に取り組もうとする意欲や態度が見られました。

【来年度に向けて】

地域の温かな人材と豊かな文化遺産を活かした体験活動を来年も継続していくとともに、事業内容や計画、取組の成果などをもっと家庭や地域に広報することで新たな人材や遺産の発掘にも務めていきたいと思います。また、各事業の成果や課題を踏まえながら地域の方との打ち合わせを綿密に行い、より充実したものにしていきたいと思います。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

- ・子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施
- ・子どもが主体的に活動できる環境の構成

【今年度の取組紹介】

〈学習支援事業（体づくり）〉

運動遊びを通して子どもたちが健康でより意欲的に活動できるようにと考え、前年度より継続で地域のコーチ等に来ていただき『体操教室』『体育教室』『チャレンジクラブ』を行いました。子どもたちが進んで体を動かしたくなるように工夫してくださり、子どもたちは毎回楽しんで行うことができました。また保育士も体づくりや運動あそびについて学ぶことができ、日常の保育に取り入れています。



〈伝統文化体験事業（生け花教室）〉

地域の方に先生として来ていただき行いました。子どもの育ちや興味に合わせて活動内容を考えてくださり、いろいろな体験をすることができました。初回は園庭の草花を見つけ、好きに生ける体験をしたことで、家庭や園生活に取り入れる姿が見られました。他にはオアシスに生ける体験、押し花体験など、子どもたちが興味をもち楽しんで体験する姿が見られました。また花に興味をもち登園時に見つけた花を摘んで来たり、見つけた花について調べてきたことを生け花の先生に話したりしていました。



【今年度のまとめ】

体づくりの活動を増やしたことで、子どもたちは心身ともに活動的になり、興味が広がるとともに、意欲的に活動するようになりました。また地域の方に野菜の苗の植え方を教えていただき、それを使った焼きいもにも来ていただき、一緒に体験することで、地域の方に親しみをもち接するようになりました。子育て支援事業では、地域の方と共に子どもを見守り、保護者の方に寄り添いながら、親子で楽しんで参加していただけるように取り組んできました。取組を HP など保護者や地域の方に啓発していくことで、園の様子を知っていただくことができ、保護者の方には様々な体験をさせてもらい喜んでいただいています。

【来年度に向けて】

今年度取り組んできた活動をもとに、来年度の活動内容について職員や地域の方と打ち合わせをしつかり行い、子どもたちの主体的な活動につながるような体験を取り入れていきたいです。また、来年度より0歳児から2歳児の受け入れを開始することから、新たな取組や内容も取り入れていきたいと考えています。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選**択ができる子どもの育成**

取組目標

『奈良を地域を知る』—世界遺産と環境—〜クロスオーバー若草点から線へ、線から面へ〜**【今年度の取組紹介】**

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられ、コロナ前のやり方について見直しをはかり、継承できるところは継承し、精選できるところは精選をはかりました。また持続可能な運営を追求していくことを念頭において事業を進めていきました。特に若草中学校区のメイン事業である「地域合同文化講演会」は、コロナ前のように一般の方々にも広く周知し多くの方々に足を運んでいただき開催することができました。また、文化鑑賞会として『太鼓集団倭YAMATO』に来校していただき、大迫力のパフォーマンスを鑑賞することで「本物との出会いによる感動の体験」につなげることができました。

➤若草中学校区小中一貫教育研修会

地域の若草公民館を使用させていただき、校区の先生方や地域の方々とともに講師の先生をお招きし、「自殺予防」研修会を開催しました。

**➤地域合同文化講演会**

元若草中学校教員でもいらっしゃった「北村雅昭」先生を講師にお招きし、『松永久秀と多聞城』と題しての講演を本校体育館にて開催し、「生まれ育った地域の素晴らしさに気づき、誇りを育むことができました。」



小中一貫教育研修

➤文化鑑賞会

『太鼓集団倭 YAMATO』。熱い思いが太鼓の音を通して、そして、その太鼓を叩く本気の姿からビシビシと伝わってくる迫力のステージに、生徒のみんなも釘付け!! 合図に合わせて一緒にリズムを叩き、声を出し、手を挙げてと、まさに会場が一体となって、盛り上がりました!!



文化鑑賞会

地域合同文化講演会

【今年度のまとめ】【来年度に向けて】

- ・持続可能な事業を精選しながら、質の高い事業を進めていきます。
- ・今年度同様、地域合同文化講演会、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
- ・地域のことをよく知った人材の発掘等を進め、地域の歴史を学んだり、自らの生き方を考えるキャリア教育の支援に繋げていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路

選択ができる子どもの育成

取組目標

学びをはぐくむ

【今年度の取組紹介】

◆環境美化事業「花植え」

◆学習支援

➢「中3学習会」3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域の方や大学生のボランティアに協力いただき中3学習会を行っています。

➢「図書館学習」定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。

◆キャリア教育支援

➢「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に実習体験を行いました。美容師、写真関係、保育士、警察官、メディア関係など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けて有意義な体験でした。

➢「誕生学」講演会

誕生学など命に関する学習についてゲストティーチャーをお招きし、講演を通じて学習することができました。

➢「探究学習についての研修」

奈良県をはじめとした全国の各高校でもカリキュラムに組み込まれた「探究学習」について、国内でも先陣を切って取り組まれている「京都市立堀川高等学校」の先生方3名を講師としてお招きしての研修会。「若中の生徒のより良い学び」のために、先生方も熱心に取り組まれていました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられ、コロナ前のやり方について見直しをはかり継承できるところは継承し、精選できるところは精選をはかりました。また持続可能な運営を追求していくことを念頭において事業を進めていきました。保護者・地域の方々に学校に来ていただき、環境美化活動として花植えなどの活動が再開できたことは非常にありがたく有意義なものでした。

【来年度に向けて】

持続可能な運営を心掛け、事業を精選しながらも生徒たちのより良い学びの実現のために地域コーディネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいです。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りをもち、多様な進路選**択ができる子どもの育成**

取組目標

自分たちの育った校区に誇りをもち、その素晴らしさを校区内外に発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする

【今年度の取組紹介】

書道の達人から学ぶ

元教師の書道家の方から高学年に指導していただきました。1回目は、墨を自分で作る体験やたくさん種類の筆と紙を用意していただき、普段体験している「習字」というものが道具を変えるだけで色々な書き方、書き心地があるということを児童は感じる事ができたと思います。

2回目は、学校近隣にある正倉院を特別に見学させていただきました。そして、間近に見た正倉院や校名になった鼓坂を歩いたときの情景を思い出して5・7・5の俳句づくりを行いました。慣れない細筆を使用しての作品作りに試行錯誤しながらも一生懸命に取り組み、特別な俳句をつくる事ができました。



菜の花プロジェクト

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に1・2年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。児童自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じたと思います。

菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学びました。大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決したり、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解し



主な活動の流れは、5月菜の花刈取り、6月脱穀と搾油、9月東大寺に献納、10月種まき、11月移植を行っています。

【今年度のまとめ】

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多いです。子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りをもち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

【来年度に向けて】

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りをもち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を進めていきたいです。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

佐保に生きる（地域と共に）

【今年度の取組紹介】

自然環境学習～ビオトープやバタフライガーデンを通して～

13年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続きNPO法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくことを学んでいます。今年度は、改修したビオトープにカワナナ（ホタルの幼虫のエサ）を放流し、専門家の指導を受けながら生育状況の観察を続けました。生育可能であることが確かめられたことから、次のステップに進んでいく予定です。

地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

今年度は、練習時間も十分確保することができ、運動会やオープンスクールで保護者や地域のみなさまに披露できました。また、地域イベント（佐保まつり）や奈良マラソンの会場でも発表できたことで、児童のモチベーションもあがりました。保護者や地域の方から多くの賞賛の声をかけていただきました。

読み聞かせ活動～全学年への絵本の読み聞かせ～

3学期にゲストティーチャーを招聘し、全学年を対象に絵本の読み聞かせをしていただきました。楽しい絵本、考えさせられる絵本など、発達段階に応じた選書をしていただき、子どもたちに大好評でした。また、年始に能登半島の震災もあったことから、地震災害に関わった絵本も読み聞かせいただいたことで、1月17日に実施した避難訓練と併せて、防災教育にも有効な取組となりました。



【今年度のまとめ】

自然環境学習では、ホタルの舞うビオトープに向けて、学びをつなげていくことができました。マーチングバンドの活動では、コロナ禍以前のように練習や発表ができ、子どもたち自身はもとより保護者や地域の方にも大変喜んでいただけました。絵本の読み聞かせでは、ゲストティーチャーの巧みな読み聞かせに、子どもたちは釘付けでした。

【来年度に向けて】

阪阪小学校との統合に向けて、新校舎建設の工事がはじまりました。そのため、ビオトープは一旦取り壊され（令和8年度に新設決定）、バタフライガーデンも来年度半ばには狭小となる予定です。そのため、活動内容については、ご指導いただいている方とも改めて相談しながら活動を継続していきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域とのふれあい、人・もの・こと との豊かな体験活動を通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる

【今年度の取組紹介】

学習支援事業（菜の花プロジェクト・郷土学習・紙漉き体験・昔遊び体験等）

菜の花プロジェクトは、菜の花の栽培・菜種油奉納の体験と、世界遺産・気候変動問題に関する学習を通して、自分事として何ができるかを考え実践することを目指しています。PCを用い1年の取組をポスターにまとめ、校内掲示しました。郷土学習や紙漉き体験では、ゲストティーチャーお招きし地域の歴史や変遷について教えていただいたり、奈良の伝統工芸に触れ、体験させていただいたりすることで、生まれ育った地域を大切にしようとする心を育てます。学んだこと・考えたことを市外の小学校との交流会で発信します。昔遊び体験では、地域の名人さんと一緒に楽しむことで、ゲーム機では味わえない暖かいふれあいを感じとり、できた喜びを味わうことで笑顔いっぱいになりました。



読書推進事業（絵本の読み聞かせ）

季節や学校行事、発達段階に応じて「お話したつきゅうびん」の方に素敵なお話の読み聞かせをしていただきました。「今日はどんな絵本かな？」とチラシを楽しみし、終わった後に意欲的に感想を言うなど読書意欲が高まりました。



見守り安全事業（登下校の見守り・命を考える集会）

見守り安全の方が毎日登下校の見守りに携わっていただくことで子どもたちは安心して学校に通うことができます。「命を考える集会」で自分たちの安全を見守って頂いていることへの感謝の気持ちを手紙に書き、全校朝会で手渡しました。



環境整備事業（花いっぱい運動・図書室の整備・学年園の整備）

学校の花壇や自分の植木鉢に花を植えることで、みんなが過ごしやすい学校の環境を整えたり、卒業式等の会場を華やかにしたりしています。また、ボランティアの方が定期的に図書室の新刊のブッカーかけや学年園の植物の管理に来てくださることで学習環境がより良いものになりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍以前のようにたくさんの地域の方の協力をいただき、「菜の花プロジェクト」を中心にそれぞれの事業を進めることができました。また、それぞれの活動における新たな担い手・協力者を得るために、ボランティアの募集のチラシを作成し自治会を通じて配布しました。地域の方の『子どもたちのために協力したい』という熱い思いの中、子どもたちは豊かな学びを得ることができました。

【来年度に向けて】

ボランティアの高齢化および児童数減少の中、今後も持続可能な形でそれぞれの事業を進められるよう、ねらいを再確認したり、これまでの活動内容を見直したりする必要があります。また、子どもたちの現状を踏まえ、授業支援に関する新たな活動をスタートできればと考えています。そのため、これまで以上に地域コーディネーターと連携し、目標を達成できるように取り組んでいきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標 地域の自然環境や様々な人との関わりを活かした体験活動を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、佐保幼稚園で学んだことを誇れる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

◆のびのびクラブ（わくわく学習支援事業）

今年度から年間8回、総合型スポーツクラブのコーチに来ていただき、体を動かす楽しさや面白さを感じながら体幹を鍛えることを目的に、「のびのびクラブ」を実施してきました。季節や発達に応じて玉入れやリレー、縄跳びに繋がる体の動きを、そして回を重ねるごとにドッジボールやサッカーなどの集団でルールのある内容を楽しみながら、経験することができました。子どものいきいきとした姿を保護者にも伝えたいと考え、再度参観日にその内容を親子で行ったり、自由参観の日をつくったりし、保護者へ啓発する機会をもちました。また、子ども達は、この活動で経験したことを友達と更に考え遊びに取り入れたり、続けて挑戦したりするようになりました。



◆大佛鐵道のことを知ろう！（わくわく地域連携事業）

子ども達は、保育の中で絵本「イナヅマごうがやってきた」を見たり、大佛鐵道公園への園外保育に行ったりし、大佛鐵道に親しみをもっていることから、今年も大仏鐵道研究会の方に話を聞くことにしました。当日は、話の前に当時の物を模した赤い切符をもらい、蒸気機関車に乗った気持ちで話を聞いたり紙芝居を見たりしました。自分達が暮らす地域や歴史に興味をもつ貴重な経験やきっかけになりました。



【今年度のまとめ】

感染症対策や制限が緩んだこともあり、改めて子どもの実態と育てたい子どもの力や姿を見直し、各事業に繋げて進めてきました。どの活動を通して、特に関ってくくださる方の表情がわかり、会話ができ、ふれあうことができるようになったことは、子ども達にとってとても大きなことでした。そのことで、地域の方々にすぐに親しみをもって関わることができ、取り組む子どもの意欲もより高まりました。また、保護者への啓発の回数も増やし、この活動への理解や保護者の地域への関心も高めることができました。

【来年度に向けて】

人との関わり、人とのつながりを大切に、これからも地域の方々の力をお借りしながら、豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てるために、今年度の事業を継続し深めていきたいと思います。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域や小学校との連携を密にし、世代を超えたふれあいや体験を通し、豊かな心と夢を育む。

【今年度の取組紹介】

- ◆体力づくり事業では、今年度新たにバスケットボール教室を取り入れ、講師を招いてボールを使って遊ぶ楽しさや、ボールをつくまでの遊びを年齢ごとに、段階を得て教えていただきました。子ども達は講師の話をしっかり聞き、難しいことにも挑戦して楽しむ姿がありました。フラフープ教室も引き続き楽しみ、「～できるようになった」と講師の先生に嬉しそうに報告する姿もありました。
- ◆伝統文化ふれあい事業では、地域で活動されている『宝亀殿』の方に来年度は子ども達の演奏も見ていただくことが出来、和太鼓の楽しさを引き継いでいっています。
- ◆おはなしの会事業では『右京おはなしの会』の方々に来ていただき、子ども達は紙芝居や絵本の読み聞かせや素話、手遊びなど様々な「おはなしの世界」を楽しんでいます。始まる前にろうそくをつけ、終わりに歌と共にろうそくを吹き消します。集中して話を聞く力に繋がっています。



【今年度のまとめ】

地域の方々に暖かく見守って支えていただき、様々な体験をすることができました。継続している取組では、指折り数えて楽しみにして待ったり、いつも来ていただいている方に親しみをもって挨拶したりしています。そしてできるようになったことを嬉しそうに見せ、「できた」という達成感や充実感を味わうことができました。

【来年度に向けて】

これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、これらの事業や活動を保護者や地域の方へさらに啓発していきながら、こども園教育、保育への理解や地域に開かれた園としての役割を果たしていきたいと思います。

めざす子ども像 **地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標 **「つなげる力を育てよう」**

【今年度の取組紹介】

文化発表会では、中学の図書ボランティア協賛で図書室を公開し、新刊の紹介や、特集記事の展示が行われ、今回は特に、NHK 朝ドラ「らんまん」のモデル牧野富太郎博士の植物図鑑や、毎年人気のしおり作りなどが、多くの生徒たちでにぎわっていました。

ボランティアさんは、図書のブッカー掛けや補修はもちろん、図書室を気軽に活用してもらいたいという願いから、レイアウトの変更や、昼休みの開放、図書の貸し出し数をポイント制にし、特典を付けるなど、さまざまなアイデアを出し合い、日々活動しています。



年3回行っている漢字検定は、校区の小学4年生から中学生を対象に、申し込みを受け付けていますが、今年度から、さらに多くの学生に受検の機会を設けるため、校区以外でも姉妹兄弟であれば受検可能としました。

大学生参画事業で来ていた学生が、当日の準備、設営、子どもの誘導、注意事項の説明、机間巡視などを経験しました。



【今年度のまとめ】

コロナが5類に移行し、学校行事や授業スタイルも従来のように戻りつつあり、活動も増えた1年でした。こども園や幼稚園での、園外保育引率補助、小学校では、新入生下校見守り、家庭科や図工授業補助の要請があり、絵本の読み聞かせ、昔遊びなど、直に子どもたちと触れ合い、いろんな表情を感じることができました。

【来年度に向けて】

さらに、活動を明確に、より効果的に進めるために、現場の先生方と、情報を共有できるよう考えていきたいです。

めざす子ども像

地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

『つながる力をそだてよう』 ～「伏見中 大好き！」と心から言える日のために～

地域と共に育つ生徒の育成

【今度の取組紹介】

◆しおり作り【読書活動推進事業】

図書ボランティアさんには毎年、「ふれあい文化発表会」の際にブッカーの貼り方講習会や推薦図書の読み聞かせなど、一緒に活動する時間を設けていただいています。今年度は4年振りに

「しおりづくり」を一緒に行うことができました。ボランティアさんたちに教えていただきながらオリジナルのしおりを完成させた生徒たちは、とても満足そうでした。昼休みの図書室開放時間にも持参し、大事に使っている様子です。

また、『図書ボランティアが選んだ、心に響く言葉たち』と題した展示物も作成していただき、生徒たちがよく通るところに掲示しました。興味深げに読む子、図書室にきてその本を借りていく子、と読書に対する意識を向上させることにつながりました。



◆図書室環境整備（通年）

中央図書館の司書さんが来校される時に合わせて、ボランティアさんたちも来てくださっています。司書さんの専門的なご意見をお聞きしながら、本の配置、新刊の選書等おこなっています。昼休みの開館時には生徒たちと話をし、希望図書の聞き取りや、おすすめ本の紹介をしてくださいました。図書室に行く生徒数が増え、本に親しむ機会が多くなったと感じています。来年度以降もさらに充実した取組にしていきたいと考えています。

【今年度のまとめ】

今年度は文化発表会と合唱コンクールに地域の方々をお招きすることができました。文化発表会で図書ボランティアさんたちと生徒たちが共に生き活きと活動する姿を見ることができました。地域の行事も復活しつつあり、準備や運営のお手伝いなど、地域ボランティアに参加することもできました。地域の方々にも改めて中学生の若いエネルギー、力を感じていただくことができました。

【来年度に向けて】

これまで取り組んできたことを大切にしながら、地域に開かれた学校として、コーディネーターさんたちとの話し合いの場、情報交換の回数を増やし、新しい取組にも挑戦していきたいと考えています。

めざす子ども像 **地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども****取組目標** 「いきいきわくわく地域とともに」～伏見でふれ合い、学び、育つ伏見っ子
～地域に根ざした「自ら学ぶこども 心豊かな子ども たくましい子ども」の育成**【今年度の取組紹介】**

主な柱を「地域連携による『伏見まつり～子どもの笑顔が地域を笑顔に～』の開催」「地域文化遺産学習等を通じた学校教育活動の充実」「共同環境整備作業や本の補修作業等を通じた学校環境整備」として取組を進め、いくつかの取組を実施しました。

「子ども見守り活動事業」では、子どもの登下校の時間に多くの地域の方々に通学路に立っていただき、子ども見守り隊の方々にパトロールをしていただき、安全を見守っていただきました。

11月には「伏見まつり」が開催されました。小学校、伏見公民館、ふれあい会館の会場は、各団体の出店や警察や消防、自主防災による体験コーナー、体育館や公民館などでの展示や発表などが行われました。また、3か所の会場を回るスタンプラリーも行われ、多くの参加者で大盛況でした。

学校園を整備して子どもたちが気持ちよく過ごすことができるように、たくさんの花を植えてくれました

このように、多くの方々が、より良い学校環境づくりに力を尽くしてくださいました。

**【今年度のまとめ】**

- ・教育活動の活性化、地域拠点としての学校機能の維持向上、子ども・地域・学校相互のより良い関係形成の面において、次のような様子から一定の効果を得ることができたと考えています。
- ・地域の方との交流の機会が少なくはなりましたが、その中でも、子どもたちが地域の方との活動を通して、地域に対する愛着や関わってくださった方々への感謝の気持ち等が育ってきました。
- ・学習を通して、子どもたちが自分にできることを考える等、心豊かでたくましく育つ素地となる活動や体験を行うことができました。

【来年度に向けて】

諸活動に携わってくださる方の世代交代や新たな人材の参加は徐々に進みつつありますが、継続的かつ安定的な人材の確保が課題であると考えます。また、働き方改革の観点からも、事業の見直しの必要があると考えます。地域の方のボランティアとしての参加方法や教職員の地域行事への参加方法を検討していく必要があると考えます。今までのあたりまえを見直していく観点からの取組の検討も必要であると考えます。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

「出会いと体験から豊かな学びを」ー地域ぐるみの子育てー**【今年度の取組紹介】****【読書活動推進事業】**

「図書ボランティア」の方には、節分の時期に合わせて、自作の紙人形・脚本を用いたパネルシアター劇で、鬼にまつわる本の紹介をしていただきました。また、各学年の教科書に掲載されている物語的な文章の作者の本を紹介いただき、並行読書を推奨いただきました。「お話の会」では、各クラスで本の読み聞かせをしていただき、読書の楽しさを紹介いただきました。図書館や交流スペースに特設コーナーを設置いただいたり、本の修繕をしていただいたりと図書館教育・読書活動の推進の充実にお力添えをいただいています。本との出会いを通して、心豊かな子に育ってほしいと願っています。

【授業サポート事業・環境支援事業・地域交流事業・安全見守り事業】

豊かな体験を通して学びを深めることができました。たくさんの地域の方にお力添えをいただき、子どもたちの成長を見守っていただいています。

**【今年度のまとめ】**

「継続すること」を大切にしながら、各活動内容の一層の充実を考えての取組となりました。コーディネーターを中心に学校に地域の方が集まっていただき、学校と地域の連携がさらに深まり充実した取組が実施できました。ご協力いただいたすべての方のご尽力をもって、質の高い体験を通して子どもたちが「心豊かに育つ」学校教育が展開できたと考えております。

【来年度に向けて】

本事業の充実をすべての関係者の皆様のお知恵をいただきながら、「地域に誇りを持ち心豊かに共に生きぬく子どもの育成」に向けた取り組みを継続・発展させていきたいと思います。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

自分たちが暮らす地域に親しみを持ち、地域の人たちに支えられていると感じられるような取組の充実。

【今年度の取組紹介】

◆ 昔あそび【地域に学ぶ事業】（1年生）

毎年子どもたちに「昔あそび」を教えに、地域のボランティアの方々がご来校くださいます。子どもたちも楽しみにしている行事の一つです。コマ回し、あやとり、カルタ、けん玉、お手玉など、様々な遊びを教えてください、一緒に楽しむことができました。

この交流を通して、地域の方々と子どもたちとの繋がりが深まり、子どもたちが自分の町を好きになる大切な行事となっています。



◆ 「地域」についてもっと知ろう。【地域に学ぶ事業】（3年生）

校区の施設を見学し、施設の利用者の方からお話を聞きました。そこでの出会いをきっかけに自分たちで校区にある他の施設についても調べ、「私たちの校区」というテーマでポスターセッションをしました。地域の方との交流を通して、子どもたちとの繋がりが深まるとともに、感謝の気持ちを届ける取組となりました。



【今年度のまとめ】

今年度は、年間通じて環境整備事業・読書啓発事業・地域に学ぶ事業を中心に実施することができました。地域に学ぶ事業では、地域の方々にゲストティーチャーとして来校していただき、「昔遊び体験」（1年生）・「ケナフで感謝の気持ちを伝えよう」（2年生）・「「地域」についてもっと知ろう」（3年生）・「防災体験」（4年生）・「地域遺産学習」（5年生）・「平和学習」（6年生）等を実施できました。地域の方がゲストティーチャーとして来校していただくことで、地域の方とつながりが生まれ、子どもたちが地域に愛着を持つ良き体験事業となりました。来年度はさらに、より豊かな体験活動ができるように計画していきたいです。

【来年度に向けて】

来年度も読書啓発事業・環境整備事業・地域に学ぶ事業を中心に子どもたちがより地域に親しめるような体験活動を実施していくとともに、子どもたちにより豊かな体験活動ができるようにコーディネーターと協議しながら進めていきたいです。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく**子ども**

取組目標

身近な人と人との輪の中で、豊かに学び、自ら考え行動する子どもを育成する。

【今年度の取組紹介】

～地域の人と一緒に楽しもう事業～

【お茶を楽しもう】

年3回、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、お茶の挨拶や作法について教えていただいたり、お茶の栄養や道具についてのお話を聞かせていただきました。普段の生活の中でも教えていただいた正しい姿勢や挨拶の仕方などを思い出しながら、日本の伝統文化に親しむことができました。



【奈良自動車学校 交通安全教室】



地域の教育力を活かし、奈良自動車学校で交通安全について教えていただきました。信号や道路標識についてわかりやすく教えてもらい、実際に教習コースを歩きながら、危険箇所や危険な場面を避けるための行動の仕方などを教えていただきました。また、地域のボランティアの方に道中の安全見守りや、一緒に参加していただいたことで、地域の方へ親しみや、感謝の気持ちをもつことができました。

【今年度のまとめ】

地域の方やゲストティーチャーとの体験活動は、ふだん経験できないことに触れる機会となり、子ども達にとって豊かな学びとなりました。また、地域の方々がいつも温かく接してくださることで、回を重ねるごとに、子どもたちは親しみを感じ、自分から挨拶をしたり話しかけたりするなど積極的に関わっていく姿につながりました。子ども達は毎回活動を楽しみにしており、園での活動が地域とつながり合う場となりました。

【来年度に向けて】

来年度は民間移管しますが、今まで西大寺北幼稚園として築いてきたつながりを絶やすことなく事業を継続していきたいと思えます。地域の方や子ども達が安心して活動に取り組めるように、様々な安全対策を講じながら、園、地域、家庭と連携し、子どもにとってよりよい心豊かな体験ができるように、保育の内容を検討し計画していきたいと思えます。

めざす子ども像

地域に誇りをもち、心豊かに、**共に生きぬく子ども**

取組目標

「地域とのつながりを感じる・広げる・深める」

～地域の教育力を活かし、心揺さぶられる感動体験の充実と心豊かな子どもの育成～

【今年度の取組紹介】

◆地域のゲストティーチャーを招いて体験活動（体験学習事業）

“サッカー教室”では、ゲストティーチャー（コーチ）との交流を通して、ボール遊びに興味をもって体を動かす楽しさが味わえるように年5回実施しました。子ども達はボールを使った様々な遊びに夢中になって、挑戦したり、できるようになったりする楽しさを味わうことができました。コーチの温かい励ましに自尊感情が高まり、子ども達は積極性が増していきました。活動を通して、友達と一緒に関わりながら「足でボール止められたよ」「シュートきまった!」と、できた喜びや充実感を味わうだけでなく、諦めずに挑戦する中で、集中力や判断力、コミュニケーション力など、たくましい心と体を育むことができました。



“ABCで遊ぼう”では、日本語以外の言語があることを知り、英語を使って遊ぶ楽しさを感じたり、外国の文化に興味や関心をもったりする機会となりました。活動では、英語の絵本や絵カードを使ったり、ゲームや手遊びなどのコミュニケーション遊びなど、回を重ねるごとに「Hello」「How are you?」と、積極的にゲストティーチャーと関わりながら、英語で話すことを楽しむ姿が見られました。3学期には、教わった英語を劇遊びに取り入れて言葉のやり取りを楽しむ姿もあり、経験を通して、英語を身近に感じながら、自己表現や自己発揮をする姿につながりました。

これらの活動は、子ども達の成長の姿を自由見学という形で保護者にも参観いただき、啓発の場としました。子どものいきいきとした姿に、「家では見られない姿に驚きました」「楽しそうに過ごしている様子を見て安心しました」「家でもたくさん褒めたいと思います」「3年間の育ちがよく分かりますね」などと、共に成長を喜ぶ声が聞かれました。子育て支援の充実に伴い、育児軽減を求める時代になった今だからこそ、たよりやHPだけでなく、子ども達が体験する生の姿や成長の様子を見ていただくことで、保護者の関心を高める機会になったと考えます。



◆地域の方と「いきいき広場」でふれ合い交流（地域交流事業）

地域の方を招いて年2回の「いきいき広場」を実施しました。その中で、今年度は創立70周年という節目の年でもあり、たくさんの地域の方を招いて、記念をお祝いしながら、音楽交流会を行いました。一緒に歌を歌う、手品など先生からの出し物、地域の方と一緒に楽器遊び、プレゼント交換など、様々な活動を通してふれ合いを楽しみました。また、リズム室を素敵に飾って一緒に給食を食べました。「給食おいしい?」「もうすぐ1年生だね」「好きな食べ物は?」など、地域の方と会話が弾みます。その後、「これは泡でつくったマグネットだよ（園児）」「これで靴紐結びの体験をしてね（地域）」と、手作りのプレゼントを交換し合いました。コロナ禍に伴う人数制限を解除し、たくさんの地域の方にお越しいただいて交流ができ、親しみをもって全身でふれ合ったり、温かい心にふれたりして、思いやりや感謝の気持ちをもつことができました。

【今年度のまとめ】

今年度は、全学年で取り組んだり、人数制限なく保護者や地域の方にお越しいただいたりして、たくさんの人との関わりにより、体験活動や地域交流の充実につなげることができました。また、コロナ禍での人との関りの希薄化が課題となっていたことから、地域の教育力を活かした活動内容を検討し、工夫したことで、コミュニケーションをとる楽しさや人とふれ合う喜びを味わう体験もできました。

そして、地域や保護者に子ども達の活動の様子を知っていただき、成長を実感したり、共に喜び合ったりして、園・地域・家庭が一体となって子どもの成長を見守る大切さを共有することができました。

【来年度に向けて】

地域では、後継者が課題となっていることから、保護者も地域の一員となり、園での活動を拠点に、園・地域・家庭とのつながりを「感じる・広げる・深める」ための活動内容を検討していきたいです。

そして、持続可能な体制を構築し、地域と共に心豊かな子どもの育成をめざしていきたいです。

めざす子ども像

取組目標

『命や人を大切にする子』『感謝の気持ちを大切にする子』『夢に向かって進める子』『富雄を愛する子』
幼稚園からの11年間の学びの連続性を支えられる地域学校連携事業であるために、目的、課題を確認しつつ丁寧に取り組む

【今年度の取組紹介】

例年取り組んでいる「防災学習」ですが、昨年度はまだコロナ禍の影響があったため、「防災チャレンジ」と題して人が密集することを避けた半日のイベントになりました。地域の方、親子連れなど様々な方に参加いただき、中学生も主催者側のお手伝いができ、ある程度は目的が達成できたかと思いますが、課題も多く、特に「子どもの学び」に対する視点の弱さがありました。

そこで今年度は4年ぶりに「富雄子ども避難所生活体験」を復活させるにあたり子どもたちが参画し、自ら学ぶ工夫を学校と共に考え実施しました。

中学校で実施している避難訓練にウェブ防災講演を組み込み、東北の震災で実際に避難所を運営された方から中学生の活躍の姿を紹介いただき「助けられる側から助ける側へ」と意識付けを図ったうえで「防災学習」実行委員会のメンバーを中学生から募集しました。そこに高校生、大学生が加わり、企画の最初の段階から子ども達の意見を反映させました。

奈良教育大学のボランティアサポートオフィスの協力も得て、小学生と中学生が中学校の体育館で1泊2日を過ごし、いざという時に自分は何ができるのかをテーマに体験しました。地域からの積極的な協力もあり、充実した体験となりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍で制約があっても、ほとんどの取組を中止することなく工夫をして実施してきましたが、制約がほぼなくなっても完全に以前の状態に戻った訳ではありません。戻るのではなく、さらに前進させるためにも目的や課題をしっかりと見据え、「子ども達の主体的な学び」をどのように支えるのか、協議会としても学びを重ねる必要性を感じています。

来年度に向けてどの部分に注力するのかを明確にするため、協議会で熟議を実施できたのは大きな成果となりました。

【来年度に向けて】

来年度の活動に向けて、協議会として子ども達に着けたい力を「自己決定力」「人と関わる力」「回復する力」と明確にしたことから、継続して実施している取組にどのように反映させるのかを考える必要があります。取組は目的を達成するための手段であるという考え方を忘れずに、学校と地域の連携、共通理解を図っていききたいと思います。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子、夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子、富雄を愛する子**

取組目標

地域と一体になった活動を通し、めざす子ども像に合わせた取組の充実。教職員における地域との協働意識の向上。新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせた事業の工夫と実施。**【今年度の取組紹介】**

今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ禍前の取組に完全に戻すわけではなく、現況に応じた効果的な取組を模索しながら計画・運営に取り組みました。

キャリア教育では1・2年生ともに多くの講師先生をお招きし、様々な職業や「働くこと」について学びを深め、自身の将来について考える良い機会となりました。3年生では、実際に企業で人事を担当している方々に来校していただき、面接の受け方や話し方について学ぶ貴重な時間をもつことができました。また、東日本大震災の際に、避難所開設・運営に携わられた講師先生によるオンライン講演を、避難訓練の前に実施し、防災意識を高めることができました。その取組にて防災に興味をもった生徒数名が、地域防災活動の一環である「避難所生活体験」にて、大人に混じり実行委員として加わり、企画・運営できたことは学校としても地域としても非常に嬉しい動きでした。その他、生徒の表現力向上のため、「富中川柳」、「ベルマークプレゼンテーション」、「ビブリオバトル」の機会も引き続き設定することができました。

**【今年度のまとめ】**

例年実施している取組についても打合せを実施し、アップデートを図りました。また、取組事後に教員とコーディネーターが生徒の感想等も参考にしながら次年度に向けての改善点について検討も行いました。生徒や社会の実情から新たな取組や新たな視点を取り入れることも柔軟に行えました。生徒の約93%がアンケートにおいて、「地域と学校が連携しながら自分たちを育てようとしてくれている」と肯定的な回答をするなど、地域の方々に温かく見守られ、支えられていることを実感していることも分かりました。

【来年度に向けて】

生徒の多くが、地域に貢献したい思いはもっているものの、実際に活動できた場面は限られていました。地域貢献を行う場は設定しているものの、参加へのハードルがあるようなので、生徒の自主性を最大限に尊重しつつも、教員から「ポン」と生徒の背中を一押しするような言葉かけや取組を実施していこうと職員で共通理解を実施しました。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子 感謝の気持ちを大切にする子
夢に向かって進める子 富雄を愛する子**

取組目標

- 地域人材や保護者ボランティアを活用した体験型学習を通して、考えて判断する力を高める。
- 活動から分かったことや考えたことを地域ボランティアや保護者に伝える機会をもつことで、表現力、発信力、コミュニケーション力を高める。
- 人とのふれあいの中で、挨拶や感謝の思いを大切にする。

【今年度の取組紹介】

6年 みんなでポッチャをやろう！（総合学習）

6年生は「福祉」をテーマにして、みんなと安心して暮らせる町づくりについて考える学習を行いました。ポッチャ大会を通して、友達を応援したり、友達と共に喜んだり悔しがったりして、みんなが同じ思いをもって楽しむことの良さについて考えました。ポッチャの他に、車いす体験・認知症講座などのシリーズ学習を通して、自分の思いを伝えること、周りの人の思いを知ること、自分にできることを考えることの大切さを考えることができました。



盛り上がったポッチャ大会

5年 富雄はどんな備えをしているのか？（総合学習）

5年生は「防災」をテーマに、命を守るためにできることについて考える学習を行いました。「人と防災未来センター（神戸市）」に行き、震災の怖さや人の働きについて学んだ上で、地域の防災士さんから「自助・共助」の大切さについてお話を聞いたり、防災倉庫の中を見せてもらったりして、災害への備えの大切さについて知りました。学習後、「けがをした人を担架で運びたい」というような守られる側ではなく守る側の考えをもつ子も多くいました。ミニ防災士の誕生です！



防災グッズ紹介

メモリアルコーナーの活用（広報活動）

昨年2月、学校玄関を入ったところに、学校や子どもたちの様子を発信するメモリアルコーナーが設置されました。このコーナーに広報誌『コミスクだより』を掲示したり、大型テレビにスライドショーを流したりして、学習支援の様子や地域の方との交流活動について発信しました。コーナー前で、「友達がうつっているよ」と喜ぶ子や、展示物に見入っている保護者・地域の方の姿がうかがえました。



メモリアルコーナー

【今年度のまとめ】

年間通じて、全学年で、地域の方に学習支援をいただきました。「地域の方との体験学習」について、児童の93%が「やってよかった」、保護者の95%が「有意義だった」と回答がありました。活動後、「もっとやってみたい」「今度は自分でも挑戦したい」といった思いを発表する子も多く、地域の方々に見守られながら、教えてもらったり、ほめてもらったりしていただいたことは、子どもたちの自信や意欲につながりました。

【来年度に向けて】

これからも富雄のすばらしい「ひと」「もの」「自然」「歴史」との出会いやふれあいを大切にして、「富雄を愛する子」を育てていきます。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

- ・ゲストティーチャーを招聘するなど、多様な人との関わりを通して、より良い人間関係を作り、夢をもって自ら学ぼうとする児童を育成する。
- ・地域の方と共に活動することで、人と出会うことの楽しさ・素晴らしさ、地域の良さを知ると共に、地域に対する誇りと自信、地域を愛する心を育てる。

【今年度の取組紹介】

○学習支援ボランティア事業（3年生）

たくさんの地域のボランティアの方に、3年生の「ならまち探検」の支援をしていただきました。ならまちでは、子どもたちがグループに分かれて、ならまちを探索するのをボランティアの方に見守っていただきました。子どもたちは、自分たちで回る順番をグループで話し合い、自分たちで行動できたことも大きな自信になりました。



○体験学習事業（1、2年）

1、2年生は、地域コーディネーターの方の協力により「大紙芝居」の鑑賞をしました。昨年に引き続いての取組でしたが、子ども達は畳1畳の大きな紙芝居に吸い込まれるように鑑賞していました。「二月堂良弁杉」「飛鳥山の地蔵」のお話をしていただき、地域のことを知り、興味を持ち、地域を愛する子の育成のきっかけづくりになりました。



【今年度のまとめ】

今年度も地域コーディネーターの方のご協力のもと、たくさんの支援をしていただきました。今までの事業の見直しを行い、同じ形で実施できる取組・形態を工夫してできる取組・新たな取組に仕分けを行いながら地域ボランティアの方等に協力をいただき予定通り実施することができました。特に、図書活動支援事業では、たくさんの地域の図書ボランティアの方が参加してくださり、図書の本のブッカーかけや季節感あふれる掲示物を作成していただきました。今年度は、本の貸し出しシステムの変更にともなう本のバーコードの貼り替えもしていただきました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方のお力を借り、めざす子ども像の実現に向け、子ども達にとって地域の方に親しみを感じ、様々な体験ができる活動を継続していきたいです。今までの取組を考え直し、工夫して実施することにより、取組目標が達成されるよう工夫改善しながら実施していき、地域の方と教職員がつながる場面を拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**取組目標

○様々な事業を通して、地域の人と触れ合い、関わりながら、コミュニケーション力を高めたり、知らないことを知る喜びを味わったり、感動したりしながら豊かな心と体を育てる。

○事業内容の方法や回数を見直しながら継続し、協働していく。

【今年度の取組紹介】

◎＜剣道教室＞日本の心、伝統文化を学ぶ

剣道教室では、講師の先生が剣道着を付けておられるのを見て、「かっこいい」と目をキラキラ輝かせている子ども達です。竹刀の振り方、声の出し方はいつも以上に力が入っていました。

日本古来の武道の基本精神である「礼に始まり、礼で終わる」の精神を学び、相手を敬い尊敬する気持ちをもつことの大切さと自分の心を整えコントロールする方法を知りました。



◎＜みんなでABC＞様々な国、異文化を学ぶ

ポイント・クリアの講師の先生と一緒に英語の歌を歌ったり、踊ったり、絵本やカードを見ながら英単語を言うなど「みんなでABC」では英語に触れてきました。ハロウィンの時期には大きな声で「Trick or Treat」と言いながら先生との英語のやり取りを楽しんでいました。色や動物の英単語や歌を覚え、園生活の中で使ったり、友達との遊びで使ったりする姿があり、簡単な英語から異文化への興味につながりました。

**【今年度のまとめ】**

園の行事を中心に様々な場面で地域コーディネーターや地域の支援者の方にサポートしていただき子ども達だけでなく保護者ともつながりを深めることができました。保護者アンケートでも高く評価していただいたり、地域コーディネーターの方からも率直な意見を聞いたりしながら取組の高評価を得ました。地域の方に温かく見守られ、感謝の気持ちや思いやりの心を育んだり、地域のすばらしさを知ったりしながら、子ども・保護者・地域の方が一つになって、心に蓄積される体験となりました。

【来年度に向けて】

コーディネーターの方々と一緒に人とかわり、人とつながりが持てる体験活動になるように計画・実践・振り返りをしていくと共に、保護者や地域の方々にも園の取組をさらに理解していただき協力が得られるような啓発活動にも努めていきたいです。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子

感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

○様々な活動行事を通して、地域の方と触れ合い、コミュニケーション能力を高めたり、興味や関心の幅を広げる。

○幼児の心身に直接働きかける生の体験を充実させ、意欲や活動を楽しむ態度を育てる。

【今年度の取組紹介】

○「お話の会」

学期に一度、地域のお話サークル「泉のたまご」さんに来ていただき、お話の会を行っています。絵本・紙芝居・大型絵本に加え、素話もしていただきます。

季節の行事や物語など、様々なジャンルのお話で、登場人物によって声色を変え、楽器を使った効果音も入れてくださることで、子ども達はあっという間にお話の世界に入っていきます。笑ったり、ちょっと涙ぐんだり、感情も揺さぶられ、まさに心が動く体験をさせていただき、豊かな心の育ちへとつながっています。



○「生け花教室」

今年度は初めて「生け花」に挑戦しました。先生が用意してくださるお花の中から、自ら選び思い思いに生けていきます。先生は手直しはされず、花がうまく給水できるアドバイスと、生きているお花への心配りをお伝えされるのみで、すべて子ども達自身が仕上げていきます。命の大切さと、表現することの楽しさが体感できる良い機会となりました。



【今年度のまとめ】

今年度も、コーディネーターの方々と相談し、ボランティアやゲストティーチャーのご協力により、保育・教育内容を充実させることができました。活動の継続で地域の皆様と顔見知りになり、親しみを感じながらの活動で、感謝の気持ちがうまれています。さらに新しいことも取り入れることで、子ども達の視野が広がり、豊かな心の育ちにもつながっています。

【来年度に向けて】

園児数が大幅に減少することから、コーディネーターの方々、小学校、地域の皆様のお力を借り、引き続き様々な人と触れ合い、豊かな体験ができるように進めていきたいと思ひます。また活動について、保護者だけでなく多くの方々に知っていただく為、発信にも努めたいと思ひます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

すべての園児・児童・生徒に15年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることによって「自己有用感」の育成を図る。

【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症の防止対策を行いながらの開催でしたが、様々な事業を以前の活動に近い形で実施することができました。

SAKURA夢フォーラムでは昨年度は一部オンラインでの配信になりましたエニアグラム講習を対面で行うことができました。

SAKURA夢フェスタでは玉城ちはるさんの「命の参観日」を体育館に中学生全員が揃って鑑賞することができました。また、学校園・地域の方々の協力で模擬店や恒例の綱引き大会も復活することができました。

SAKURA夢スクールも英会話・編み物の2講座を実施することができました。



【今年度のまとめ】

コロナ前に行われていた全ての事業を以前とほぼ同じ形で実施することができ、地域の多くの方々が参加してくださり、つながることの大切さを改めて感じることができました。

【来年度に向けて】

- コミュニティールームを活用して地域人材の協力をいただき、不登校や学校生活に入りにくさを感じている生徒に生活リズムを作ることや、教室へ入っていく前段階としての居場所づくりを検討しています。
- 各学校園で協力いただいているボランティア人材を中学校区の地域全体で活用できるような基礎をつかっていきたいです。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

自己有用感を育成し高めることで、学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。

【今年度の取組紹介】

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりました。今年度からはいよいよ様々な規制が緩和され、本格的に様々な活動を再開することができました。その結果、これまでの活動に今年度の活動が重なり、生徒と地域の方々との絆がより一層育まれることになりました。これは、生徒たちへのアンケートからも「地域とのつながり」を高く意識しているという回答をたくさん得ていることから、その事実が裏付けられました。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力をいただき、読書推進活動がすすみました。今年度からは、生徒の自由な図書室利用が再開し、それに向けた安心・安全な図書室へのレイアウト変更と運営を行っていくことができました。

**【今年度のまとめ】**

今年度はようやく本格的な活動の再開にこぎつけることができ、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに取り組むシーンを校内で見ることができました。そのようなシーンを見るにつけ、改めて地域の方々の存在の大きさや交流の大切さを再認識する一年となりました。

【来年度に向けて】

今年度、ようやく一部ながら本格的な活動を再開することができました。来年度からはさらに積極的に活動を再開し「地域に開き、地域と共につくる学校」のテーマにそった事業を推進していこうと考えています。地域の人に学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かでたくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- ともに汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域と学校が連携して学習環境の整備に取り組み、子どもが地域の一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。

【今年度の取組紹介】

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。

○菜の花プロジェクト

今年度も地域の方との協力のもと、菜の花プロジェクトをすすめることができました。地域の方と協力して、昨年度に植えた菜の花を6年生が収穫し、搾油をしました。搾った菜種油は、5年生が世界遺産学習の際に春日大社と興福寺に奉納しました。そして5年生は来年収穫することになる菜の花を植えました。学年をまたいで活動が続いていきます。

○縦割り活動

今年度は、学年をまたいで班を作り、一緒に遊んだりサツマイモの栽培を行ったりしました。栽培活動の指導に地域の方に関わっていただき、一緒にサツマイモを収穫し、焼き芋づくりを行いました。次年度もまた、活動が続けていきたいと考えています。

○講話による学習

今年度、多くの講師の方に来ていただき、命の学習や地域の歴史の学習、生き方や出会いについての学習などの講話をしていただきました。お話を真剣に聞き、いろいろなことを学ぶことができた良い機会となりました。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、コロナ禍から明け、少しずつ活動を増やしていくことができました。体験活動を取り入れたり、講話を聴く機会を増やしたり、学年をまたいでの活動を行ったりと、コロナ禍ではできなかった活動ができ、子どもたちの学習機会となりました。地域の方に関わってもらうことで、地域とのつながりについても実感することができました。

【来年度に向けて】

来年度は今年度の活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることが必要だと思います。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいです。

めざす子ども像**みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども****「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども****感性豊かで、たくましく自立する子ども****地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども****共に汗して働くことのできる子ども****取 組 目 標****活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動の取組の充実****【今年度の取組紹介】**

<読書力向上事業> 今年度もコーディネーターを中心に、年間を通して計画的に朝の読み聞かせを実施できました。読み聞かせの時間を児童らは大変楽しみにしており、終わった後に図書室へ同じ本を借りに行く児童の姿も見られました。同シリーズの本を購入したと報告に来てくれた児童もあり、読書活動推進に確実に繋がっていると考えます。地域の方の中には担任よりも上手に読み聞かせを行う方もいて、「本の世界に引き込まれた。」と担任の先生から報告も。学力向上の観点において意味のある活動であると同時に、地域の方との繋がりもできました。

<児童の安全確保事業> 児童の安全な登下校を実現するためには、地域の方の協力なしでは、実現不可能です。今年度もたくさんのボランティアさんが参加し、登下校の見守り活動をしていただきました。学期の終わりには、地域の方へ感謝の気持ちを伝えるための手紙を渡しました。

<環境整備活動事業・地域交流事業 FURUSATO MIRAI MEETING事業>

環境整備活動事業では、植栽活動、校舎玄関等の飾りつけなどのほか、地域の方と草刈りをしたり、学校の木々の枝打ちで出てきたものを図工で活用したりもしました。地域交流事業では、野菜作りやさつま芋も掘り、近隣の川の調査、生き物の飼育・鑑賞(メダカなどの生物は地域の方が寄付)など地域と子どもたち、学校職員をつなげる活動となりました。また、コロナ前から実施できていなかった地域行事である「千本づき」の餅つき行事を再開しました。地域の方に昔の辰市校区や千本づきについて講演をしていただいた後、餅つきを行いました。地域の方と児童らが餅をつき、地域の方にこねてもらい、教室で食べました。大変好評で、地域に活力を与えることができたと考えています。また、伝統行事を児童らにも引き継ぐ良い機会となりました。昔から辰市校区で引き継がれてきた餅つきの歌を録音し、音楽の授業でも取り入れていきます。



【今年度のまとめ】 今年度は、コロナ禍によりできなかった地域行事を行うことができました。冬のつどい(地域伝統手法である千本づきでの餅つき)や防災教育活動などです。地域連携で行ったこれらの活動は、辰市小のめざす子ども像である「人権を尊重し、社会に出て、たくましく生きる子どもの育成」につながるものであり、取組の意義を感じています。活動を継続し、充実した取組とするためには、地域で決める学校予算事業の予算は必要不可欠なものであり、今後も適切に計画・実施し、有効活用していきたいです。

【来年度に向けて】 事業についての見直しをはかり、地域人材の枯渇解消に取り組む意味で、地域住民と子どもたちで校区のキャラクターを作成し、様々な活動に関連づけていくことを考えています。少しでも地域人材を増やし、本事業に賛同いただき、児童らと繋げる役割を担えればと思っています。学校が地域の拠点となり、地域活性化となる事業を行う中で、地域・保護者・教員が一体となり、児童の育成を行うことが理想です。そのために、学習支援活動や環境整備を継続して実施し、地域の魅力的な人と子どもたちを繋げ、辰市小学校運営委員会が目指す子ども像に来年度も迫っていきます。

めざす子ども像

みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども

「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども

感性豊かで、たくましく自立する子ども

地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども

共に汗して働くことのできる子ども

取 組 目 標

地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す

【今年度の取組紹介】

今年度も地域の方々の多くの協力を得ながら、様々な取組を行いました。「学ぶ力」、「生きる力」の育成に向けては、たくさんの方々に来校いただき実践を重ねることができました。毎年恒例となった「いもほり体験」、「福祉体験」、「地域防災学習」、「家庭科の学習」、「本の読み聞かせ」などを継続するとともに、新たな要素も加えていきました。「福祉体験」については、車いす体験学習やボッチャ体験を行うとともに、限られた時間の中で、多くの体験を子どもにさせたいという思いの中、ボッチャ体験のブースを増やし、地域の方々とボッチャを楽しむことができました。また、ブラインドサッカーのブースもつくり、簡単にその要素にも触れることができました。

今年度については、学習環境を整えることに重点を置くことができました。地域の方々の協力を得て、子どもたちの委員会活動や生活科などの時間に合わせ、学級農園やその周囲の環境について整えることができました。また運動場の整備においても、委員会活動に合わせた準備、活動等のコーディネートいただき、限られた時間の中でできることを地域の方々とともに協働しながら、よりよい明治小学校をつくろうとする子どもたちの姿を見ることができました。

**【今年度のまとめ】**

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん設定することで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い、様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りを持ち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思っています。

【来年度に向けて】

引き続き、地域との連携を深め、新たな取組と人材発掘に努めるとともに、「地域と共に歩む学校」をめざして取組を進めてまいります。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

帯解小学校では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の方と共に活動したり、学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動、聞き取り学習として長年取り組んできました。本年度より、コロナウイルスも第5類となって大半の活動が再開しましたが、この3年間で止まっていた事業をそのまま復活させるのではなく、内容や事業の精選を図りながら実施をしてきました。

図書ボランティア「みなくる」さんによる「本の読み聞かせ」活動では、月に1度全校や学年に絵本の読み聞かせをしてくださり、子ども達の読書推進に貢献してくださっています。5年生における栽培活動においては、地域の方からお借りした田で、実際に粃まきから田植、秋には稲刈りの体験をさせていただきました。身近なお米の栽培に関わり、地域の方とつながることで、地域の良さを知り、感謝の心が育まれています。また、秋のもちつき大会には、地域や保護者の方に多数ご参加いただき、地域の連携を深めたり、地域の方々の知恵を



いただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は、児童の豊かな感性の育成につながっています。今後も『市民と協働した教育を進める』『30万人の市民を先生に』という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現ために、さらに地域の方と子どもたちがつながり、学びの輪が広がることを願って取組を進めています。



【今年度のまとめ】

本年度も、本校の特色でもある地域の方に学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動を実施してきましたが、毎朝の登校見守りや上記活動で児童が地域の方と関わる中で、学校だけでは学べない体験をし、豊かな感性や郷土愛の育成につながりました。地域の方との活動は、学校評価において、児童・保護者共に94.8%の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ、支えられながら地域の歴史を知り、地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の特色を生かした取組を大切にしながら、地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と、豊かな感性をもち主体的に生きる子どもの育成を目指していきたくと考えています。また、取組の内容を多くの方に知っていただき、さらに継続・発展くさしていくために広報にも力を入れていきます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども**
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども**
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども**
- 共に汗して働くことのできる子ども**

取組目標

地域に開かれたこども園をめざし、豊かな心とたくましい体を育む

【今年度の取組紹介】

5月、山町地域環境保全協議会、そして地域の方にご協力いただき、5歳児30名がサツマイモの苗を植えました。たくさんあった苗でしたが「みんなで植えるとすぐに終わったね」と満足気な子ども達でした。秋、長く伸びたツルの先に期待を膨らませ、地域の方に手伝ってもらいながら掘り起こしました。園に持ち帰ると掘り起こしたサツマイモの数を数えたり絵をかくたりして、収穫した喜びを友達と共有していました。焼き芋パーティでは、朝早くから準備をして下さり、子ども達は煙がもくもくと上がるもみ殻の中に、自分たちで洗ったり包んだりしたサツマイモを入れ、焼き上がるのを楽しみにしていました。焼き立てのおいしさを味わう嬉しい体験ができました。

また、年間を通して畑の先生として地域の方に来ていただき、子どもたちと畑づくりや種まき・苗植え、畑の世話の仕方を教わりながら、玉ねぎ・ナスビ・パプリカ・ブロッコリー・白菜など、季節の野菜を育てて収穫する中で、生長の喜びや収穫への期待、そして、食への意欲などにつながる豊かな心の育ちの経験となりました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ感染症が5類に移行後、地域の方の様々な協力や支援のもと、昨年以上に経験や体験を積み重ねることができ、地域の方に親しみをもつなど、人とのつながりが豊かになっていることを子ども達の姿から実感できます。年間を通して野菜や花などに関わることは、すべての生き物の生長に対して子どもも職員も見通しをもつことができ、小さな変化や喜びを感じるなど豊かな心の育ちにも繋がっていると感じています。

【来年度に向けて】

地域や保護者の方の協力を得ながら、子どもたちの学びや育ちにつながるような多様な経験と地域の方とのつながりを大切にしつつ、情報発信もすることでこども園の教育・保育への理解を更に深めていただき、地域に開かれたこども園として事業を進めていきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

- ・ 地域との関わりを通して、お互いを認め合い、助け合い思いやる心を育てる。
- ・ 地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。

【今年度の取組紹介】

菜園活動事業として、サツマイモの苗を子どもたちが植えました。農業栽培経験豊富な地域の方に教えていただきながら、友達と一緒に植えることを楽しみました。「おいもって、どこにできるか知ってる？」の問いかけに「土の中でしょ。絵本で見たもん。」と答えた子どもたちでしたが、収穫の日まで楽しみにしている様子でした。収穫の日、畑はツルだらけでしたが、そのツルを友達と綱引きのように力を合わせて引っ張ったり、地域の方に手伝ってもらったりしながら、たくさんのサツマイモを掘り起こしました。数を数えたり、大きさ比べをしたりして、収穫をみんなで喜び合いました。後日、そのサツマイモを使って『やきいも大会』をしました。子ども達はサツマイモを洗ったり包んだりし、地域の方も一緒に準備や手伝いをしてくださいました。ほっかほかに焼けた焼きいもに大歓声があがり、みんなでおいしくいただきました。そして、その焼きいもを年下の友達にも届けてあげたいと、みんなで届ける優しい一面も見られました。苗植えから収穫して食べるまでの継続した経験ができました。



防災活動事業では、地域の女性防災クラブの方々を講師に迎え“防災教室”を実施しました。命の大切さ、地震・火事等が起こった際にどうすればいいか、ペープサートや紙芝居を使って教えてくださいました。いつ起こるか分からない災害に備えて、子ども達は分からないことをたくさん質問していました。また、交流の機会として、一緒に季節の花を植えました。優しく一緒に花を植えてくださる姿に、親しみの気持ちを持ち、豊かな学びとなりました。



【今年度のまとめ】

地域の方々と触れ合いながら「和太鼓教室」「菜園活動」「防災教室」等様々な体験を通して、みんなと力を合わせることで、自然の恵みを感じることで、思いやりの優しい気持ち等を育み、心を豊かにすることが出来ました。地域の方々と共に活動することは、人と人との繋がりから、地域の方に親しみを抱き、自分達が生活している地域を身近に感じ、感性を豊かにする経験に繋がったと思います。

【来年度に向けて】

保護者や地域の方と共に活動を進め、今までの活動を継続したり、新たな事業も検討したりしながら、様々な人との関わりを大切にして、地域に親しみをもち、地域を大切にする気持ちを育てていきたいと思います。また、ホームページ等啓発方法を工夫し、こども園の教育・保育内容への理解を深めていただき、開かれた地域のこども園になっていきたいと思います。

めざす子ども像 ○みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども ○「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども ○感性豊かで、たくましく自立する子ども ○地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども ○共に汗して働くことのできる子ども

取組目標 地域の教育力を活かした取組の中で、一人一人の笑顔が輝き安心して園生活を送れるようにする

【今年度の取組紹介】コロナ禍以前の子育て支援事業の一環として行っていた楽器演奏会に、ゲストティーチャーとして“ヒョーコマーズ”のお二方に来園いただきました。事前に、演奏会のことを子どもたちに伝えたことで、当日に期待を持ち「誰が来るのかな」「何をしてくれはるんやろう？」と楽しみに待つ姿につながりました。演奏会は、リズム室の倉庫に隠れておられたゲストティーチャーが、手作りのひょうたん楽器を鳴らしながら登場して始まり、一気に子ども達は心をつかまれていました。ヒョーコマーズさんは、演奏会を楽しめるように、一人一人の顔を見ながら歌ったり鳴らしたりしてくださいました。演奏や歌に合わせた手遊びや動きを組み入れたり、ひょうたんの生長をエプロンシアターで見せてくださったりしたことが、演奏を落ち着いて聞く態度や、ひょうたん楽器の不思議さやおもしろさを知ることにつながったと感じました。また、楽しく笑顔で子どもの発言を拾いながらやり取りをしてくださり、ヒョーコマーズさんを身近に感じ親しみを持って関わる姿が見られ、演奏会後にはヒョーコマーズさんの似顔絵や手紙をかく子どもの姿がありました。ひょうたん楽器の演奏や素敵な歌、ヒョーコマーズさんとのやり取りを楽しみながら、感受性を豊かにする経験につながりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍が明け、中止していた事業を再開したり、取組の形や内容を改めて見直したりしながら事業に取り組むことができました。地域の方には、子ども達の園での遊びや生活の様子を見ていただき、こども園の教育・保育を知ってもらう機会となりました。今後も地域の方を身近な存在と感じ、開かれたこども園となるよう、地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

【来年度に向けて】

地域の方の教育力を活かした取組が引き続き行えるように、今年度の経験をもとにさらなる事業を検討します。また、子どもにとりより良い豊かな体験が重なり学びが深められるように、地域・こども園・家庭が連携を図り事業を計画し進めていけるよう努めます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

豊かな心をもち自他共に大切にしながらたくましく生きぬく幼児を育成する。

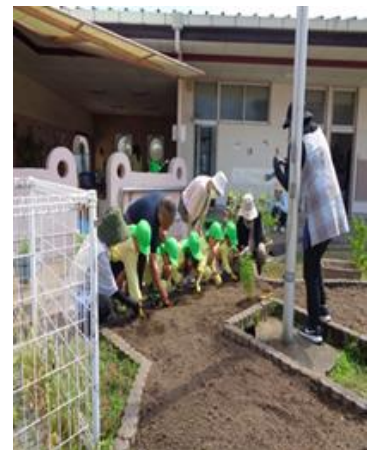
【今年度の取組紹介】

コロナも明けお茶会については回数を前年度より増やして行いました。

5歳児を中心に行い、途中で4歳児が見学し、最終会には4歳児も行い、3歳児は見学しました。渋いお茶に苦戦する子どももおいしいお菓子につられながら一口触れてみました。

3～4歳児は見学の後お部屋に戻ってからお菓子をいただいて来年度のお茶会に期待しています。

花壇の花植えは、民生児童委員の方が来園して下さるランラン広場の時に合わせて子どもとの交流をかねて行いました。畑仕事をしていらっしゃる方が「畑のじいだよ」といって、やさしく教えてくださいくださる場面もあり、温かな時をもてました。



【今年度のまとめ】

お茶会では子どもたちに名前呼びかけくださり、子どもたちも民生児童委員の方に話しかける場面が多々ありました。花植えでは、次の来園の時に花の生長をこどもと共に楽しむ共通の時間交流がもてました。

【来年度に向けて】

今年度は初年度ということもあり、早急に進めてまいりましたが来年度は余裕をもって四季折々の取組が持てるようにしていきたいと思ひます。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い、人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標 地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって地域教育に取り組み、田原を愛する人間を育成する。

【今年度の取組紹介】

《小中一貫教育小規模校全国サミットの開催、準備、他校との交流》

小中一貫教育小規模校全国サミットの開催に向けて、話し合いを重ね準備を行ってきました。午後の分科会に参加し、他校との交流を行いました。地域教育の重要性を改めて感じました。



《文化鑑賞会の開催 地域、全校児童生徒、先生方とともに》

ジャックリー ランダル氏の影絵パフォーマンスは、体験もあり、子どもからお年寄りまで、地域が一体となって楽しめるものでした。

《案内道路標示づくり》

昨年度、来校者が困っているという現状があることを伺い、子どもボランティアを募り、道路に案内標示を描く活動を実施しましたが、線や文字が薄くなってきていたため、改めて塗り直しました。

また、職員室への案内誘導ラインがあれば、「ライン以外のところを歩く人」＝「不審者」と判断できるのでラインを引きたい！という学校からの願いがあり、防犯対策になるため、新たに誘導ラインを引くことにしました。

《学び舎プロジェクト》

- ・ 地域の力で放課後に英語教室を開催しました。
- ・ 田原を愛する講師による英語学習補助支援を行いました。

【今年度のまとめ】

- ・ 前年度同様、学校と協力し、自然体験を含む様々な体験学習を実施することができたように思います。
- ・ 小中一貫教育小規模校全国サミットの開催は、良い経験になりました。校長先生をはじめ、たくさんの先生方、小中一貫教育小規模校全国サミットの開催に向けてご苦労様でした。活動にご協力ありがとうございました。

【来年度に向けて】

- ・ 学校が進める「小中9年間を見通したキャリア教育」と連動させながら、次年度も「学校のために」「地域のために」と、さらに活動や教育を高めていきたいと思っています。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い、人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標 地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって地域教育に取り組み、田原を愛する人間を育成する。

【今年度の取組紹介】

(人権講演会の開催)

- ・ 田崎智咲斗さんをお招きし、性と生についての対話型講演会を行い、みんなが自分らしく暮らす社会のために、一人一人ができることについて考える機会になりました。講演開催までに、田崎さんと打合せを行い、講演会までに、各学年で学習を行ってもらいました。中学校運営委員会発信の開催でしたが、小学部の先生方とも協力し、講演会のなかで、自分の考えがもてるようにするために、1～6年生でも事前に学習をしてもらいました。



(紙漉き体験 7～9年生とともに)

- ・ 地域の福祉施設「日笠ワークス（社会法人 青葉仁会）」の活動事業の一つである紙漉き。日笠ワークスの川口強志さんの指導による紙漉き体験学習を行いました。地域学習の一環として、施設の概要説明を受けた後、はがきサイズの和紙の紙漉きが行われました。漉いた紙は、美術科で作品づくりに使用されました。

【今年度のまとめ】

- ・ 前年度同様、学校と協力し、自然体験を含む様々な体験学習を実施することができたように思います。
- ・ 小中一貫教育小規模校全国サミットの開催は、良い経験になりました。校長先生をはじめ、たくさんの先生方、小中一貫教育小規模校全国サミットの開催に向けてご苦労様でした。活動にご協力ありがとうございました。

【来年度に向けて】

- ・ 学校が進める「小中9年間を見通したキャリア教育」と連動させながら、次年度も「学校のために」「地域のために」と、さらに活動や教育を高めていきたいと思っています。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い、人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標 地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって地域教育に取り組み、田原を愛する人間を育成する。

【今年度の取組紹介】

(花植え集会① 1～4年生とともに)

- ・ 環境整備ボランティアと1～4年生による春の学校園の整備、花植えをしました。4年生による集会運営の学習も見ることができました。

(花植え集会② 1・2年生とともに)

- ・ 環境整備ボランティアと1～4年生による秋の学校園の整備、花植えをしました。

(木工工作体験 1・2年生とともに)

- ・ 校区在住芸術家による木のおもちゃ（パズル）づくり教室を開催しました。

(田植えと稲刈りの体験 4・5年生とともに)

- ・ 地域教育協議会委員である奥和田さんの田をお借りして実施されました。足の指を通る泥の感覚を感じながら、カエルの鳴き声を、風を感じながらの田植え体験でした。ザッザッという音とともに軽快に鎌を動かして稲を刈る体験をすることができました。

(車椅子バスケットボールとは？ 障害とは？ 1～6年生とともに)

- ・ 92年、96年、00年、04年と4期連続パラリンピック代表であった神保康広さんに来校いただき、車椅子バスケットボールとは？ 障害とは？ということについて、体験を交えてお話を伺いました。

(地域探検&環境クリーン作戦 6年生とともに)

- ・ 「地域を歩きながら、地域について知ること」「ごみ拾い」をしました。地域を知り、地域に関わることで、地域を愛する子どもたちになるのではないかと思います。

(世界遺産学習 5年生・京都大原小中学校の5年生とともに)

- ・ 京都大原小中学校の5年生と一緒に、国立博物館や春日原生林を巡りました。

(学び舎プロジェクト)

- ・ 放課後英語教室を開催しました。田原を愛する講師による英語学習補助支援が行われました。



【今年度のまとめ】

- ・ 前年度同様、学校と協力し自然体験を含む様々な体験学習を実施することができたように思います。
- ・ 小中一貫教育小規模校全国サミットの開催は、良い経験になりました。校長先生をはじめ、たくさんの先生方、小中一貫教育小規模校全国サミットの開催に向けてご苦勞様でした。活動にご協力ありがとうございました。

【来年度に向けて】

- ・ 学校が進める「小中9年間を見通したキャリア教育」と連動させながら、次年度も「学校のために」「地域のために」と、さらに活動や教育力を高めていきたいと思っています。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標 様々な体験活動や地域の方々との交流を通して、校区の自然・歴史・文化等の良さを知り、豊かな心と自主的に行動する力、コミュニケーション能力を育てる

【今年度の取組紹介】

◇9月27日、4年ぶりに校区内4校園の子どもたちが集まり「ふれあい広場 2023」を開催しました。

◇中学生による「大柳生太鼓踊り」の発表は迫力満点でした。

◇ジャスパー瀧口さんによるマジックショーで、子どもたちも大人も一緒に笑いあうことができました。

地域の皆さんの声

・(太鼓踊り)

長い歴史がある太鼓踊りを子どもたちが踊っているのを見てとても感動しました。

・(マジック)

素でかわいい子どもたちの反応がほほえましかったです。

4年ぶりの開催となった「ふれあい広場」には地域の皆さんもたくさんお越しいただき、準備・片付け等お手伝いいただきました。校園の枠を超えて集まることの大切さを改めて実感しました。一方で、コロナ禍で始まった「命」にかかわる取組も各校園で引き続き工夫をしながら継続しました。



【今年度のまとめ】

「ふれあい広場 2023」は以前よりも規模を大幅に縮小し実施しました。実施後に開催した協議会会議で、地域の皆様のご意見をいただきましたが、子どもたちや地域の皆様が日常の垣根を越えて集まることができたことを喜ぶご意見が多数を占めました。一方で、催しが2つだけだったこと、また、どちらの催しも鑑賞が主体であったことから、子どもたちがより主体的に活動したり、発表したりする場があればよかった、とのご意見も多く寄せられました。

これらのご意見を踏まえ、来年度以降も地域で集まる「ふれあい広場」を大切にし、さらなる進化を目指したいと考えます。

【来年度に向けて】

「ふれあい広場 2024」を2024年9月25日(水)、興東館柳生中学校で行うことが決まりました。「ふれあい広場 2023」でいただいた皆様のご意見をもとに、園児から小・中学生まで異年齢のグループをつくり、子どもたちがいろいろな体験をするワークショップ形式で行うべく、詳細な内容の検討を進めています。

めざす子ども像**郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども**取組目標 郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成**【今年度の取組紹介】**

- ・今年度も大柳生太鼓踊り保存会の皆様を講師に迎え、「大柳生太鼓踊り」の練習に取り組みました。今年は3年生の人数が少ないため、1年生が口上、2年生が唄、そして3年生が太鼓・鉦という全校態勢での取組になりました。4年ぶり開催された「ふれあい広場 2023」で地域の皆様の前で発表することができ、地域の方からも「よかった」というお言葉をたくさんいただきました。
- ・もう一方の地域伝統芸能の学習である「木剣体操」も、柳生剣友会の先生のご指導のもと、地道に練習を積み重ねてきました。発表の場である体育大会に、今年度は地域の皆様にもお越しいただき、皆様の前で練習の成果を披露することができました。
- ・水生生物観察や民謡教室などのゲストティーチャーを招いての学習、学校周辺の環境整備等も行うことができ、地域の皆様の支えのもと、充実した活動になりました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍に伴う行動制限の緩和で、地域と連携した活動をより行いやすくなり、地域の皆様に子どもたちの学びや活動を見ていただける機会も増えました。一方で、少子化・高齢化は他地域よりも深刻で、活動に参加いただく方を募っても十分に集まらないことが度々でした。活動の規模を拡大したり増やしたりすることが教員の負担増につながってしまう一面もあり、教員の働き方改革の観点からも、必要な活動を絞って重点的に注力していくことも必要なのではないかとも思われました。

学びの質を保ちつつ、より効率的な運営を目指して、知恵を出し合うことが必要と思われます。

【来年度に向けて】

来年度、本校は創立10周年の節目を迎えます。10周年記念の行事を、学校運営委員会の皆様とともに考え、地域教育協議会会長様に実行委員長を務めていただくことになりました。地域に支えられた本校の10年の歩みを確かめ、その基盤の上にさらなる飛躍・発展をめざしていきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標 地域の特徴を生かした体験的な活動を多く取り入れるなかで、
「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」を育成する。

1. 柳生の伝統を学ぶ

柳生は剣道の地であります。今年度は、7月から地域の方に来ていただき、元気っ子タイムを使って全校で木剣体操を取り組み、11月に剣道体験で披露することができました。柳生の伝統である剣道の精神を小学校から伝えていけるよう、今後も地域の方とともに、取り組みたいと思います。



2. 地域の方に学ぶ

今年度は、地域の方の持っておられるお力を借りて、様々な学習に取り組みました。以前から取り組んでいる「闘茶会」「炭焼き体験」「柳生焼」「小物作り」はもちろんのこと、今年度新たに「和楽器に触れる体験」や「お米作りの話」も学習に加わりました。また柳生消防団の方からドローンを飛ばしていただき、柳生地域の防災について考えたり、地域にある「成美学寮」の寮長様にお越しいただき、全校道徳で成美学寮の様子をお話していただいたりしました。

子どもたちは多くの学びを得ることができました。



【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、学校行事を見直しつつ、地域の方々との連携のもと、「お話の会」「まちたんけん」「柳生焼体験」「炭焼き体験」「剣道体験」「小物作り」、今年度新たに「和楽器に触れる体験」や「お米作りの話」「柳生消防団との地域防災学習」「成美学寮」など、地域を知る充実した内容の体験学習、また地域の方々とのふれあいを大切にした学習活動が展開することができました。また昨年度より地域の方のお力をお借りした学校ボランティアのお蔭で、学校環境整美はもちろんのこと、マラソン大会もたくさんの方に安全面での支援と応援を承りました。学校評価アンケートの中「学校は、地域と連携して特色ある教育活動を行っている」の項目は保護者から高評価の結果が出ています。

【来年度に向けて】

来年度もいろいろな体験や学習を通して、地域の伝統や産業を学び、地域の方々とのふれあいを大切にする事で、自分の郷土に誇りを持ち、自分の夢をかなえようとする子どもを育てていきたいと考えます。また学校ボランティアと児童との協働で、学校環境整美を行い、防災訓練も地域の方々と一緒にやっていく中で、地域の絆が深められる有意義な取組をしたいと考えます。また、興東館柳生中学校区での「ふれあい広場」もより充実したものにしていきたいと思ひます。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

こどもたちが地域とつながりを意識できる学習環境整備や取組の充実をはかる。

【今年度の取組紹介】

地域の方々との出会いを大切にし、地域の教育力をお借りして、本年度も本校教育を推進しました。なかでも“もち米作り”は、米に関わる様々な体験を「つながり学ぶ」大切な学習事業となっています。子どもたちは、5月の田植えに始まり、9月の稲刈り、10月の脱穀・粳摺りと色々なお話を聞いたり、体験をしたりすることができました。更に12月のしめ縄づくり、1月の大とんどまで、年間を通して本当に多くの地域の方々にお世話になりました。この米作り体験は、「地域で学ぶ体験学習事業」の豊かな学びの軸となる取組となっています。

その他にも2年生の焼き芋体験、3・4年生の絵手紙教室、蜜蝋でのろうそく作り体験、2～4年生の白砂川でのニジマス放流体験を行いました。また、6年生は校区歴史遺産学習として、運慶作の仏像等、国宝をもつ円成寺を訪問しました。ここまでたくさんの活動が実施できたことは、地域の方々のご協力のたまものであると感謝しています。



【今年度のまとめ】

本年度も地域の方々の熱心な支援・協力のもと、学校としての取組を順調に進めることができました。山間部の地域ではありますが、このような活動を体験している児童は少なく、どの体験活動においても児童が生き生きと、楽しそうに活動している姿から、本当に貴重な経験をさせていただいているのだと感じました。この体験活動が有意義で、楽しく、心に残るものであったことは、学校評価アンケートの結果にも表れていました。また、地域の方々から色々な話を聞き、一緒に体験することで、地域の方々と子どものつながりもより深まっていると感じます。

【来年度に向けて】

来年度も校区の歴史や伝統・産業を学び、先人の知恵や思いに触れ、いろいろな体験を通して感性を育てることで、自分の郷土を誇れる児童を育てていきたいと考えます。コロナによる活動制限がなくなりましたが、これまでの活動を見直したうえで、地域と連携・協働し、人と人とのふれあいから生まれる豊かな心を大切に、学校・地域の実情に合わせた取組を考えて、地域との絆をさらに強固なものにしていきたいと思います。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

自然や地域の人との関わりを通して豊かな心を育み、主体的に活動に取り組もうとする態度を育成する。

【今年度の取組紹介】

・陣屋跡、家老屋敷、もみじ橋から芳徳寺、菖蒲園、茶山、田んぼ、一刀石そして洞窟。柳生には魅力ある場所がたくさんあり、散歩に出かけています。知らないところがいっぱいあり益々地域が大好きになる子どもたちです。歴史と自然豊かな環境の中で、地域の方々に温かく声を掛けていただき、挨拶をしたり言葉を交わしたりする心地良さを味わっています。



・地域の方に畑の先生として来ていただき、米苗や夏野菜を植えています。田んぼづくりでは、水道から離れた場所までどうすれば水が引けるかを考え、収穫脱穀等を自分達で体験しました。夏野菜づくりでは自分達でリクエストをした野菜を植え、水やりや草引きのお世話をして、たくさんの野菜を収穫することができました。

給食室で調理してもらい「おいしい」「もっと食べたい」と子どもたちの嬉し笑顔です。共通の目的を持ち、友達と協力すること、考えること、自然に触れ、大切にすること等、学ぶことがたくさんありました。



・地域の方に教えていただいた陶芸体験や剣道体験、華道・茶道体験等、地域や日本の文化に触れ、普段と違う雰囲気の中で凛とした所作を体験し感性を育むことが出来ました。

【今年度のまとめ】

地域の方が講師としてご指導していただいたおかげで子ども達は園の教育活動では経験できないたくさんの学びがありました。もの・ひと・こととの出会いや関わりから自然と人と人とのつながりができました。いろいろな経験を通して認めて褒めてもらえる事は、子ども達の深い学びへとつながっていきます。地域に根差した小規模園の特性である、地域の方の温かいまなざしや声掛けをはじめとするご支援・ご協力に感謝いたします。

【来年度に向けて】

地域全体で少子化が進み利用園児が減少する中で、乳幼児期の健全な育成を担う本園の課題は大きいと感じています。園、家庭、地域が連携を取り合い、子ども達が顔見知りとなることで関係が豊かに広がっていきます。今年度、取り組んできた活動の成果を次年度に繋げ、地域と共に子どもの育ちや学びを大事に見つめ、子どもたちが主体的に「遊び」に取り組む活気ある環境を提供していきたいと思います。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で 自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域と学校園が連携・協働し、子どもが参画出来る取組の開発と充実に努める

【今年度の取組紹介】

学習支援事業・・・サマースクールを今年も7月24日～8月8日までの9日間学年別でおこないました。今年は、先生方も多く指導に入られ地域指導者とで生徒に対してマンツーマンで行うことが出来ました。科目は、英語・数学の二教科ドリルを使つての指導です。中々すすまず苦戦していましたが、一つできると嬉しそうに真剣に取り組んでいました。

漢字検定・・・コロナ前までは年3回行なっていましたが、コロナもおちついてきたことや、子どもや保護者の方々から「漢字検定はもうされないのですか？」の問い合わせが多くあり今年度1回のみ実施しました。小学1年生から家族の方総勢70名の参加でした。準2級ともなると問題も難しく合格率も悪くなりますが、1年生2年生はしっかり100%の合格者でした。これからも頑張つて挑戦していただきたいです。



【今年度のまとめ】

地域の方々の協力が無いと出来ない活動の中で皆さん協力的に参加してくれてとても感謝しています。しかし、コロナ禍でストップしてしまった活動、人員高齢のために縮小した活動を元に戻すことは容易ではなく、新たな活動を、若い方に頑張つていただきたいと思います。

【来年度に向けて】

広く、地域に、広報を出し続けて、コーディネーター・ボランティアを募り、新たな事業を開拓していきたいと思いますと、共に子どもたちと企画・参画しあえる環境を整えたいと思います。

めざす子ども像

幼・小・中・地域の確かなつながりの中で 自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域を愛し、地域に誇りを持ち、自ら考え、判断し、手応えのある
夢を持ち、たくましく生きる子供の育成

【今年度の取組紹介】

「花いっぱい笑顔いっぱい登美中」の取組を本年度も継続して行い、プロジェクトチューリップやプロジェクトひまわりの活動を地域の方の支援を得て行いました。生徒会が中心となって、多数の有志生徒も参加して楽しい雰囲気の中、花壇の整備や植え付けを行いました。

また、秋春に花壇整備の活動を行い、花の苗を植えつけました。

自分たちが育てた花が咲く中を穏やかな笑顔で登校する姿が見られました。卒業式と入学式では、温かい気持ちで卒業生を送り出し、新入生を迎えられると思います。

生徒が自主的に学習に取り組むとともに学力の定着を目指して、学力向上とイングリッシュカフェの取組を行いました。楽しい雰囲気学で学ぶ楽しさを実感している様子がうかがえました。

図書館整備事業により、学校図書館が明るい雰囲気の中で本に親しめる空間に変わりました。図書館司書を中心に地域の方々の協力のおかげと感謝しています。

キャリア教育事業のマナー講習会や地域交流事業の能体験などでは、将来につながる体験や初めて触れる文化芸体験により、生徒が新たな発見や楽しさを感じる機会となったと思います。さまざま体験を通して、生徒たちは地域の方々とつながり、地域愛や地域貢献への意識が育まれる機会となっています。



【今年度のまとめ】

地域の方々のご理解と支援のもと、子どもが学校で過ごし学び体験する上で、よりよい環境が整えられたと思います。自分のペースで学ぶ学習支援、本に親しみやすい学校図書館、温かい気持ちで過ごせる環境整備など子どもたちの笑顔につながる取組になったと思います。

その一方、コロナ禍が明けて活動の自由度が増え、盛んな取組が望まれましたが、ひとたび止めた取組を再開するのは難しく、今後は新たな形で地域の方々と生徒が触れ合える取組を計画することで、地域を愛し、地域に誇りを持つ生徒の育成をしていきたいと考えています。

【来年度に向けて】

子どもたちの学習環境整備と学習サポート、図書館のさらなる充実、講演会やゲストティーチャーに学ぶ機会の計画、コロナ禍で行われなくなったホタルフェスタに代わる新たな交流授業を計画し、地域の方々のご支援をいただきながら学校教育活動の活性化を推進していきたいと思っています。

めざす子ども像

幼・小・中・地域の確かなつながりの中で**自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる**【今年度の取組紹介】**

今年度も「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」取組を継続しました。子どもたちが、地域の方と共に植物を栽培・収穫する活動に取り組み、収穫した植物を活かして様々な作品を作ることができました。

全校児童が、コキアとヘチマをタネから栽培し、ほうきとたわしを作りました。それを、お世話になった方々へプレゼントしました。

1年生は、チューリップとビオラを一人一鉢植え、入学式で飾る予定です。

町探検や店探検、秋見つけなどで校外へ出る時は、地域の方々が引率を手伝ってくださり、安全に実施できました。

家庭科の調理実習やミシンを使う授業にも、地域の方々がお手伝いに来てくださり、子どもたち一人一人に寄り添って丁寧に手助けしていただきました。

今年度も、防災教育の一環として地域の方に講演・ご指導いただき、地域の方と触れ合い、つながりながら「守られる側から守る側への気づき」を体感し「今、自分たちが安心して毎日の生活を安全に送ることが出来ていること」に感謝することができました。

地域の方々と、子どもたちが共に活動することで、「子どもたちが地域の中でしっかりと生活し、地域とのつながりを深める」という目標に近づいているという実感をさらに強く感じる事ができた一年となりました。

**【今年度のまとめ】**

ボランティアの方々の熱心な関りと子どもたちへの温かい心配りがあり、子どもたちは、それらによって、ますます成長し、ふるさと鶴舞を思う気持ちが強くなっています。学校・家庭・地域が、それぞれお互いの役割や機能を十分理解し、連携・協働することで、これからも「確かなつながりの中で自ら考え未来を切り拓く子ども」の育成をめざしていききたいと考えています。

【来年度に向けて】

これまでの活動の蓄積を財産としながら、地域の方々と共に協働して活動を継続することで、「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」鶴舞を創りあげていきたいと考えています。共に歩んでくださっている保護者・地域・関係団体の皆様に、深く感謝しております。今後共、鶴舞の子どもたちへのご支援ご協力、宜しくお願いいたします。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で**自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

～自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成～

【今年度の取組紹介】

コロナ禍が明けたことで、これまで自粛してきた取組を積極的に実施することができました。環境整備事業として、季節ごとに雑草取りや溝そうじ、卒業に向けた体育館のそうじなどを行うことができました。また、1年生の「いのちの学習」や「昔遊び」など、これまで大切にしてきた活動を実施することができました。特に1年生はまだ入学したばかりなので、安心して学校生活を送れるように、できるだけ地域の方と関われる機会をつくることを大切に考えています。

学校全体の活動としては、「星空教室」やウサギや金魚を育てる水族館・生き物飼育事業に加えて、今年度は、地域の方とともに、「ダブルダッチ講習会」を実施しました。子どもたちが地域の方と楽しんで活動できる機会がたくさん作ることができました。



星空教室のようす

【今年度のまとめ】

本事業を通して、児童や保護者、地域の方の距離が近くなってきたように思います。その証として、児童の言葉から、地域の方の名前が出てくるようになりました。各事業を継続させていくことで、児童と保護者・地域とのつながりがより深く密になると考えています。

また、新しい活動に取り組めたこともよかったと考えています。

【来年度に向けて】

これまで取り組んできた活動を継続しつつ、新しい活動を模索していきたいと思います。また、児童が地域や保護者と協働して同じ課題に取り組むような活動を考えていきたいと思っています。

めざす子ども像

幼小中・地域のつながりの中で自ら考え、 未来を切り拓く子ども

取組目標

- ・子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施
- ・子どもが主体的に活動できる環境構成

【今年度の取組紹介】

◆地域とのつながり◆

地域の方の協力を得て、ゲストティーチャーを招き、お花や野菜の栽培を体験しました。
お花や玉ねぎを実際に販売し、お客さまとのやり取りなど
楽しく社会性を学ぶことができました。



◆染め物体験◆

染色をゲストティーチャーにご指導いただき
びわの葉で白い布地から染まっていく色の変化に
子どもたちは興味津々。その後、藍の葉で
たたき染めをしました。
染めた布地はフラッグを作成し、
運動会の演技で使用し大歓声でした。



【今年度のまとめ】

豊かな自然環境や物的環境に自らかかわり、発見や感動・探求を重ね、地域の方の助言や力も得て計画的・継続的な栽培活動を実施できました。日々の遊びの中で生まれる子どもの好奇心やひらめきを受け止め、地域の様々な方とかかわりながら、楽しみを実現させ、いろいろな挑戦を繰り返し、植物の栽培から食育的な体験活動を行い、子どもが主体的な活動ができる環境を構成し、鶴舞やまこども園の特性を活かし、健やかな心と体を育み、自然・社会生活との関わる力を育みました。

【来年度に向けて】

鶴舞小学校との交流活動は増えてきましたが、地域交流については、コロナ以前の活動ができるよう、新たな取組も検討し、地域の方との更なる交流深めていきたいと思っています。各事業への参加を呼び掛けるなど広報活動をより一層できればと考えております。

めざす子ども像

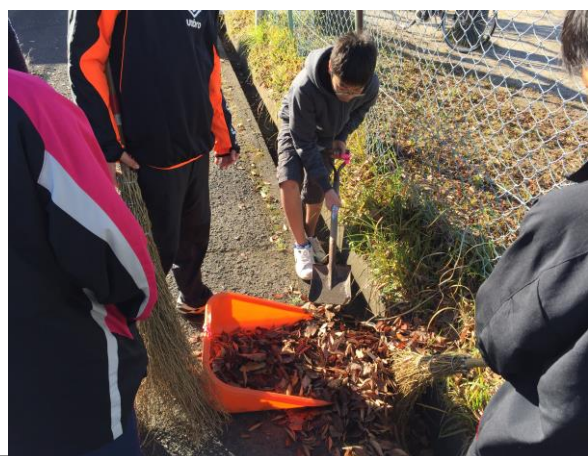
確かなつながりの中で自ら学び続ける**心豊かなたくましい子**

取組目標

「地域を守る人づくり」を目指し、学校・保護者・地域各種団体の連携を促す

【今年度の取組紹介】

「地域を守る人づくり」を目標に掲げながら、コロナ禍の渦中は活動が縮小傾向でした。今年度は奈良市総合防災訓練の参加も放課後子ども教室の体験として呼びかけるに留まり少し減少しました。しかし、協議会発足以来活動が継続している「落ち葉清掃」は参加数が復活し、児童・生徒はじめ、地域の方々がたくさん参加くださり、歩道、溝など素晴らしくきれいになりました。



ならやま中学校区のみなさま

**参加のお願い！**

【今年度のまとめ】

- ① 図書室ボランティアがグループ LINE で活動スケジュールを調整し、司書からの指示や活動内容の共有をはかり、支援システムの構築を進めました。
- ② 通学路の見守り活動の連絡体制のために細やかな打合せの会合を持ちました。
- ③ 地域と連携した防災教育の取り組みイベントを右京地区に重点を置き、開催しました。
- ④ 『落ち葉清掃』の児童、生徒、地域住民の参加の増加はボランティア意識の活性化を感じました。
- ⑤ 地域ボランティアの登録参加は維持され、地道な活動が必要に応じ継続されました。

【来年度に向けて】

- ① 地域の様々な世代に適応した広報活動を細やかに行い、ボランティアの募集に繋がります。
- ② コーディネーター・ボランティア間の連絡・会話を密に、役割を明確にし、活動能力を上げます。
- ③ 子どもたちが発するメッセージを引き出すために、子どもたち、教職員、保護者にアンケートや生徒会、児童会と話す機会を持ち、子どもたちの力が発揮できる場を企画します。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける

心豊かなたくましい子

取組目標

地域とともに心を耕し、夢を育む「ならやまっ子」

【今年度の取組紹介】

○令和5年12月16日（土）落ち葉清掃

ならやま中学校区で落ち葉清掃をしました。

事前の案内では「小雨決行、雨天中止の場合は7時の時点で学校ホームページにて連絡します」と伝えていました。

前日から小雨が降ったり止んだり、学校の担当教員は早朝から空模様と天気予報と交互に確認をしながら、決行すべきかどうかをずっと心配していました。

そこで、地域総合コーディネーターに相談したところ、「できる！大丈夫！」という自信に満ちた決断のもと、予定通り決行しました。なんと、活動中の2時間だけこの地区に雨が降らなかったのです。コーディネーターの気迫が天まで届いたようでした。



どんよりとしたお天気でしたが、地域住民・児童生徒・教員・保護者・地域で活動する社会体育団体の有志など、多数ご参集いただき、溝清掃を中心に清掃活動をしました。今回も地域コーディネーターと中学校生徒会が中心となり、広く参加呼びかけを行い、様々な方々と交流しながら協働することができました。

この取組が一人ひとりにとって地域をたいせつに思う気持ちをもつ機会となりました。

【今年度のまとめ】

○参集型の活動が徐々に復活し、本校区の魅力である地域のつながりを感じられる取組を取り戻すことができました。

○年度末にはさまざまな分野で活動いただいたボランティアさんに学校に集まっていただき、児童生徒から直接お礼を伝えるセレモニーを行うことができました。

【来年度に向けて】

事業の目的を「心の通い合い」とし、地域とともに持続可能な取組の計画と実践を考えていきたいです。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける

心豊かなたくましい子

取 組 目 標

地域への意識を高め、地域活動に積極的に参加する児童を育てる

今年度の取組紹介

○防災体験学習

北消防署の協力を得ながら、各学年の発達段階に応じた系統的な学習を進めています。また、教職員についても校内研修として救急救命法研修を実施し防災意識を高めています。

毎年行うことによって、児童の防災や地域の一員であることの意識が高まり、地域で行われる防災訓練への参加にもつながっています。



○授業支援活動

今年度は、地域の方々に学習活動に参加・支援いただく機会を多くもつことができました。

プール学習や家庭科実習等では、児童の安全補助として多くのボランティアの方に協力いただきました。

また、総合ならや図工では、専門性を生かした実技披露や児童への指導助言等をいただき、児童が本物にふれるよい機会となりました。

今年度のまとめ

- 今年度は、できる事業から随時実施したところ、多くの地域ボランティアの方や保護者の協力を得ることができました。
- 消防署の協力も得て、各学年で系統的に取り組んでいる防災学習や地域の防災訓練への児童の積極的な参加等を通じて、防災や地域の一員であることの意識をより一層高めることができました。
- 見守りボランティアや図書ボランティア等の地域の方々の学校支援活動が、学校力を高める大きな一助となっています。

来年度に向けて

- 地域・家庭・学校のつながりを深める取組を進め、子どもたちには自分の住んでいる町の魅力についてより知ってもらいたいと考えています。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、**自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標

**地域の人や環境に親しみを持ち、意欲的に活動に
取り組もうとするような事業の充実を図る**

【今年度の取組紹介】

防災訓練

突然起こる地震や火事など、もしもの災害に備え、今年度は奈良市消防団平城分団と奈良市広報指導分団なでしこ隊に依頼し、防災訓練を実施しました。

なでしこ隊からは、紙芝居の読み聞かせや歌、ダンスを通して分かりやすく避難の方法を教えてもらいました。火事では姿勢を低く、地震では頭を守って避難することが大切であることを知り、覚えたことや経験したことを家族で話をする良い機会ともなりました。

また、消防団による放水訓練を見たり、水消火器を用いた消火訓練をしたりしました。目の前で水が勢いよく出る様子を見たり、実物の放水用ホースに触れたりしたことは子どもたちにとって大きな感動に繋がりました。そして翌日、「ぼくも消防士みたいになりたい」と、放水活動の様子を模倣して遊ぶ姿が見られ、消防団員の活動を見て、その仕事に興味や憧れの気持ちを持つことができました。



【今年度のまとめ】

今年度も継続して教育支援事業、環境整備事業、防災教育事業に取り組みました。防災教育事業では新たに消防団と協働した防災訓練を実施することができました。

環境整備事業や教育支援事業では、コロナによる制限がなくなったことで地域の方との関わりが増えました。地域の方に温かく受け止めてもらえることで、安心して様々な活動に取り組むことができ、認められる機会が増えたことで、自己肯定感も高まりました。

【来年度に向けて】

園の実情として、園で長時間過ごす子どもの割合が増え、家庭においては地域との関わりが少なくなっていると思われます。そのため、教育時間終了後に地域の方と関わる活動（絵本の読み聞かせ等）を計画・実施し、子どもたちが地域とのつながりを感じられるようにしていきたいと考えます。今後も活動内容をホームページ等で知らせ、多方面の教育支援ボランティアに協力して頂き、子どもたちが興味や関心を持って取り組めるような活動を一緒に考え実行していきたいと思います。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら、学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

自然や地域の人との関わりを通して、豊かな心を育み子どもたちが興味や関心をもちやってみたいというきもちを育成する

【今年度の取組紹介】

☆おはなしの会

今年度も、“右京おはなしの会”のグループの方々にお越しいただき

“右京おはなしの会”を開催しました。今年度より新型コロナウイルスが

5類に移行したことにより右京おはなしの会グループの方々と話し合い、

今まではクラスごとの入れ替えで、各学年隔月でしか参加できていなかったのですが、今年度より2学年がリズム室に入り2部制にすることにより各学年毎月おはなしの会を楽しめるようになりました。季節に合わせた手遊びや手作りの大型パネルシアターなど子どもたちはお話の世界に入り込み、おはなしの時間を堪能することができました。また、夏祭りにて、親子対象に“おはなしの会広場”を開催し、盛大な盛り上がりとなりました。



☆野菜の苗植え・収穫

地域ボランティアの方々は何度もお越しいただき、3, 4, 5歳児の子どもたちと玉ねぎの苗植えや収穫、サ

ツマイモの苗植えや収穫を行いました。収穫したさつまいもで実際にバーベキューコンロを使用し、焼き芋パーティを行いました。

地域の方々と食べる焼き芋は格別においしく収穫を喜び合える収穫祭となりました。

☆敬老の集い

右京地区社会福祉協議会・右京地区自治連合会主催による“敬老の集い”に5歳児園児が参加した。ダンスを披露や、クイズ大会など地域の方との交流の場になりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い参加できない状態が続いていましたが今年度、民間移管後初めての開催となりました。

☆花いっぱい運動に参加

学研センター主催で近鉄高の原駅前に花植えを行う活動を5歳児が参加しました。花の根っこを優しく持ったり植え方を教えてもらったりして地域の方との交流となりました。

☆旧右京小学校清掃活動・保育園内のプール清掃

地域の方々と職員と共に、旧右京小学校の清掃や、草引き、保育園内のプール掃除を行い、子どもたちが使用する環境を整えました。職員も地域の方との交流のいい機会となりました。



【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウイルスが5類に移行したことにより開催できる活動が増え、制限がなくなったことによりたくさんの方に保育園に来ていただけるようになったので、地域の方々と共に行う活動が増えた一年となりました。夏祭りに関しても、人数制限、年齢制限、入替などもなくし、地域・卒園児等にもたくさんの方に参加いただき盛大ににぎわいました。また、夏祭りでは近くの障害施設に、焼いて販売している手作りクッキーの販売を行うなど飲食の開始も行いました。

【来年度に向けて】

今まで行ってきた活動に関しては、子どもたちにとって交流を深める大切な活動であるため、引き続き継続して行っていきたいです。また、今年度拡大して行った行事や、初めて参加した行事に関しても、引き続き地域の方々と共に子どもたちが育ちあうために必要だと考えています。来年度は、園内だけで行っていた防災活動にも地域の方々と取り組めるようにしていきたいと考えています。

めざす子ども像

人との出会いを通して

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

多様な世代の地域住民の絆がつながるようにする。
安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。
顔が見え、声を掛け合える地域を目指し、それぞれの防災防災意識を高める。
次世代を担う若者を育む環境をつくる。

【防災取組事業】

12月9日（土）公民館と共催で「さわやかフェス 2023」開催しました。

今年度は、地域の方々にチラシ等で広報し人数制限せず午前中で開催でした。自主防災の方々や消防のご協力を得て中学生が中心に活動しました。



「起震車」「暗闇体験」「火起こし」「テントたて」「防災食」「柿しぶクッキー等販売」「ユニセフ募金活動」とそれぞれのワークショップを中学生が担当し大人が援助する形でした。生徒は地域の来場者に笑顔で対応し会場を盛り上げてくれました。今年度は地域キャラクターの「ぬりえ」を作り公民館で飾ってもらい、小さい子も楽しめる工夫をしました。半日のイベントでしたがスタッフ中学生には、防災知

識を学び接客等キャリア学習を兼ねた地域の方々交流の場になりました。

事後アンケートには「楽しかった」「貴重な体験ができた」「地震は怖かった、減災のために備えたい」「最初と最後で印象の違うイベントだった。来てよかった」「楽しみながら防災について学べるいい企画だと思います」など、参加者の声がありました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍からの再スタートとして昨年と同じワークショップ開催方法でした。開催までの話し合いで希薄になったそれぞれとの繋がりを取り戻し、協力しあって広く地域に呼びかけられるイベントになりました。

【来年度に向けて】

事業の振り返りで集客方法に課題があるようなので広報の方法も考えたいと思います。

1月に能登の震災もあり、改めて日ごろの備えについて見直しが必要かと感じるので、イベント内容も学校や地域、公民館と連携をとりさらに充実を考えています。

めざす子ども像

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標 多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることができる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度新しい取組として二名地区自主防災防犯会、奈良市消防局と協働し1年生で防災体験学習を行いました。学習内容は起震車体験、水消火器体験等です。2年生では防災食作り体験学習を行いました。実際に体験をすることにより防災意識が高まりました。災害時、中学生が地域の担い手となるという意識も芽生えました。

毎年恒例となっている1年生パンジー植えと2年生マリーゴールド植えも地域やPTAの方々と行うことができました。今年度は新しい取組として、1年生の花植えでは参観形式で保護者の方々も一緒に花植えを行いました。保護者の皆様にも、子どもたちの生き生きと活動する学校での様子を見ていただけたことで本校の教育方針を知っていただくきっかけにもなったと思います。2年生の花植えでは技術科と学校行事を横断することで学びを深め活用することの実践にもつなげることができました。



【今年度のまとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが2類相当から5類に移行されました。このことによりコロナ禍の教訓を生かしながら行事を積極的に推進していくことが可能になりました。今年度は地域と共働して、新しい取組を模索し実現していくことができました。そして、この地域で決める学校予算事業により様々な取組が進められ、その取組が子どもたちの力となっていくことを感じる事ができた1年間でした。本当にありがとうございました。

【来年度に向けて】

これまで地域の方々と共に創り上げてきた良き伝統をしっかり継承していきたいと考えます。その上で、これまでの取組をしっかり見直しながらより良いものを創り上げていくための創意工夫を積極的に行っていきたいと思ひます。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

めざす子ども像

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症が、第5類に移行されたことによって、活動方法について、地域コーディネーターと検討を重ねました。そして、子どもたちや関わっていただく方々の安全を第一にコロナ以前の活動を復活させながら進めることができました。

今年度は3年生が「藁をなう」体験をゲストティーチャーから直接学ぶ機会を設けることができ、体験から豊かな学びが生まれました。

また、コロナ禍で3年間開催できなかった「ボランティア感謝の会」を4年ぶりに開催することができ、地域の方々に子どもたちの「歌声朝の会」を参観していただきました。日頃の感謝を込めて子どもたちの手作りのプレゼントを渡すこともできました。11名のボランティアの方々が出席していただき、とても喜んでおられました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症が、第5類に移行されたことによって、子どもたちと地域の方が出会い、活動することが、少しずつ元に戻すことができ、昨年以上に子どもも大人もこの地域での存在意識を感じることができました。学校と地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。」という目標に向けて、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

【来年度に向けて】

学校と地域がねらいを共有し、協働して、本校の「めざす子ども像」「取組目標」を具現化できるように努めたいと思います。状況に応じた内容や取り組み方の改善を図って、継続可能な事業の展開を目指します。

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

見守り等に感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する
地域の人と関わる活動を通して、様々な人との関わり方を学ぶ
環境整備を通して、活動の意義や自分のできることに気づき、行動する

【今年度の取組紹介】

□地域の方々との交流

今年度も、「地域の人と関わる活動」を大切にして活動を行いました。今年度は新しく、特別支援学級の自立活動の時間を使い、地域に伝わる柿渋染めの体験を行いました。手提げかばんを柿渋で染め上げ、思い思いの模様を作っていくことができました。この活動は二名中学校区教育協議会の活動ともつながります。小学校区単体で活動するのではなく、中学校区とも連携しながら、児童にとって学びのある時間をつくっていきたいです。



特別支援学級で行った柿渋染め体験

<今年度の事業>

柿渋染め教室、富雄川の昔を聞く会、声楽出前教室、どんぐり教室、昔遊び教室、図書の読み聞かせ

□地域人材が学校を介してつながる

一年生は昔遊びを、地域の方々と共に行いました。その活動をする前段階で関わる団体の長と打ち合わせをしたときに、「人が足りない」という声がでました。そこで、この活動に関わってくださる方ができそうな方に声をかけてくださった結果、20人程度だった参加予定者が、50人弱まで増えました。活動中は、参加された方々も児童もとても楽しそうでした。児童の感想文はコーディネーターを介して参加された方々に回覧されました。参加された方からは「来年もぜひ参加したい」や「ほかにできることはないか」といった声が聞かれました。これらの声を次につなげられるようにしたいです。

□幼稚園・保育園との連携

今年度は、小学校区の中にある幼稚園・保育園の園児との交流も実施できました。小学校の様子を知ってもらう良い機会であるとともに、小学校1年生の児童にとっては年下の園児を迎え入れて一緒に遊ぶ貴重な機会となりました。幼稚園・保育園との連携は来年度以降も継続しておこなっていききたいです。

【今年度のまとめ】

コロナ禍後、児童の実態や必要性に応じて活動を復活させたり新設させたりすることができました。また、担い手不足ではありますが、潜在的には「学校に協力してみたい」と考えてくださっている方がまだまだいることを実感できた今年度でした。

【来年度に向けて】

小学校低学年の昔遊びや地域探検、中学年の地域の昔の様子を聞く体験など、小学校の教育課程の中には地域の方々の力を借りて学びを充実させることができる機会がたくさんあります。小学校の職員に二名小学校区地域教育協議会についてより深く知ってもらい、学習に役立ててもらえるようにしていきたいです。そして、学校に地域の方々をお招きする機会を増やし、地域の力も十分活かして児童の教育ができるような体制を作っていきたいです。

めざす子ども像

人との出会いを通して

地域に学んだことを誇れる子ども

取組目標

地域の方々とのかかわりを通して、子どもたちの興味・関心を湧かせるような活動を実施し、人とかかわることを喜び、楽しく活動する子どもの育成

【今年度の取組紹介】

◆保育支援事業 《 ミュージックケアを楽しもう 》

ゲストティーチャー（音楽療法士）に来ていただき、園児が地域の方や保護者と一緒に、ミュージックケアを楽しみました。音楽にあわせて体をタッピングしたり鳴子やきららなどの楽器を使って体全体や体の部位を動かしたり、たくさんの種類の楽器を使って合奏したりしました。動きには、静動・緩急があり、気持ちのコントロールをしたり、みんなとあわす心地よさを感じたりすることができました。

◆体験活動事業 《 園児お茶会・お茶会参観 》

講師の先生から、作法やお茶の点て方や季節のお花（生け花）について教えていただきました。毛氈が敷いてあるいつもと違う雰囲気の中、緊張しながら自分で点てたお茶は特別美味しかったようです。参観ではお家の方にお点前を見ていただき、自分で点てたお茶を振舞いました。茶道という日本古来の伝統文化に触れるとても貴重な体験になりました。



【今年度のまとめ】

- ・コロナが5類に移行したことで、ゲストティーチャーとの距離が近くなり、マスクで見えなかった表情等も見ることができ、昨年度より親しく関わることができました。
- ・在園児数が少なく、園外から来ていただくことでより多くの刺激や学びを得ることができました。
- ・地域の方々の協力を得て、様々な体験をすることで子ども達は地域の方々へ親しみを感じ、感謝の気持ちを伝えたり、自分から話しかけたりする姿がみられるようになりました。子ども達は、地域の方々の温かい心に触れ安定し、人とのかかわりを広げていくことができました。

【来年度に向けて】

来年度は閉園ということもあり、5歳児1クラスのみになってしまいますが、地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方々や保護者の協力をいただきながら、子どもたちが感動体験できる事業を継続し進めていきたいと思います。また、各取組で学んだことや感動体験を日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思います。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域の中で生きぬく子どもの育成

【今年度の取組紹介】

《ふれあい交流事業「ぽかぽかタイム」》

今年度より地域の方と交流しふれあいを楽しめる機会として、月1回「ぽかぽかタイム」を始めました。

「今日はどんなことするのか」「〇〇さん今日も来てくれるな」と子どもたちは、地域の方と一緒に過ごすことを楽しみにしていて、当日は地域の方が読んでくださる紙芝居を見たり、折り紙や紙風船などの伝承遊びをしたりしながら遊ぶことを喜んでいました。

「紙飛行機こうやったらよく飛ぶんだって」「紙鉄砲、最初は鳴らなかったけど、地域の方と一緒にしたらできるようになった」と地域の方から教えていただいたり、励ましてくださったりすることで、子どもたちの自信にもなり、地域の方の温かさを感じ、親しみをもって関わるができる時間となっています。



《体験活動事業「こども園を飾ろう」》

「こども園を飾ろう」では、地域の方を‘お花の先生’として招き、生け花を教えてくださいました。花を生ける中で、花一本一本を大切にすることや季節や用途に合わせた花材についても教えていただき、子どもたちは「いい匂いがするきれいなお花だね」「やさしく持って切るよ」と丁寧に扱いなら、花の名前、におい、形の違いなどに興味をもち、花を生ける楽しさや、花の美しさを感じていました。生けた花を園内に飾り、保護者の方や他学年の園児に見てもらうことで喜びや達成感にもつながり、豊かな体験や学びに繋がりました。



【今年度のまとめ】

今年度は、活動への制限がなくなり、子ども達の実態に合わせ、地域や他クラスと関わる機会を増やすことができました。地域の方と一緒に過ごし触れ合うことで、優しさや温かさに接し、安心感をもって関わることを積み重ねることができ、感謝や思いやりの心、コミュニケーション力を育むことに繋がったと思います。

【来年度に向けて】

今年度取り組んだ活動を、年間計画に位置付けて計画的に行うとともに、地域の教育力を活かし、子どもの様子や興味関心に応じて内容を工夫することで、さらに地域とのかかわりを深め、子どもたちが豊かな体験活動を経験できるようにしていきたいと思います。また事業についての情報発信を定期的に行いながら、園、地域、家庭の連携が密になるようにしていきたいと思います。

めざす子ども像

『自らの街に誇りをもって、自らの街のことを語れる子ども』

取組目標

～守ろう地域のたから 育てよう故郷を愛する子どもたち～

【今年度の取組紹介】

<史跡散策&どんぐりひろい>

4年ぶりの史跡散策では、国内最大の蛇行剣と盾形銅鏡を出土し話題の富雄丸山古墳に出向きました。専門家の解説のもと、地域の歴史を学び、古墳でのどんぐりひろいも楽しみました。埋蔵文化財調査センターには、事前打ち合わせから当日の説明・出土品の展示まで協力いただき参加者からも大好評でした。

<どんぐりプロジェクト>

どんぐりポスト設置3年目。地域住民からも率先した協力をいただき、564kgが集まりました。猛暑の影響を受け、昨年(814kg)より少なかったのですが、子どもたちと一緒に鹿にどんぐりをあげることができました。鹿愛護会からは初めてお礼状をいただき、来年の活動への励みとなりました。

<京中にあつまれ！ポッチャ大会>

4回目の今年は子どもたちが審判をつとめました。サポート役のシルバー世代からは「元気をもらえる」「来年も一緒にやろう」の声が届きました。

<広報紙「京チュン通信」>

私たちの事業を多くの人に知ってもらうツールとして年2回発行。夏号には復活した史跡散策&どんぐりひろいの特集を、春号では中学卒業生の「将来の夢」を掲載。写真撮影や記事の準備、校正、仕分けまで全CNが関わり作り上げました。



【今年度のまとめ】

- ・学校担当司書が月1回配置となり新しいPCによる貸出業務は遅延しましたが、子どもたちの居場所である学校図書館を司書・司書教諭の協働のもと運営する本来の姿への変革が始まったと感じています。
- ・「京チュン通信」は子どもたちや地域の皆さんに好評で、発行を心待ちにするファンが定着しています。
- ・コロナ禍後の効率的な取組を検討し、LINEをフル活用して会議を月1回に削減しました。
- ・新しいボランティアの職業や人脈を活かした新しい活動を試すことができました(5校園巡回原画展)。

【来年度に向けて】

- ・『継続は力なり』地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進します。
- ・「史跡散策」「授業支援」「ポッチャ大会」「京チュン通信の発行」「大学生参画事業」など継続して取り組み、ボランティアの輪を広げ、学校園の必要な場面で必要な支援ができる組織を目指します。
- ・新規事業として「5校園巡回原画展」を実施し、子どもたちに本物に触れる場を提供します。
- ・「学校に行きにくさを感じる子の支援」の一環として保護者が集える場を模索します。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

学校を美しく こころを豊かに 挨拶が響き合い

互いの思いを語り合える学校に

【今年度の主な取組紹介】

- 「図書ボランティア事業」
年間を通して、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や蔵書整理、新刊本の紹介などの環境整備活動を実施しました。
- 「放課後学習支援事業」
定期テスト前の放課後学習会に、大学生参画事業により活動している学生が参加し学習補助を行いました。
- 「キャリア教育支援事業」
進路学習支援の一貫として面接マナー講習会を2、3年生を対象に実施（年2回）しました。
- 「国際交流事業」
1年生において、日本への留学生の方（スリランカ、ネパール、ミャンマー、バングラデシュ）を講師として招聘し異文化交流授業（食文化、言語、観光地など）を実施しました。
- 「道徳・福祉体験活動事業」「放課後学習活動支援事業」
 - ・わかばふれあいレストランを開催し、特別支援学級生と保護者、地域の方が豚汁の調理を通して交流を深めました。
 - ・障がい者問題を全体の問題として捉え、共生していくことを考える機会として、1年生において福祉体験（車いす体験、視覚障がい者体験）を実施し、多数のCNの方々による補助をいただきました。また、ろう者の方々を講師としてお招きし、2年生において福祉体験（手話体験）を実施しました。



【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。地域の皆さんが温かく見守ってくださり、時には一緒に活動して、生徒たちに積極的に関わりをもってくださることで、生徒一人ひとりの心の中に学校愛や地域愛が生まれ、自らの地域、まちを誇れる生徒の育成につながっていると感じます。また心にゆとりが生まれ、挨拶がしっかりできる生徒がますます増えてきて、まちでは朝から元気な声が響き、地域の方々との交流の機会となっています。

【来年度に向けて】

- 今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいです。
- 各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることが伺えます。
- マンネリの活動にならないように工夫を行うとともに、地域の方々が参加してよかったと思っただけの活動方法をさらに模索していきたいです。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを誇れる子ども

取組目標

命こそ宝、地域が宝。宝を活かそう！

【今年度の取組紹介】

地域 CN・ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動を支えてきました。

① 図書ボランティア（としょぼん）による活動

- 掲示物作成
- 新書のブックカバー作業
- 本の整理
- としょぼん通信の発行
- 環境整備 等

② 学習支援

- 福祉体験の補助
- 読み聞かせ
- 七夕飾りの補助 等



としょぼん通信 1000冊

朝の読み聞かせで読まれた本が 1000冊 を超えました！

記念すべき1000冊目は、
まゆとかっぱ やまぼのむすめ まゆのおはなし
降矢なな(絵)／富安陽子(文)

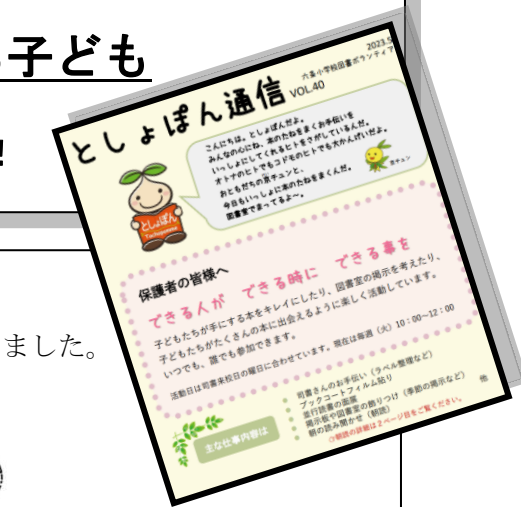
2014年のとしょぼんの創立時から
尽力していただいている河瀬紀江さんの読んだ本が、
記念すべき1000冊目となりました。

…最近の読み手が自分で入力する形で記録を
取っているのが付度なす(笑)

としょぼんの活動は2014年からはじまり、その当時からずっと続けてきた活動が
朝の読み聞かせ(朗読)です。当初から記録をとっています。この記録は、としょぼんの
大事な軌跡となっています。

今までに参加した読み手は 35名。
今年度は14名が参加しています。お母さん、お父さん、おばあちゃん、大学生…
校長先生に読んでいただいたこともあります。

読まれた本の種類は 750冊！
全部で1000冊なのに750種類の本って驚きですね。
ほとんどが通う本を選んで読まれているんです。
読み手が、季節や子どもたちの学習内容、遠足の行先などを考えて選んでいます。



【今年度のまとめ】

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により当初の活動計画の変更を余儀なくされましたが、感染状況を見ながらできることを地域と共に考え、再開できた活動もありました。

【来年度に向けて】

- ・ 保護者・地域にも活動取組を紹介することで、学校にいなくても活動がわかるように発信していきます。
- ・ 感染予防対策をしながら、「できる事を できる時に できる形で」地域の方と共に前進していきます。

めざす子ども像

自らの街に誇りをもって、自らの街のことを語れる子ども

取組目標

ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～

【今年度の取組紹介】

児童健全育成協議会（ふしニャンの会）の主催により、7月に「七夕祭り」、11月に「干し柿作り」、12月に「しめ縄作り」を実施できました。新型コロナウイルス感染症が5類移行となったことを踏まえて、行事内容の検討をおこないました。検討の結果、すべての学年の子どもたちが、いずれかの行事に参加することで日本の文化に触れる体験ができるように、「七夕祭り」を1・2年生（5・6年生）、「干し柿作り」を5・6年生、「しめ縄作り」を3・4年生対象とすることにしました。5・6年生が年間2回となりますが、1・2年生が安全に作業を進めることと交流を目的として、「七夕祭り」を1年生と6年生、2年生と5年生が共に活動する機会としました。1月には、土曜日活動として「とんど」を実施しました。

いずれの活動でも会のみなさまや自治会、万年青年クラブ、民生児童委員、地域 CN、ボランティアの方々に指導や活動の支援をいただきました。子どもたちが伝統文化についての学びを深めるとともに、地域の方とのふれあいを楽しむ素敵な時間となりました。

図書室では、図書ボランティアの方が定期的に環境整備に尽力くださるとともに、2・3学期にはすべての学級での読み聞かせを実施するなど、子どもたちが本の魅力を感じ、読書に親しめるよう活動くださいました。また、基礎学力向上のために漢字の学習に取り組んでいただき、2月17日には本校での漢字検定を開催することができました。



【今年度のまとめ】

「自らのまちに誇りをもって、自らのまちを語れる子ども」の育成を目指し、保護者・地域の方と連携して子どもたちの豊かな人間形成に資する活動となるよう心がけながら諸行事を進めることができました。その際、よりよい行事のあり方を検討しながら進めることができ、これからにつながるものになったと考えます。また、栽培委員会や学年の花・野菜植えといった様々な場面で、地域の方の協力を得ることができました。回数は多いとは言えませんが、子どもたちが地域とのつながりを感じることができたのではないかと考えます。

【来年度に向けて】

地域・学校・家庭の連携を強化しつつ、子どもたちの学びが深まるような活動の計画や学習環境の整備を、地域の方の協力を得ながら進めていきます。地域の方がゲストティーチャーや学習支援ボランティアとして学校教育に関わっていただきやすくなるように、学習内容を検討し、年間計画の策定を進めたいと考えています。

めざす子ども像

『自らまちに誇りをもって、自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

こころとからだで感じ、意欲的に遊び、たくましく生きる子ども

【今年度の取組紹介】

○今年度はたくましく生きる子どもをめざし、地域住民の奈良市ソフトボール協会の方々に幼児期からのボール遊びを教えてくださいました。ソフトボールを用いて、投げる・受ける・打つという体験を通して、地域の方と一緒にストラックアウトゲームやベースボールのゲームをして楽しみました。



○『体操教室では』バブル体操教室のコーチに毎月来ていただきました。始めにストレッチ体操をして身体をほぐし、順番に跳び箱や平均台、マット、鉄棒等の使い方を楽しく教えてください、最後にはサーキット遊びをしました。ひとり一人の発達に合わせた援助をされながら、正しい運動用具の使い方を学ぶ事で子ども達は安全な遊び方を楽しく学び、普段の保育の中でも安全に遊ぶことができます

○毎年、小学校の先生をされていた地域の方に『運動遊びの会』をしていただき、年少は縄跳び、年長はボールやフープを使った運動遊びを教えてくださいました。それぞれのアイディアを皆の前で紹介され、子ども達は主体的に遊びに取り組み、身体を思いきり動かして楽しんでいました。



【今年度のまとめ】

『あそボール』の活動での投げる・受ける・打つという動作は、手・足・体を同時に動かす為、体の基礎運動能力の向上や体のバランスを上手にとることができる事を教えてください保育に活かしました。『体操教室』では「楽しい・嬉しい・くやしい・できた」を共感し、友達と一緒に「できた」という感動や達成感を味わうことができました。また、『運動遊びの会』ではフープや縄跳びを使った遊びを通してバランス感覚やリズム感、あきらめずに取り組む事で向上心を身につけることができました。これらの取組から子ども達は意欲的に活動し、自ら学ぶ力やたくましさを育むことに繋がりました。友達と力を合わせて得た達成感や満足感、地域の方と触れ合って学んだコミュニケーション力や感謝をする気持ちが意欲や思考力につながり深い学びへとつながっていきました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方々の教育力に助けをいただきながら、子ども達に五感を刺激するような様々な経験をさせてあげたいと思っています。またその取組をホームページや六条幼稚園ニュースで紹介し、六条幼稚園の子ども達の様子をお知らせしていく予定です。園の行事や子どもの様子をホームページや六条ニュースで発信し、地域の皆様に見守っていただきながら活動していきたいと考えています。

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、心豊かで
いきいきと活動する子どもを育てる。

【今年度の取組紹介】

◆創立40周年おめでとう会

幼稚園創立40周年の節目の年として様々な記念行事等の取組を行いました。11月に開催したおめでとう会では、「マジックショー」や「絵本原画展」等を地域、保護者の方の参加も得て実施できました。

「マジックショーは不思議なことがいっぱい楽しかった」「ほのぼのとした絵本の原画を見て気持ちが温くなりました。」等、子どもや保護者の心に残る学びの多い時間となりました。



◆親子陶芸

地域の赤膚焼き窯元の先生をゲストティーチャーとして招き、親子で作陶をしました。作品は、40周年記念作品展に展示し、保護者や小学生、地域の方にも観ていただくことができ、保護者からも「素晴らしい体験ができ、本当に良い経験になりました」と嬉しいご意見が多く聞かれました。



◆ドローンを飛ばそう

記念運動会で行った子ども達の演技をドローンで撮影していただき、子どもや地域の方もドローンの操縦を体験する機会をつくりました。子ども達は空から見た幼稚園や自分達の姿に驚き、ゲストティーチャーに教えていただきながら、楽しく操縦を行い、貴重な体験となりました。

【今年度のまとめ】

・感染症対策を徹底しながら昨年にはできなかった事業や取組ができました。地域コーディネーターや地域の方々と共に活動する機会も増え、子ども達はいろいろな人や身近なものとの関わりをもち、心豊かでいきいきと活動する場面が多く見られました。地域への園外保育も、地域コーディネーターのサポートのもと実施できました。人との関わりや経験を通して、地域を知り、心をこめて挨拶し、親しみや感謝の気持ちが育ち、コミュニケーション力が育ちました。保護者の方からも「いろいろな行事や遊びの機会があり、子どもと一緒に経験ができて楽しめました。」「ゲストティーチャーに来ていただき、体操や英語に触れる時間がありとても楽しく学んでいます。」と子どもの心豊かでいきいきと活動する姿を見て、主体的で豊かな学びにつながっていることを喜んでくださっています。

【来年度に向けて】

ハローイングリッシュや、のびっ子クラブ、未就園児との交流等の活動も学びが多く、継続の大切さを感じることから来年度も行う予定です。新規事業として、小学生のお話こんにちはや、防災教育事業等を予定しています。来年度も、地域の方や保護者の方と連携しながら環境構成や援助の方法を工夫し、自らのまちに誇りを持ち、自らのまちのことを語れる子を目指したいと思います。

めざす子ども像

・学びを大切にする園児児童生徒 ・仲間を大切にす**る園児児童生徒 ・命を大切にする園児児童生徒**

取組目標

**自ら考え、行動する力の向上と人に思いやりを持ち、繋がりを大切に
するコミュニケーション能力の向上。挨拶ができる能力を身につける。****【今年度の取組紹介】**

・子どもに豊かな心と生きる力のもととなる確かな学力を育むために、地域の人材を活用し、読み聞かせ活動や富雄丸山古墳の学習を通して地域学習にも取り組みました。また就学前から英語になじむ取組を行いました。

・地域での安全見守りを通して、いろいろな問題点も見えてきています。

・各校園一斉「花いっぱい運動」で地域ボランティアの皆さんと花植えを2学期と3学期に実施。

・大学生参画事業参加大学生と校区の卒業生の大学生とが、身近なお兄さんお姉さんとして児童・生徒と「とみにゃんフェスタ」を企画から当日運営まで行いました。

・とみにゃんクラブ（中学生）、とみにゃん kids（小学生）のボランティア活動を活発に行い、企業にも協力いただき、「掃除」の学習のお手伝いを行い、自らも掃除の必要性を学びました。

とみにゃん kids は地元の苗屋さんに出向き、買い付けから値付け販売までを行うキャリア教育の取組をすることができました。自ら考え行動する力や、異年齢との繋がり、地域の方との交流が行えました。

**【今年度のまとめ】**

コロナが5類になったものの、4年間の空白のような部分があり、計画通りに進めることが難しかったですが、new フェスタ「とみにゃんフェスタ」も2回目となり、昨年の倍以上の参加者で会場は盛り上がりました。

目指す子ども像の「学びを大切に・仲間を大切に・命を大切に」は十分な成果を出せています。継続して行ってきたことが、児童生徒に定着し、また自ら考え、行動するという点においても今何をすべきかを考えて行動している場面を多くみることができました。

【来年度に向けて】

コーディネーター不足や、次世代の担い手の育成が大きな課題となっています。

校区の中学を卒業していった子どもたちが学生ボランティアとして戻ってきてくれる仕組み作りが大きな課題だととらえています。

さらに、コロナ禍で先生との距離感ができている部分の修復が必要になってきています。

めざす子ども像

学びを大切にする園児児童生徒 仲間を大切にする園児児童生徒 命を大切にする園児児童生徒

取組目標

子どもたちが地域とのつながりを意識できる学習環境整備・取組を充実する。

【今年度の取組紹介】

○9月30日にPTAと地域が協力して、合同清掃を行いました。

昨年度に引き続いての実施となりましたが、晴天に恵まれ、気持ちの良い汗を流すことができました。地域・生徒・保護者の参加者全員が協力して、木々の伐採や剪定、草引きを熱心に行っていたため、美しい学校環境ができたと共に地域の絆がより一層深まったと思いました。これからも、整備の行き届いた美しい学校を目標に、落ち着いた環境を維持し、笑顔があふれるようなすばらしい環境を整えていきたいです。

○12月2日に本校を会場に富雄南中学校区地域教育協議会主催の「とみにゃんフェスタ 2023」が開催されました。これまでも開催していたイベントでしたが、新型コロナウイルス感染症が5類になったこともあり、昨年度以上に多くの参加者が集まり、盛大に実施されました。この日も天候に恵まれ、幼い子どもたちからお年寄りまで、幅広い層の地域の皆様が参加し、とみにゃんコンサート、花苗販売、国際交流等の充実した内容で、イベントを行うことができ、参加された地域の皆様は満足された様子でした。



【今年度のまとめ】

富雄南中学校では、地域行事や地域教育協議会主催の行事への協働体制が定着していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事の中止や制限があり、交流や協働の場がなくなっていました。しかし、今年度は、その制限が緩和され、徐々に通常の活動ができたことで、これまでの協働体制を復活させることができ、とても喜んでいます。

【来年度に向けて】

これからは新しい仕組みをつくり、地域との交流や活性化させ、これからの時代の流れに応じた活動により、さらに絆を深めていけるように活動していければと考えています。また、富雄南中学校区のマスコットキャラクターを活用し、地域と学校が安全で暮らしやすい環境を作れるように、学校、保護者、地域が一体となって、協力して進めていけるように努めていきます。

めざす子ども像

学びを大切にする園児児童生徒 仲間を大切にする園児児童生徒 命を大切にする園児児童生徒

取組目標

- ・読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・地域の方々とのふれあいを通して、コミュニケーション能力を高める

【今年度の取組紹介】

今年度も「人とふれあい 地域とつながる」をコンセプトに計画しました。また、アフターコロナとよばれるこの時期に「実施できること」や、「実施できる方法」、そして「今後も持続可能な事業としての在り方」を模索しました。「チャレンジタイム事業」等の体験学習、「ファンタジータイム事業」の読書活動の推進、「環境整備事業」の教育環境を充実させる活動は、人の動きが制約なく活発になる中、一層充実した活動を行うことができました。「リアルに本物を体験できること」、「子どもたちの学びの教育条件を整える環境整備」は、今の本校児童にとって大変貴重なことだと思います。それを地域の方々と共に実施できたことは、大変意義あることでありました。

ファンタジータイム事業 チャレンジ事業 環境整備事業

ファンタジータイム事業として、本の読み聞かせや図書室の整備を行いました。また、チャレンジタイム事業（地域学習、福祉体験学習）、環境整備事業（花の植え付け）などを地域の方々と一緒に行い、多くの児童が参加して実施することができました。



地域の方と児童による花の植え付け 5年地域学習 赤膚焼体験

【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の影響が減り社会や人々の考え方が変わる中、どのように活動を実施すればよいか、どのような活動が実施可能かを、地域コーディネーターとともに思案しました。「地域の方々とのふれあい」を意識してプランニングを行い、内容・参加する人数などを調整して実施していきました。どの取組でも、子どもたちからは、「すごく楽しかった。」「地域の方に教えてもらって良く分かった。」「図書館がきれいになってうれしい。」等の声がきかれました。児童に自分が住む地域への関心を深め、地域の中で生きているという意識を持たせることができたと感じます。特に本校の卒業生である地域の方々が、活動の合間に語られる学校での思い出が子ども達には心に響いたようです。また、地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくことにもつながったと感じました。

【来年度に向けて】

あたえられた環境の中で、持続可能な事業の在り方を模索しながら、活動内容を深化発展させていきたいと思います。そして、地域・保護者・学校・行政が協働して教育目標の達成に向かって進めていきたいと思います。

めざす子ども像

- ・ 学びを大切にする園児・児童・生徒
- ・ 仲間を大切にする園児・児童・生徒
- ・ 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

体験 発見 創造ひろがる「三碓学習」
児童の豊かな感性を醸成する
～学習環境の整備・充実 地域の方々と連携し本物にふれる体験を～

【今年度の取組紹介】

今年度は、昨年度に引き続き「三碓の町たんけん」「いのちの学習」「三碓（なら）の祭り」「むかしあそび」「伝統文化～書道」「人権と平和」など各学年で、テーマに基づき、できる形で行おうと考えました。

また、豊かな感性や情操を育む事業として、1年を通しての「図書ボランティア」によるより使いやすい図書室への改装と「校内緑化」及び「校内環境整備」事業を進めました。また、本年度は昨年度に引き続きプール学習監視する教員を配置しました。コロナ感染拡大による制限は明けましたが、数年できなかったプール指導をより充実させるために地域から大学生の人材を紹介いただき、指導支援をしてもらうことができました。引き続き行っている3年生の習字や 低学年の昔遊び 6年生の平和学習など、これらの学びをきっかけとして、三碓に愛着をもつ児童の育成に向けた活動となっています。

**【今年度のまとめ】**

「学び」「仲間」「いのち」を大切にする感性豊かな子どもを育成することは、本校保護者をはじめ地域の方々の強い願いです。地域を愛する方々とともに実体験をした児童は、「みつがらす」という郷土とともにそこに暮らす人々を愛し、誇りをもつことができました。

ボランティアの方々と進めてきた「校内緑化・環境整備事業」が根付き、今年度は地域の力をお借りすることがあまりできませんでした。子どもたちが自ら企画・作業を行い、新しく田畑や花壇・寄せ植えを作り、育てました。子どもたちが「主体的に考える」取組を行うことができました。

【来年度に向けて】

実体験ができる「環境」と「人」の提供を目指して取り組んでいますが、来年度も体験の効率化のため、ICTの活用も視野に入れて検討していこうと考えています。また、校内緑化・整備事業や地域と学ぶ三碓学習などは継続的に推進し、「学び」「仲間」「いのち」を大切にできる児童の育成に努めていきます。地域の方々と連携し進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

- ・ **学びを大切にする園児児童生徒**
- ・ **仲間を大切にする園児児童生徒**
- ・ **命を大切にする園児児童生徒**

取組目標

ぐんぐん 伸びよう 笑顔 いっぱいタイム

【今年度の取組紹介】

地域の方とのふれあい事業 “キッズイングリッシュ”

地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、英語に触れて遊ぶ“キッズイングリッシュ”を年間通して行いました。回数を重ねることで、「ハロー」と子どもたちから挨拶したり、「今日の天気は?」「どんな気分?」と英語で聞かれると、元気に答えたりする姿もありました。また、手遊びや歌を一緒に真似たり、体を動かしながら英語のゲーム遊びをしたりなど、楽しみながら英語に触れる機会となり、意欲的に取り組む姿がたくさん見られました。



環境整備活動事業 “花いっぱい運動”

園の花壇やプランターに春や秋、冬と季節毎に花苗植えを行いました。秋は職場体験で来てくれた中学生のお兄さんお姉さんと一緒に行いました。「ここを持つんだよ」と優しく教えてもらい、「一緒にして」「見て! 植えられたよ」と会話を楽しみながら、中学生に親しみの気持ちをもつこともできました。また、たくさん花が咲いてくると、「お水あげようっ」と「きれいだね」と生長の様子を楽しみに栽培する様子も見られ、豊かな心に繋がっていると感じています。



【今年度のまとめ】

友達と一緒に、いろいろな方と関わりながら様々な体験活動に取り組む中で、興味や関心をもち、活動する楽しさを味わい、主体的に取り組む姿が見られました。上記の他にも“サッカー教室”や“みんなであそぼう”、“おはなしの広場”等もさせていただきました。これまで積み重ねてきた取組を継続して行うことで、意欲や期待感がさらに高まり、子ども達の豊かな学びになりました。

また、地域や保護者の方と一緒に、草引きや花の苗植え、“わくわく畑”での栽培活動など、身近な環境を自分達で整えたり、栽培したりすることで、興味や関心が広がりました。自ら遊びに取り入れたり、地域の方により親しみの気持ちをもって活動したりする姿につながりました。花壇を見て、「これ、私が植えたんだよ」「きれいだね」と、親子の会話も弾んでいます。

【来年度に向けて】

地域や保護者の方の協力を得ながら、様々な人との関わりを大切にして事業を継続し、友達と一緒に多様な体験を積み重ねていきたいです。その中で、地域の方との繋がりを広げ、子ども達にとって必要な経験となるよう、取り組み方や内容を工夫していきたいと考えています。

めざす子ども像

学びを大切にする園児児童生徒

仲間を大切にする園児児童生徒

命を大切にする園児児童生徒

取組目標

人や自然との豊かなふれあいができる環境を整え、地域とのつながりを感じられる取り組みを行っていく。

【今年度の取組紹介】



・地域の方に来ていただき、「おもしろ理科教室」を開催しました。空気を使った遊びや磁力を使った遊び・電力を使った遊びなどを紹介していただき、子どもたちは驚いた様子で「なんでだろう?」「すごい」と声をあげながら物が動いたり、変化したりする様子を見ていました。身の回りの出来事に驚き、感動したり、創造したりすることで豊かな感性が育まれ、学ぶ楽しさを味わうことができました。

また、スクテッドフットボールクラブにきていただき、マットやフープサッカーボールを使い、遊びの中で体を動かす基礎を教えていただきました。少し難しい動きも、はじめは「できるかな」と不安な姿もありましたが、「できた」という成功体験を通して「もっとやりたい」という意欲につながり、しなやかな体づくりの一步となりました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルスの5類移行を受け、交流方法や開催回数を拡大し、こども達は様々な活動に意欲的に参加することができました。読み聞かせ事業では学期に1回来ていただき、絵本や紙芝居などに親しみを持ち、お話の世界に入り込むことで創造する力や表現する力につながりました。また栽培活動や、環境整備事業では地域の方に苗の植え方を教えていただいたり、一緒に花を植えたりすることで生長に期待を持って自然に関わる姿につながっただけでなく、収穫を通して食への関心や味わうことの喜び、命の大切さにも気付くきっかけとなりました。運動遊び事業や地域交流事業では「おもしろい」「どうしたらいいかな」「やってみよう」という心が育ち、できたという成功体験を実感したことで子ども達の意欲につながりました。

【来年度に向けて】

子どもたちが地域の方と様々な活動を通してより一層交流する機会をもち、地域のことを知り、地域の方に見守っていただきながら学び育っていけるようにしていきたいです。そのために園の取組や園の保育・教育活動の中での子どもの育ちを地域の方に幅広く知っていただけるよう、広報の在り方を見直したり、地域の行事等に何らかの形で積極的に参加したりしていきたいです。

めざす子ども像

地域の絆を深めよう 平城の地でいのちを育もう

取組目標

食と農を通じて地域の絆を深めよう**【今年度の取組紹介】**

今年度も平城の地域性を活かした「食と農」の活動を実施することができました。米づくりでは、田んぼに入るのを躊躇していた子どもたちも次第に慣れ、泥んこになって和気あいあいと田植えを楽しんでいました。秋の稲刈りの時には、慣れない鎌を持って一束一束丁寧に刈取り収穫の喜びを味わってくれていました。

さつま芋の栽培活動では、さつま芋の生長も良く必死になって引き抜こうと友達と協力し合っている姿が印象的でした。後日、焼き芋にしたり、さつま芋汁にしたりと「食」の有難さも知ることができました。

中学校では、昨年度から引き続き行っている大根の栽培が予定より大根の生育が悪く、日程の関係上漬物の事業はできませんでしたが、活動の中に生徒の皆さんの地域の方への感謝の気持ちが感じられ地域の者もやりがいを感じることができました。

コロナ禍に始めたパンジーの栽培活動もこども園、学校の環境整備に一役かってくれています。吹けばとぶようなパンジーの種ですが、なくさないように慎重に種まきをしてっていました。

春まで、学校園に彩りを添えてくれることと思います。

**【今年度のまとめ】**

今年も、諸先生方、子どもたちの協力のもと無事に活動を終えることができました。

平城地域も、さらに田畑が少なくなっていますが、子どもたちには農業の大切さや難しさを学んでもらえる貴重な機会だと考えています。それぞれの年齢で活動に難しさがあるときは、高学年の子どもたちがサポートしたり、見守ってくれており、協力してものづくりをすることにやりがいを感じてくれていると思います。

日本古来より現在に至る「米」というものがどのような工程を経て、「米」から「ご飯」になっていくのかを身をもって体験できたことと考えています。

【来年度に向けて】

従来からの活動を継続していくとともに、地域の諸団体とも連携を強化し活動の幅を広げていきたいと思っています。子どもたちには地域の方と触れ合うなかで、自身も平城の一員である気持ちをもってもらい、地域の方には地域教育協議会の活動をより深く知っていただけるよう事業の成果や意義を広め、広報活動の充実に努めていきたいと思っています。

めざす子ども像

地域の絆を深めよう 平城の地でいのちを育もう

取組目標

食と農の活動を通して、地域との絆を深める**【今年度の取組紹介】****① 地域の方と協力して「サツマイモ」「大根」の栽培に挑戦！**

今年も年度当初に「平城“食と農”ふれあいフェスタ」は開催しないことに決定しましたが、人が生きていく上で一番の基本となる「食と農」を通じて、心身ともに健全な子どもたちを育成していくという平城中学校区の目標のもと、今年も地域の方たちと共にサツマイモと大根の栽培に取り組みました。今年は、4月末に「鳴門金時」の苗の数が十分に集まらず、「鳴門金時」「ひめあやか」「すずほつくり」の3品種合わせて400苗を植えました。

蔓きりや夏の猛暑の中の水やりなど地域の方々の力を借りながら9月20日には、3品種とも無事に収穫することができました。食べ比べはできませんでしたが、どのお芋も美味しく育てることができました。サツマイモの収穫が終わった畑を利用して、沢山の大きな大根を栽培しました。地域のイベントで中学生の“食と農”の取組（大根栽培）について紹介することができました。

② 地域、こども園・小学校・中学校で連携してパンジーの栽培！

小学生が種まきをして育てたパンジーを中学生がプランターへ植え替え、最後はこども園、小学校、中学校で水やりをして、花を咲かせることができました。校種や学年・年齢を超えて地域で連携することができた素敵な取組になりました。

**【今年度のまとめ】**

〇ここ数年沢山の人が一斉に活動することができませんでしたが、新型コロナウイルス感染症の位置付けが変更されたことで、地域の方々と生徒と一緒に活動したり、多くの生徒が実際に栽培に参加できる機会が増えました。地域の方々と一緒に活動することで、普段から見守っていただいている地域の方々への感謝や自分たち自身が地域の一員である自覚が育ちつつあるように感じました。

〇環境整美事業については、今年度も地域の方々の力を借りながら、生徒や職員も一緒に活動し、気持ちよく学習に取り組むことができる環境を作り出していただきました。

【来年度に向けて】

〇来年度は、さらに生徒たちが主体的・意欲的に取り組む視点を取り入れて、今年度の取組を踏襲しながら、地域と学校の双方が無理のない内容で取り組みたいと考えています。

〇生徒一人一人が平城地域の諸活動に対して主体的に取り組み、継続的な取組にしていくとともに、地域の方の協力を得て、環境美化活動への支援の輪をさらに広げていきたいと思っています。

めざす子ども像

「地域の絆を深めよう～平城の地で命を育もう～」

取組目標

地域・家庭・学校が、栽培・生産・命を育む取組を中心に、協力して学んでいく**【今年度の取組紹介】****◆米作り体験**

地域の方から学校の南に隣接したたんぼをお借りして、5年生が田植え・稲刈り体験を行いました。今年で14年目になります。田植えや稲刈りには、地域の方々や農協の方々が多数応援に駆け付けてくださいました。

**◆サツマイモ栽培**

1年生と6年生が、地域の方にやり方を教わりながらサツマイモを植え、世話をしました。10月には再び1年生と6年生が一緒に収穫をしました。6年生が1年生に教え、手伝う姿を地域の方がサポートしてくださいました。収穫した芋は、放課後子ども教室と共催の焼き芋大会でふるまわれました。

**◆パンジー栽培**

地域の方が中心になり、地域の校・園を彩るパンジーを種から栽培してくださいました。その植替え作業等に中学校・小学校・こども園がそれぞれ携わりました。

小学校では、園芸委員会が中心となり、植替え作業や日々の水やりを行い、地域と共に栽培を続けています。卒業式にはその花を飾り、卒業生をおくります。

【今年度のまとめ】

地域の方を集会や掲示で紹介することで、児童や保護者の意識づけになりました。地域の方々との協働による様々な栽培体験活動で、達成感や成就感を味わい、また、顔を合わす機会や、自然に挨拶を交わし話すことも増え、コミュニケーション力の育成につながっています。栽培活動等の事後活動として農業に携わる苦労や思いを教えていただいたり、収穫後の交流を行ったり活動ができました。

家庭科学習・図工科学習の支援、図書室や中庭の環境整備への支援など、様々な面で地域の方々のお世話になり、教育活動を進める上でもなくてはならない存在でした。

【来年度に向けて】

各学年の児童により効果的な栽培体験学習を年度当初に計画し、地域の協力を得て実行していきます。教職員と地域の方々とのつながりをより深めるためにも、顔合わせや意見交換の場を設定し、密接な関係づくりを図ってまいります。校内で、地域と共に行う活動をまとめ、より計画的・継続的に行える体制づくりを進めています。実践内容の再度検討を図り、小中一貫教育の立場から子どもや教師の交流をより一層深めていきたいです。

めざす子ども像 「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう～

取組目標 食と農の活動を通して、地域の絆を深めよう
～園・家庭・地域が連携し、様々な体験を通して豊かな心と健康な体を育む～

【今年度の取組紹介】 栽培活動

今年も地域の方と一緒に栽培活動をしました。4歳児は、サツマイモの苗植えと芋ほりを、5歳児は、田植えと稲刈りをしました。田植えと稲刈りでは有志の保護者の方もたくさん手伝いに参加してくださり、地域の方に田植えの仕方を教わりながら共に楽しみました。

収穫したサツマイモを使って、地域の方と焼き芋パーティーをしました。子ども達は、サツマイモを収穫した時から「焼き芋にして食べたい!」と楽しみにしていました。お芋を洗って、アルミ箔に包んで、地域の方が起こしてくださった火にくべ焼けるのをとっても楽しみに待っていました。「甘い!」「美味しいね」「おかわりしたい」と地域の方と一緒に食べ、大満足の子どもたちでした。

毎年継続して行ってきたことで、見通しをもって栽培活動に参加し、地域の方と一緒に楽しみながら活動する姿につながっています。

また、5歳児は作品展の共同制作の中で奈良の街のジオラマを作りました。その中に、田んぼや畑も作り、経験したことを再現していました。地域の方と一緒に活動したことが子どもたちの心の中に楽しかった思い出としてしっかり残っているのだなと感じる一幕でした。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類になり、地域の方と相談しながら活動方法を考え実施できました。サツマイモの収穫や田植え、稲刈りを通して食への興味関心が高まり、地域の方への感謝の気持ちをもつことができました。保護者からのアンケートでも、地域で決める学校予算事業の取組の評価は高く、「地域の方と連携していろいろな体験をさせてもらえてすごく良い」との声が聞かれました。また、パンジーの栽培では、中学生が苗を届けてくださったり、小学生や地域の方と一緒に苗植えをしたりして、よりつながりを感じることができました。他にも地域の方や保護者の方の協力のもと、お話の会、体操教室、花植え、防災教室等を行うことができ子どもたちは様々な経験をすることができました。

【来年度に向けて】

今年度は、年度初めに地域の方と園の職員が顔を合わせる機会をもてたことでその後の活動がより円滑に実施できたので、来年度も早めに機会をもち、園児、保護者、地域が互いに心豊かな体験になるようにしていきたいです。

めざす子ども像

地域に対する誇りと、地域を大切にする心を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

飛鳥の地域で生きる喜びを感じる子どもが育つこと。そのために、地域と学校がより密につながる場と機会をつくり、これまで以上に地域で子どもを育む環境を整えること。また、地域の土台となる家庭を支え、地域の中で教師が育ち、学校と関わる地域人材が育つこと。

【今年度の取組紹介】

夏休みに、小中の教員と学校運営協議会の方々と、「地域と連携した学校教育の可能性～行事や活動再開に向けて～」をテーマに熟議を行い、教員が学校での教育活動を推進する上で地域に協力してほしいことなどについて話し合いました。地域の方々にも学校の実態や教員の思いなどを共有していただける機会となりました。



11月3日(金)に飛鳥小学校にて開催された「あすかフェスティバル」では、吹奏楽部やアートパフォーマンス部が日ごろの成果を発表したり、中学生の有志が歌や特技などを披露しました。また、中学生がヨーヨー釣りやコイン落としなどの模擬店の運営に携わり、たくさんの地域の方に楽しんでいただくことができました。さらに、保健給食委員会は防災や防災食などについて調べたことを展示発表し、地域の方々の防災意識の向上に寄与しました。中学生が地域と協働した一日となりました。



【今年度のまとめ】

『子どもたちの笑顔のために』をスローガンにした【熟議】を行うことで、地域・小中学校が一体となって、子どもたちの自主性や達成感を育むための教育活動の創造に結びつけることができました。このような、「子どもたちのためにできることを地域と学校が共に考え、改めて地域の宝である子どもたちにつけたい力」について考える時間や「地域を知り、地域を愛し、地域に誇りを持って、健やかに子どもたちが育つような方策」を考える時間を持てたことは、大変有意義でありがたいことです。

【来年度に向けて】

今後も「地域に誇りを持ち、地域を大切にする子どもたちを育てていくこと」「子どもたちが自ら考え、主体的に行動できる活動をする事」を大切に、地域・学校・保護者が協働・連携していきたいと考えます。そして、支えてくれる地域の方がいる中で、子どもたちがいきいきと活動し、地域の大人も子どももお互いが支え合い、大切に思いあえる関係づくりの構築につなげていきたいと思っています。

めざす子ども像

地域に対する誇りと、地域を大切にする心をもち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

自分を知り、自己の考えを育て、それを皆の前で表現し、行動できる力を育てる

【今年度の取組紹介】

今年度7年目を迎える「あすかスタディ・サポート（放課後学習教室）」では、火曜日やテスト1週間前の放課後に、地域ボランティアや奈良教育大学生が学習支援を行いました。図書室の整備等にもご尽力いただきました。

また、各方面で活躍されている方をお迎えし、講演をしていただく「スペシャリスト講演会」を今年度も開催しました。今年は女子車いすバスケットボールの北間優衣選手にお越しいただき、目標を自分で決めることの大切さやコミュニケーションの重要性についてお話をいただきました。また、どうすればだれもが生活しやすい環境になるのかを考えること、目に見えるものがすべてではないこと、などについても教えていただきました。講演後は生徒も車いすに乗ってバスケットボールを体験しました。北間選手とのゲームを通じた交流は、生徒たちの心に残るものでした。

さらに、今年度も地域の方々に中学3年生の模擬面接にご協力いただきました。地域の方々に生徒の様子を知っていただくとともに、問題解決力や組織的行動能力など、生徒たちが今、身に付けておきたい力などについて丁寧にアドバイスをいただきました。生徒たちには、地域の方々に見守り、育まれていることを実感する機会になりました。

今年度より、地域で活動されている和太鼓や日本舞踊などの各種団体に、中学生が部活動の一環として参加できるよう受け入れていただいています。生徒にとっては地域の方々とつながる場、学校にない活動を体験できる貴重な機会になっています。



【今年度のまとめ】

学校行事やキャリア教育において、地域との協働や連携を図りつつ、活動に取り組むことができました。生徒たちも地域の方々が学校生活をサポートしてくださっていることを肌で感じており、生徒会長が40周年記念事業のプログラムに「見守ってくださる地域の方々への感謝を忘れず、この一日を過ごしましょう」と記していたのは、その表れであると思います。

【来年度に向けて】

今年も「地域の中で、地域の方と共に自ら考え主体的に取り組む」ことをテーマに取り組んできました。その基盤となる「人と関わる力」「自分に誇りを持つ力」「確かな学力」の育成に向けて、これからもコーディネーターと教職員が連携し、地域行事や学校行事での地域との協働を深化させつつ、生徒の学力支援や探求的な学習活動の開発などにも取り組んでいきたいと思っています。

めざす子ども像

地域に対する誇りと、地域を大切にする心を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

地域に根差した学習活動等において、地域の方々がより活躍できる出会いの場を計画し、児童が様々な地域の方々と出会うことで、地域のよさに気づき地域を大切にしようとする意識を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類となったことから、様々な行事を行うことが可能になりました。また、今年度は、本校が創立150周年を迎える記念すべき1年であったことから、地域との関係もより密に取組を推進する必要がありました。

まず、地域の方に、「ならまち探検」や「世界遺産学習」など、校外活動の支援を行っていただきました。本校は歩いてすぐの場所に東大寺や興福寺などの多くの世界遺産があることから、地域の方と共に、充実した貴重な時間を過ごすことができました。

次に、調理や裁縫の授業サポートも行っていました。家庭で調理や裁縫を行う児童が少なくなっていることから、非常にありがたかったです。

創立150周年の記念式典の日の午後には、地域の方が主催して、飛鳥の集いを行い、多くの近隣の方も来校され盛大にお祝いをすることができました。

最後に、年度末に、地域ありがとうプロジェクトとして、日々の登下校見守りや上記の対応をいただいた多くの方を本校にお招きして、子ども達から、歌や花のプレゼントを行い、喜んでいただきました。

以上のように、今年度も地域の方と共に有意義な1年を過ごさせていただきました。



【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス対応が、変化したことから、地域の方との多くの行事を行うことができました。上記には、今年度の取組の一部を紹介したが、他にも本校を会場にした地域主催の「飛鳥フェスティバル」や、本校1年生を対象とした「昔遊び」など、地域の方と共に、新たな飛鳥校区の伝統を再構築していく1年となりました。その中で、今後の教職員の「働き方改革」を含め、持続可能な体制を模索していく足がかりとなりました。

【来年度に向けて】

今年度1年間を経験することで、様々な課題が見えました。何事も、具体的にを行うことで、もったいなくすれば良いのではないかなどの課題が明確になるため、今年度は、その課題を検討していく初年度となりました。日程的なことや内容的なことなど、地域の方と共に、飛鳥校区の子どもたちをどのように育てていくかを、今後も、検討していきたいです。

めざす子ども像

“ 気づく・学ぶ・考える子どもを育てる ”

取組目標

子どもにとって必要とされることを見出し、これを実践

【今年度の取組紹介】

- ・「とみきた」と言えば「ひつじの学校」と言われ、ひつじの放牧が、地域に浸透しています。
今年の「ひつじ歓迎会」は、雨の中多くの人たちが参加し、毛刈りなどの体験で生徒は楽しんでいました。
子どもがひつじの世話を毎日行い、子ども及び地域の人たちとのコミュニケーションが熟成されています。
広報面において、大きな力となっています。
- ・家庭で不要になったプラレールを家庭から寄付を受け、公民館と共催で「プラレール教室」を年間4回開催。
- ・「歌・ダンスクラブ」は学園前ホールとイオン登美ヶ丘でコンサートを開催。企業団体の支援により、開催。
- ・「ロボットクラブ」では、中学校のクラブ活動の支援として参加する事ができました。
- ・「わんわんパトロール」は今年も地域の見回り活動を毎日行いました。



【今年度のまとめ】

- ・コロナの影響もなくなり、これによって活動の大切さが再認識できた年度でした。
- ・学園前のイベントに歌・ダンスクラブが出演するなど地域や団体と連携する事ができました。
- ・「デザインスクール」を計画しましたが、実行できず残念でした。
- ・「ひつじの放牧」は、スタッフが大幅に入れ替わり、今後の体制が確立できました。
- ・「サマーセミナー」は、9講座を運営し盛況でした。
- ・全体的には、問題なくスムーズに活動出来ましたが、新規性が無かったのが残念でした。

【来年度に向けて】

- ・新規活動を行う事で、新たなコーディネーターの登録を目指したいです。
- ・やはり一番大切な人材の育成に重点を置きたいです。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

様々な活動を地域に発信する意識を持ち、できる限り子どもたちが
地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

環境整備事業では、地域の方とグラウンドの土入れや草刈り、花を植えるなどを実施しました。地域の方と生徒たちが、共に汗をかき地域をきれいにすることは、生徒たちにとって「自分の地域に貢献した」といった大きな充実感となりました。また、一緒に作業することにより、自然と会話がうまれ、地域の方と生徒の関係が深まったとともに、汗をかきながら地域のために作業する大人の方の姿を見て、ロールモデルとなり、目指すべき大人像を描けることができたのではないかと考えています。また、生徒たちが地域のイベントに参加し、イベントを盛り上げることに貢献したことについては、自分の地域は自分たちでよくしていくのだといった「当事者意識」を育成することができたのではないかと考えています。



【今年度のまとめ】

「地域の子どもたちの育成について」、地域の方と熟議を重ねました。教員の働き方改革を進めなければならない中、これ以上新しい取組を増やすわけにはいかないので、現状の取組の中で、生徒たちの育成を図るには、教員はどのような関わっていきけるのかについて熟議を深めました。その結果、地域の方に積極的に学校にきていただき、教員はコミュニケーションをはかるようにしました。特に効果的であったのが、地域の方に科学園芸部の指導を顧問に代わってやっていただいたことです。大変レベルの高い指導をしていただき、生徒たちにも好評でした。また、部活の地域移行を進める中で、地域の方とのつながりができて、大きな一歩となりました。今後、他の部活動においても広げていきたいと考えています。

【来年度に向けて】

来年度は次の3点について重点的に取り組んでいきます。一点目は、教員と地域の方と「熟議・対話」を重ね取組を進めていきたいです。二点目は、生徒たちに「自分の地域は自分たちでよくしていきたい」といった当事者意識を育成する必要があります。子ども企画から運営までできるように育成しなければならないと考えています。三点目は、「地域と共にある学校」を進めていきたいです。地域の方に積極的に学校にきていただき、教員の様々な業務について支援をしていただきながら「地域の子どもたちの育成」に関わることができるシステムを構築していきたいです。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、
子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

《体験学習事業》

◆車椅子体験 等

社会福祉協議会からの協力を得て、4年生が車椅子の体験をしました。自走と介助、それぞれを体験しました。実際に体験してみると、目線や操作性、小さな段差や傾きへの気づきがありました。これらの気づきは、今後の自身の支援の仕方につながっていくと期待しています。



車椅子体験ワークシート

4年 組 番 名前

めあて「車椅子体験を通じて、利用者の気持ちを考え、今後の行動につなげよう」

①事前学習

②乗って（座って）みて感じたこと（どんなところが大変か？）

③介助して（押して）みて感じたこと（どんなところが大変か？）

《環境整備活動事業》

地域の方と共に行う環境整備

◆通学路清掃、図書整備

保護者の方や学校近隣の方と共に学校環境の整備を進めました。図書室は司書の方々の助言指導をいただきながら、より使いやすい図書室へと変わっていき、利用する児童の数も増え、環境整備の大切さを感じています。

【今年度のまとめ】

- ・子どもたちはとても積極的に取り組み、貴重な学びを得る活動を実施することができました。これらの貴重な体験学習は、子どもたちの学びのスイッチを入れ、たくさんの気づきを生み出します。
- ・地域の方と共に行う環境整備は、より良い学習活動を営む上で欠かせないものとなっています。子どもたちが安全に気持ちよく登下校し、共に学び合う学び舎を維持しています。

【来年度に向けて】

学年に応じた価値ある体験学習や行事を行えるよう、実施の時期や形態を考えていきます。今後も保護者や地域の方々と連携を深め、さらなる交流や繋がりをもつことにより、心豊かで自分が生活するこの地域に誇りをもてる登美っ子の育成を目指していきたいと思います。

めざす子ども像

「気づく、学ぶ、考える、子どもを育てる」

取組目標

○地域人材を生かした体験的学習の充実と読書活動の推進

○恵まれた環境を生かした栽培活動や遊び・運動の推進

【今年度の取組紹介】

○放課後寺子屋「のびっこ」

小学校3年生の計算や漢字が苦手な子どもたちを対象に、木曜日の放課後に学習支援を行いました。地域の方や学生が先生役となり、簡単な計算ゲームやプリント、100マス計算などを行いました。

子どもたちは、楽しんで「のびっこ」に参加し、自分の成長を感じることができました。参加した地域の方も、子どもたちとの触れ合いに喜びを感じていました。



○読書活動の充実

今年度は、コロナ禍で中断していた朝の読書タイムを復活させ、読書活動に力を入れました。お話の会の方に来ていただく読み聞かせの機会も、学期ごとに設定しました。子どもたちは、身を乗り出したり、笑ったり、驚いたりなど、反応豊かに話を聞くことができました。

また、図書館整備も、北部図書館の司書の方、地域ボランティア、図書委員などが協力して行いました。



【今年度のまとめ】

今年度、新たに立ち上げた放課後寺子屋「のびっこ」では、子どもたちが「毎週来るのが楽しい。」「計算が早くなってうれしい。」など、生き生きと活動する姿が見られました。毎月行っていた100マス計算では、2分以上早くできるようになった子どももいて、自分の成長を大変喜んでいました。関わっていた地域の人たちからも、「子どもたちと関わると元気をもらう。来年度も続けたい。」という感想をいただきました。

また、今年度もESDの視点をもった授業づくりを行い、様々なゲストティーチャーに協力していただきました。その中には、ゲストティーチャーと共に授業を創っていく場面もありました。

【来年度に向けて】

学校の教育活動と地域、社会をつなげ、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、進めていきたいと思っています。そのためにも、様々なゲストティーチャーに専門家として来ていただき、子どもたちの豊かな学びにつなげたいと思います。

また、どんなところで地域の力を活用できるのかを、地域と連携しながら探っていきたいです。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを大切にし、子ども実した取組を行う。

【今年度の取組紹介】

今年度は、感染症対策も緩和されたことで事業も計画通り実施することができました。今年度の新しい試みとして、子ども達の心も体も弾ませられる体験を取り入れようと考え、地域の方をゲストティーチャーとして招き、「バランスボールで弾もう」という事業を始めました。骨盤が前や後ろ、横に歪んでいると、骨盤パンツがシワシワになったり、話をしっかり聞けなかったりすぐに疲れて楽しく遊べなかったりするという話を聞き、椅子に座る時には姿勢を意識できるよう日頃の生活の中でも取り組んでいました。参加する子ども達は「バランスボール楽しみ」「早く先生に会いたいな」と、心待ちにし、バランスボールで弾んだり、曲に合わせてながらボールを転がしたり踊ったりすることで、心も体も解き放され心地よい時間を過ごすことができました。



また、地域の方による「ふれあいコンサート」も開催させていただきました。地域の方の歌に合わせて一緒に歌ったり、体を揺らしながら歌を聞いたりして、楽しいひと時を一緒に過ごすことができました。日頃の園の生活や、子ども達の様子を見ていただく機会となりました。



【今年度のまとめ】

今年度は、新たな試みも含め地域の方が園に来てくださることが前年度より多くなりました。その中で、子ども達が地域の方の温かさに触れたり、地域の方にも子どもたちのことを知っていただいたりする良い機会につながったのではないかと思います。

環境整備事業では、保護者の方や地域の方のお力添えをいただき、子どもたちも四季折々の植物に触れたり、整った環境のもと存分に体を動かして遊んだりすることができました。

ふれあい感動体験事業では、「お話の会」や「英語教室」「サッカー教室」と、地域の方の教育力の元子どもたちの心も体も存分に楽しめる経験をすることができました。

【来年度に向けて】

- ・地域の教育力を生かした活動を保育内容に取り入れ、豊かな経験ができるようにし、活動内容に刺激を受け、やってみようとする意欲や思考力を育てていきたいです。
- ・取組内容をタイムリーに保護者や地域の方に写真を使って伝え、子どもの育ちや事業内容の理解につなげていきたいです。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす

取組目標

学校が大好きで、ふるさとが大好きな都跡の子どもを育てる

【今年度の取組紹介】

- ・自治会と共催の「都跡ふれあいまつり」は今年度飲食ブースも再開されコロナ前の形態で小学校にて盛況に開催されました。地域住民のふれあいの場にすべく、園、小、中、高、公民館も協力して運営にあたりました。体育館では中学校生徒会による司会のもと、園児のおゆうぎや小中高の楽器演奏、公民館自主グループの発表が行われました。



大学生参画事業の奈良女子大学生1名が準備委員会から参加し、前日会場設営、当日は体育館の音響を担ってくれました。会場の片付けは生徒と一緒にやる事ですみやかにできました。

- ・小学1年生の昔遊びを今年度からサポートすることになりました。

当日は体育館で、地域の方々や大学生と一緒に児童たちと様々な遊びをして楽しい時間を過ごしました。公民館に協力をお願いしたことで、自主グループ連絡協議会の方々、みあと幸齢者学級のみなさんにお手伝いいただき、新たなつながりができたと感じています。中には、自慢のコマを持参して子どもたちに熱心に紐の巻き方を教える方や、手のひらでのコマ回しを見せてくださる方もおられました。



【今年度のまとめ】

- ・地域との共催のふれあいまつりでは、住民同士の交流の場が持て、園児や児童、生徒たちに発表の機会が与えられたことは喜ばしく思います。飲食ブースやその他の遊びのブースでも地域の方々と活動する中学生たちは頼もしかったです。
- ・読み聞かせボランティアの勉強会を毎月行うことにしたので、情報交換の場ができ、活動の依頼もスムーズにできました。

【来年度に向けて】

- ・年度末の広報紙「みあと」、学期ごとのボランティア募集のチラシは、引き続き発行し、地域への広報活動を継続します。
- ・中学生が地域との連携事業（ふれあいまつり等）に企画段階から参加できるように働きかけます。
- ・中学校での朝の読み聞かせを再開したので、次は読書離れを改善すべく、授業前、朝の図書室開室時間を増やす工夫をボランティアの協力を得て進めていきたいです。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**「確かな学力」と「豊かな心」を育むことをめざす**

取組目標

人を愛する心や学校・地域を愛する心を育てる。**地域で育つ中学生として、地域の一員としての役割を担える生徒の育成。****【今年度の取組紹介】**

- 毎年生徒たちも楽しみにしている植物の栽培活動。本校の目玉でもある「ゴーヤカーテンづくり」と「サツマイモ栽培」を今年も実施することができました。今年は夏の猛暑のため、ゴーヤの収穫が昨年よりもうまくいきませんでした。しかし、「サツマイモ栽培」については、昨年よりもたくさんのサツマイモが収穫できました。収穫したゴーヤやサツマイモは、地域の皆様や来客者にも振舞うことができました。また、みあと花壇やプランターには多くの花を植え付けて育てることができました。これらの日々の世話は『いきもの係』が中心になって水の世話などを行いました。
- 読書推進事業では、地域コーディネーターやボランティアの方々と市の図書館司書の方が定期的に来ていただくようになり、図書室の環境整備や書籍管理を行っていただいています。また、今年度途中より「朝の図書室開室」を始めたり、コロナ前に取り組んでいた「絵本の読み聞かせ」を復活させたりしました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症への対策が緩和され、これまでの取組を再度検討しながら無理なく実施できる活動を取り組みました。生徒と地域の方々が協働して行う栽培体験活動と図書室環境整備等を通じた読書推進事業が取組の中心でしたが、地域の方々と触れ合う機会を多く持ち、共に活動させていただきました。令和元年度から活動をスタートさせた「いきもの係」も徐々に定着してきました。また、ボランティアとして地域活動や学校美化活動に参加する生徒たちの姿が増えてきました。生徒たちの地域に対する理解や関心が高まり、活動を通して自分たちの学校をきれいにしていく美化意識の向上や地域の方との協働につなげることができました。

【来年度に向けて】

- コーディネーターやボランティアの募集活動の協力ができるよう、中学校での支援事業を中心に、学校HP等での発信にも力を入れ、よりたくさんの保護者等にも引き続き周知していきたいと思います。
- 読書推進事業で、図書室開室の機会を増やすことができましたが、安定した利用者数の増加につながっていない現状があります。図書室の環境は良くなっているので、生徒が図書室に出向く仕掛けの工夫をしていきたいと思います。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す

取組目標

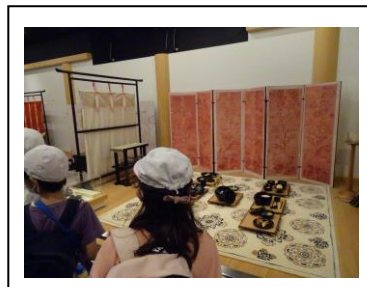
**世界遺産のあるまち
都跡で暮らし、都跡を学び、都跡を誇れる児童の育成**

【今年度の取組紹介】

○ 平城宮跡オリエンテーリング

4年生が平城宮跡歴史公園内を地域のボランティアの方々の協力を得ながらオリエンテーリングをしています。

今年度は平城宮跡歴史公園の奈良県推進事業部の方の協力もあり、より深い学習を行うことができました。半日の活動でしたが、平城宮跡のさまざまな場所を歩いて回り、それまで学習したことと結びつけながら活動しました。チェックポイントではボランティアの方々から詳しいお話をしていただき、興味をもって取り組むことができました。



○ 学校図書館支援事業

子どもたちが本にふれる機会をふやそうと、地域コーディネーターや図書館司書の方を中心に数多くのボランティアの方々が学校図書館の環境整備や本の整理を行っています。今年度は読み聞かせ活動を放送で行い、教職員に図書室にあるお勧めの本の紹介のポップを作成していただくなど、学校とボランティアの方々と協力し、取り組むことができました。また、コーディネーターの方には本の紹介だけでなく、選書から関わっていただきました。



図書室のポップ

【今年度のまとめ】

- 都跡の地域の方々は、「子どものためなら」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる」と考え、できることは何かを考え、様々な場面で学校に協力してくださっています。特に、図書ボランティアは継続的な活動として取り組んでくださっています。また、新たにボランティアを志望してくださる方も多くいらっしゃいました。教職員や子どもたちは、このような地域の方々の温かい気持ちに実際に触れることで、地域の方々の思いを知ることができたと思います。こうした地域の方々と子どもたちが一緒に活動する場面が増えるよう、各活動の実施方法を検討していきたいと思います。

【来年度に向けて】

- 今まで築き上げた「子どもたちから地域の方々が見える」「教職員から地域の方々が見える」という関係を大切にしながら、地域の方々と子どもたち・教職員がつながる場面を確立・拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、
未来をきりひらく子どもの育成
「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむ
ことをめざす**

取組目標

みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園

【今年度の取組紹介】

○ 読み聞かせ事業

地域の方による『わくわく絵本タイム』、保護者による『お話の日』を実施し、教育の時間だけでなく、預かり保育や未就園児保育でも絵本の読み聞かせをしていただきました。子どもたちは朝から楽しみにし、「準備ができました。絵本を読んでもください。」と自分たちのクラスまで手をつないで話をしながら案内していました。地域の方の温かい声に絵本が始まると、子どもたちは、食い入るように真剣に聞いたり、先生や友達と一緒に笑ったりしていました。未就園児保育では、「親子で一緒に絵本を楽しんだり、子どもの表情をゆっくり見たりと、心が落ち着き、ほっとする時間をもらえて嬉しい」という声も聞きました。年間を通じて多くの方に心のこもった読み聞かせをしていただくことで、子どもたちはよりお話に興味をもち、絵本の世界に入り込み、豊かな心を育むことができました。



○ 本物にふれる体験事業

より地域を知る機会にと考え、春の遠足に今年度も平城宮跡に出かけました。当日は厳しい暑さが予想されたので、付き添ってくださった地域の方々が、道中、園が用意しておいた霧吹きをミストがわりにして子どもたちに後ろや横からふりかけ、熱中症対策をしながら共に安全を見守っていただきました。そして秋の自然を肌で感じながら平城宮跡へドングリ拾い、唐招提寺も行きました。2月には薬師寺に出かけ、境内を散策していると梅の花が咲いているのを見て春の訪れを感じたり、金堂で僧侶による仏像や塔等の話を聞いたりしました。如来さんは薬の先生ということをお教えていただき、仏像の前で「風邪が治りますように」「みんながずっと元気でいられますように」と手を合わせて、お祈りしている子どもたちでした。世界遺産に囲まれている都跡地区。自分たちの住む町を歩いて散策することができるのも地域の方が付き添ってくださるおかげです。自分たちの住む町に咲いている草花や公園、お店等、地域の方と歩きながら話をして見たり触れたりして町の良さを感じることができ、思いやりや温かい心に触れ、コミュニケーション能力の向上にもつながりました。



【今年度のまとめ】

- 活動内容や方法を地域の方と相談しながら、環境整備事業・本物にふれる体験・読み聞かせ・栽培活動・広報活動に取り組みました。年間を通して多くの方に来園いただき、地域の方を身近な存在と感じ、人の温もりや優しさに接することで、感謝の気持ちや思いやりの心を育むことにつながり、様々な体験活動を通して、豊かな心を育む機会となりました。

【来年度に向けて】

- 引き続き『みんなで遊びを創る笑顔あふれるこども園』を目指し、子どもたちにとって豊かな経験となるよう活動を継承していくと共に、内容や活動方法を見直し、地域・保護者との連携を深め、教育・保育の充実をさせたいと思います。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する**園児・児童・生徒の育成**

取組目標

地域力によって育成する心豊かな子ども**【今年度の取組紹介】**

今年度も「歴史ウォーク」「わくわくフェスティバル in 奈高」「図書室開放」を3本柱に活動しました。

歴史ウォークは、朱雀小学校をスタートに、神功皇后陵、成務天皇陵、日葉酢媛命陵（ひばすひめのみことりょう）、瓢箪山古墳、大極殿をゴールとして歩きました。晴天に恵まれ、約70名を超える大人、子どもが参加しました。歩いている途中、子どもたちは瓢箪山古墳に登り、大きなどんぐりを拾いました。見たこともない大きなどんぐりに子どもたちは目を凝らして探し、持っていたビニル袋に詰め込みました。11月といえども汗ばむほどの陽気で、途中で上着を脱ぎ、半袖姿になる人もいたほどでしたが、皆笑顔でゴールを迎えたのが印象的でした。



わくわくフェスティバル in 奈高は、1月21日（日）に今年も奈良高校を会場に開催しました。各小学校からの出し物と中学校、高校からは部活動が参加し、それぞれ舞台発表やブースでの体験を行いました。この日は前日からの雨模様の影響を懸念しましたが、約870人の地域の人々が参加し、大いに盛り上がりました。

【今年度のまとめ】

歴史ウォークはコロナ後2回目開催となり、来年度で小学校区すべてをスタート地点に開催した事になります。また、わくわくフェスティバル in 奈高も2回目の開催となり、どの小学校、中学校も盛り上がりを見せています。今年も地域の子どもたち、家族が集い、楽しむことができたと思います。

【来年度に向けて】

来年度は、歴史ウォークは左京小学校がスタート地点になります。既に問い合わせもあり、楽しみにしている地域の方もおられ、地域で認知されている行事の一つになっています。今後も地域の子どものたちの健やかな成長のために取り組んでいきたいです。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する**園児・児童・生徒の育成**

取組目標

知ろう、地域のすばらしさ！本物に触れる感動を子どもたちに！

【今年度の取組紹介】

今年度の途中から新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、今まで制限していた内容を再度見直し、開催しました。特に3年生は制限の中で入学してきたため、つながりを構築できぬまま進級しています。ぜひ地域の方とのつながりの再構築を考え、あらゆる場面でサポートしてもらいました。その中でも、1年時にできなかった命の授業を3年で再開しました。

はじめは、子どもたちも恥ずかしそうに聞いていましたが、助産師の方の熱意と真剣な眼差しの話に心を揺さぶられ、次第に子どもたちの表情も真剣になりました。

命の授業の後、子どもたちから助産師の方々へ会いに行き、質問や悩みを相談する場面もありました。今までならマスクをし、距離を取っていたため、できなかった場面です。少しでも今までできなかった内容を取り戻すことができました。

今後も、子どもたちのより良い成長を、適切なタイミングで適切な内容を、地域の方々に協力いただき、すすめたいです。

**【今年度のまとめ】**

今年度は特に3年生に、今まで新型コロナウイルス感染症が理由でできなかった内容を重点的におこないました。日常的には、昼休みの図書室運営、学習支援、面接練習などを地域の方にお世話になりました。特に、命の授業は1年、3年で行いますが、今年度3年生は、1年できなかった内容と一緒に盛り込み、とても充実した内容になりました。

【来年度に向けて】

今後も子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、地域の方々に協力いただき、常にあらゆる角度から確認、見直し、運営したいです。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育にあたり、子どもたちが感動するような体験活動を通した魅力あふれる取り組みの継続と地域人材の活用・発掘

【今年度の取組紹介】

本校は毎年『奈良・人と自然の会』の地域の皆さんに協力いただきながら水稻栽培体験を実施しています。今回で15回目となりました。

6月の田植えでは事前学習として古代米『さよむらさき』についての歴史や米の栽培の仕方などを教えていただきました。田植え当日は泥の中に素足で入り、子どもたちは今まで体験したことのない感触に驚いていました。最初は恐る恐る植えていましたが、徐々にコツをつかんでスムーズに植えることができました。

10月には立派な稲穂が実り、稲刈りの季節となりました。秋晴れのもと、せっせと鎌を使って刈り取り作業をしていく子どもたちは6月の田植えの時よりも頼もしく、稲の成長とともに子どもたちの成長も感じることができました。11月には5年生が刈り取った「さよむらさき」を給食で出していただきました。地域の方もお招きして全校でおいしくいただきました。地域の方へお礼の気持ちを込めて巾着袋を作成し、プレゼントしました。地域の皆さんにとっても喜んでいただきました。

**【今年度のまとめ】**

水稻栽培体験を通して、栽培することの苦労や収穫した時の達成感、米作りの歴史などを学ぶことができました。田植えから脱穀作業まですべて手作業でし、お米としてやっと手にしたときの感動と喜びは子どもたちの大切な心の糧となったことでしょう。地域の方々をはじめ、たくさんの方々に支えられて生活していることを実感できるよい機会となりました。

【来年度に向けて】

様々な取組は長期的な視野に立ち、事業を継続的に行うことにより大きな成果が得られると考えます。来年度も活動内容の工夫・精選を検討し、本事業を継続していきたいと考えております。年間を通じてたくさんの体験と経験ができました。

めざす子ども像

自信を持ち何事にも挑戦する児童の育成

取組目標

子どもたちが地域を知り、地域の人達との繋がりを意識するとともに、豊かな感性や様々な知識・技術を身につけて成長していける取組の充実を目指す

【今年度の取組紹介】

今年度は、これまで6年生のみで実施してきた「英語でアート」をすべての学年で実施することができました。昨年に引き続きアーティストのドミニク・ルトランジェ先生を講師として招き、活動中はすべて英語とジェスチャーでコミュニケーションをとりながら創作活動に取り組みました。1年生は「大好きな生き物」、2年生は「見たこともない魚たち」、3年生は「色と音の街」、4年生は「1/2 成人式」、5年生はシンメトリーな仮面、6年生は「生命の樹」をテーマにしながら、ドミニク先生の声かけで、既存の概念にとらわれない自由な発想で活動することで、想像力豊かで個性あふれるアート作品が完成しました。どの子どもも楽しみながら創作することができました。

この体験を経て子どもたち一人ひとりが自信を高め、友達のよさやすばらしさを見つけ合うことができました。

**【今年度のまとめ】**

今年度特別に実施した全学年の「英語でアート」では、普段体験できない貴重な体験・学びの機会を得ることができました。継続して取り組んでいる4年生の「防災学習」、3年生の「左京の森での花の苗植え」、全校での「クリーン左京」では、地域の方に教えていただいたり、地域の方と一緒に取り組んだり、地域の方に協力していただいたりしながら、活動を豊かにして学びを広げることができました。また、今年度新たに取り組んだ4年生の「福祉体験学習」では、左京地域にある福祉センターの協力も得ることで、新たなつながりを構築することができました。

【来年度に向けて】

今後は、地域とのつながりを大切にした取組を段階的にすべての学年に広げ、6年間を通じて様々な形で子どもたちが左京の地域を知り、さらに左京のまちが好きになれるよう取り組んでいきたいです。そのためにも、引き続き地域や保護者のみなさまに広く協力を得ながら取組を継続させ、少しずつ豊かな活動を構築していきたいと考えています。

めざす子ども像

自信を持ち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

(1) 学習支援事業「茶道を体験しよう」

毎年、放課後子ども教室で「茶道を体験しよう」でお茶の指導をしていただいています。最終日は、親子で参加しました。子どもが親にお茶をたててそのお茶を親が飲みました。お茶を飲んだ保護者は子どもに「結構なお手前でした。」と話すと、子どもはにっこり微笑んでうなずいていました。参加した親子にとってとても良い時間を過ごすことができたようでした。



(2) 学習支援事業「車椅子体験活動」

2月20日の日に体育館で車椅子体験活動を行いました。今年も地域の福祉協議会の方達のご協力により車椅子を借りることができ、実施しました。子ども達は交代で車椅子に乗る人、車椅子を押す人になり、体育館でマットや長机を使って通路を作り、そこを通る体験をしました。マットの上を通るときは押す人は力を出さないと車椅子を押すことができず、車椅子に乗っている人も「バランスを取りながら乗るのはむずかしい。」と感想を話してくれました。

(3) 学習支援事業「収穫祭」

収穫したさつまいもを使って、やきいもを作りました。地域の方々の協力のもと楽しく取り組むことができました。

【今年度のまとめ】

今年度はコロナ禍前の活動を再開することができました。茶道の体験活動も親子で参加を行うことができました。夏祭りも今年度は再開され、たくさんの方でにぎわいました。今年もさまざまな事業で子どもたちが楽しそうに活動をしている姿を見ることができました。

また、環境整備事業では長年、図書ボランティアの方々が図書室の本の整理や修理を行っていただいたことにより表彰を受けられました。朱雀小学校はこういった地域の方々に支えられています。ほんとうに感謝の気持ちでいっぱいです。

【来年度に向けて】

環境ボランティア、図書ボランティアさまざまな地域の方々にご協力いただいていて、子どもたちが楽しく安全に学校生活を送ることができています。来年度はこういった方々に子どもたちが感謝の気持ちを伝える取組を進めていきたいです。

めざす子ども像

自信を持ち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域の身近な人と関わる中で、心豊かに生き生きと生活する子どもの育成**【今年度の取組紹介】**

・お話の会

読み聞かせボランティアの方のご協力で、毎月複数回実施することができました。季節の木の実（マツボックリ）を入口が小さな瓶の中に入れたものを用意して、どうやって入ったのか一緒に考え、木の実のお話を読んでくださるなど、子どもたちが興味を持てるように、想像力を掻き立てるように進めてくださるので、子どもたちは毎回来てくださるのをとっても楽しみにしています。年齢や季節に応じた絵本や素話、エプロンシアターや手作り紙芝居などを考えて用意してくださったことで、お話の世界をともに楽しみ、心を通わす温かい時間を過ごすことができました。子どもたちに、聞く力、優しい気持ち、共感力、想像力など、多くの力が育ってきています。



・オカリナ教室



やさしい音色のオカリナの演奏を聞かせてもらったり、実際に触って重さやさわり心地を確かめたり、穴の数を数えたりしました。この3年間、コロナで音楽、特に吹く楽器に触れることができなかったのも、とても貴重な経験でした。初めてのことに出会い、子どもたちの興味関心が広がり、どうなっているんだろうという好奇心が高まりました。

【今年度のまとめ】

- ・継続して地域の方と交流を図ることができました。お話の世界を楽しんだり、サツマイモの世話を一緒にしたりすることができ、楽しさを共有したり思いを温かく受け止めていただいたりして情緒面での成長につながりました。
- ・おもしろ理科実験・体操教室に加えて、オカリナ教室や南京玉すだれ教室など日本の伝統文化や音楽の世界にも触れ、興味や関心が広がり、意欲や自信につながっています。

【来年度に向けて】

- ・子どもたちの豊かな経験につながるよう活動内容を見直しながら、地域の方とのふれあいやかかわりを、計画的・継続的にもてるよう進め、地域に根ざしたこども園をめざしていききたいと思います。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域の方との連携を図り、子どもたちが様々な人との触れ合いを楽しんだり、体験に参加する楽しさを味わったりする中で、自尊感情や活動意欲を高める。

【今年度の取組紹介】

毎月、朱雀お話の会の方に来ていただき、絵本の読み聞かせをしていただいています。子どもたちは、お話をとても楽しみにして「今日のお話は何かな？」とワクワクしながら、目を輝かせて聞いています。

物語の展開に「〇〇はどうなるの？」と、登場人物を心配してドキドキ

したり、楽しいお話に喜んだりしています。腹話術のケンちゃんが登場すると、「ケンちゃんだ！」と言って、子どもたちの楽しい笑い声も聞かれます。「長いお話も、集中して聞いてくれていますね」とお話の会の方からの声も聞かせていただきました。たくさんの絵本に親しみ、想像力や豊かな感性を育んでいます。



ふれあい会館の畑で、5歳児が地域の方と一緒に大根の収穫やサツマイモの苗植え、芋ほりをさせていただきました。地域の方がサツマイモのお世話もして下さり、立派なお芋が育ち収穫することができました。「大きいお芋掘ったよ」「重たいな」と言いながら友達とお芋



を見せ合うことを楽しんでいました。焼き芋パーティーで、地域の方と一緒にホクホクのお芋をいただき、「美味しい」「もっと食べたい」と嬉しそうに話していました。野菜を収穫したり、食べて美味しさを知ったりして、食への興味を持つことができ、食育にも繋がりました。

また、おもしろ不思議理科実験では、実験を通して、楽しく「科学の不思議」に触れることができ、様々な科学事象に興味を持ち、探究する力を育むことに繋がりました。防災教室では、火災の紙芝居や防災のお話をしていただき、安全に過ごせることの大切さを感じることができました。

【今年度のまとめ】

地域の方々にご協力を頂き、「お話の会」「野菜の収穫」「理科実験」「防災教室」「木工製作」「体操教室」など、子ども達は様々な体験や経験を通して、豊かな感性を育むことができました。地域の方々と触れ合い、親しみを感じながら意欲的に活動する姿に繋がったと思います。また、ホームページやドキュメンテーションを通して、活動内容や大切にしていることを発信することで、地域や保護者に取組を広めることができたと思います。

【来年度に向けて】

活動内容の充実を図り、地域の方々と相談しながら計画し共に活動を進めていきたいと思っています。また、地域や校種間の交流を通して、地域や小学校・中学校を身近に感じられるように取り組んでいきたいと思っています。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

歴史・人・自然・もの・未来につなげ守ろう SDGs！

ふるさとに夢と誇りを持とう…故郷の良さを発見！ふるさとの文化をつないでいこう！
地域ぐるみで特産品を作ろう！ようこそ先輩！地域の人に学ぶ職業観！

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染症の規制も緩和され、4年ぶりに実施された活動もありました。特に、地域と合同で行われる体育祭では、熱中症対策に配慮しながら、準備から片づけまで地域の方々と児童生徒が協力し、心に残る体育祭となりました。また、今年度、烏梅を使った紅花染の体験については、梅の資料館で行い、集まった7年生と地域教育協議会の大人組、はぐらぶの方々、また、地域協力隊の方も参加し、実施することができました。後日、赤く染めた紐で合格祈願の梅結びお守りを制作し、受験前の9年生に贈りました。さらに、8年生の家庭科では、染めた布でのコサージュ作りに取り組み、卒業生が式当日胸に付けるコサージュを丹精込めて仕上げる等、地域と子どもが一緒にふるさとの伝統文化を体験し、新たな製品作りに発展させることができました。その他、28年目となった「アルミ缶回収活動」も、地域の方々の手厚いご協力のお陰で続けることができています。今年は、3台の福祉機器を寄贈し、これまでに寄贈した福祉機器は152台になりました。毎年恒例となっている、こ・小・中合同で行われている梅の実採りやその梅を使った梅干し作り、また、月ヶ瀬クリーン部隊の協力による環境美化活動等、いずれも、人々の温かさに触れ、ふるさと月ヶ瀬の良さを知る貴重な体験となりました。



☞ 烏梅を使った「紅花染」と9年生へのプレゼント作り



4年ぶりの開催となった「月ヶ瀬体育祭」☞



【今年度のまとめ】

今年度は、月ヶ瀬体育祭も復活し、徐々に地域の方々と交流する場も増えてきました。また、大学生参画事業も3年目となり、地域行事や月ヶ瀬の特色ある産業の体験活動にも積極的に参加し、児童生徒や地域の方と一緒に活動する機会を持つことができました。28年目となったアルミ缶回収活動では、多くの方々の協力のもと活動が行われ、今年も社会福祉協議会から感謝状をいただきました。「地域の子どもの地域で育てる」体制をさらに強化し、今後もより良い形を模索しながら、様々な取組を継続していきたいと考えています。

【来年度に向けて】

月ヶ瀬中学校区は少子高齢化の進むべき地ではありますが、長年、地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。特に、ずっと関わっていただいているベテランスタッフやボランティアの方々に、保護者世代の新たな力が加わり、郷土愛を育て地域を守るための話し合いを進めながら地域教育協議会の活動に新たなアイデアを吹き込んでくれています。今までの積み重ねを大切にしながら、取組を深化・発展させていきたいと考えています。

めざす子ども像

取組目標

**ふるさとに夢と誇りを持ち、
自分の意見をしっかりと語れる子ども**
「ふるさとに夢と誇りを持とう」ふるさとの支援を受けながら、郷土愛を育て、ふるさとを守り、未来につないでいく生徒の育成

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症による規制も緩和され、恒例となっていた活動が少しずつ戻ってきました。地域に在住する高齢者とのふれあいの場として福祉センターで行われていた「いきいき講座」を実施しました。また、保護司をしておられる地域の方をゲストティーチャーに迎え、様々な経験を基に「薬物乱用防止教室」を実施していただきました。その他にも、「ふるさとWalk」では、昨年同様、地域の方をゲストティーチャーに迎え、プロジェクターに映し出された映像についてご説明いただきました。

また、長年にわたり継続している「花いっぱい運動」や「アルミ缶回収活動」は、地域の方々の多大な協力を得て、今年も例年通りの活動が実施できました。そして、今年度から立ち上げた図書整備事業では、図書ボランティアの方々と図書館司書の方々の協力のお陰で、図書室の整理や本の管理の電子化に向け、作業を進めていただきました。

今年度も、たくさんの活動の中で、地域の方々と生徒が直接交流できる機会が増え、自分たちが暮らす地域をより深く知ると共に、人・こと・ものとのつながりの大切さを学ぶことができました。



地域の保護司の方に聞く
「薬物乱用防止教室」

図書整備事業が本格的に
始まりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍に工夫しながら続けてきた活動に加え、今年度は「月ヶ瀬体育祭」や「いきいき講座」など地域の方々と触れ合う機会も更に増え、改めてふるさと月ヶ瀬へ思いを繋げる活動ができました。本校の伝統でもある「アルミ缶回収活動」は、今年で28年目となり、地域ぐるみの活動として、福祉面や環境面など多方面からも高い評価をいただいております。生徒数も徐々に減少しており、地域の協力無しに継続することが難しい現状ではありますが、あらゆる活動をご理解、ご支援いただいている地域の皆様に感謝しながら、これからも各取組を深化させていきたいと思っております。

【来年度に向けて】

月ヶ瀬は産業も多く、人材にも恵まれた地域です。少子高齢化の進むべき地ではありますが、長年地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。特に、将来に向けたキャリア学習では、地域で広く活躍する方の職業観について学べるよう、その豊富な人材を生かした支援体制づくりにも努めてきました。今後も、さらに広く活躍する方々とつなぐ体制を構築し、キャリア教育をより豊かで充実した学習にしていきたいと考えています。また、各取組においても、継続できることのありがたさに感謝し、さらに発展した取組を追求していきたいと思っております。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標 月ヶ瀬の良さを体感するために、特産品・この地域にしかない物作りの体験学習や地域に伝わる伝統芸能継承者の方から直接教えていただくことを通して、ふるさと月ヶ瀬をもっと好きになり、将来への夢に繋げる。

【今年度の取組紹介】

月ヶ瀬小学校で取り組んでいる地域学習は、地域の方々に支えられ、成り立っています。今年度は、新型コロナウイルスの感染症の規制も緩和され、4年ぶりにマスクなしで伝統芸能の舞台発表を行うことができました。この活動は、保護者の世代から受け継がれている活動で、親子二代に渡って継続されていることの重みや地域の方々の熱い思いを感じながら、大切に継承していかなければならないと感じています。指導者の方々には、何度もご指導いただき、発表会が成功裏に終わられたことに感謝します。

また、梅寿会との交流会やお話の会は、今までの経験を生かしながら、それぞれの発達段階に合わせた内容を検討し、学年毎に活動を実施していただきました。

月ヶ瀬小学校の児童は、自分たちの暮らす地域の文化や生活習慣、産業、伝統文化に至るまで、幅広く月ヶ瀬を学んでいます。5年生で毎年恒例となっている梅干しづくりや、3年生では、手もみ茶体験に加え闘茶会も実施していただきました。発達段階や教科・領域などの学習との関連も考慮しつつ、身近な月ヶ瀬を深く知ること、児童には故郷を思う気持ちが育っています。小学校での地域学習のこうした学びは、中学校での学びにつながり、さらに発展、発信へと深化していきます。これからも自分たちの地域を見つめ、深めていく取組を続けていきたいと思います。



伝統芸能の伝承
「尾山万歳」

3年生で行われた
「闘茶会」



【今年度のまとめ】

小学校では基礎基本の定着を図る学習活動を通して、しっかりとした礎を作ることが大切だと考えています。加えて、月ヶ瀬小学校では児童の発達段階に応じた地域学習の取組にも力を入れています。

児童は地域学習を通して、月ヶ瀬を深く知るだけでなく、人とつながることの大切さを知ったり、地域の方々の温かさに触れたり、ご支援いただいた方々への感謝の気持ちを持ったりすることができました。ふるさと月ヶ瀬を誇りに思い、月ヶ瀬の伝統芸能や文化の伝承者として次の世代を担っていく人材の育成を目指し、これからも取組を続けていきたいと思います。

【来年度に向けて】

今までお世話になっている地域の方々に加え、保護者世代の若いスタッフの方々の協力のお陰で、地域ぐるみで子どもたちを育てる良い環境を構築していただいております。今後は、様々なアイデアの中、広報活動等デジタル化もうまく取り入れ、活動に幅が持たせられればと考えております。

ただ、地域の少子高齢化が進み、伝統芸能や生活文化を継承する人材の確保が難しい現実もあり、どのように続けていくかを地域も学校も考えていく必要が出てきています。児童にそれらを伝承していこうとする自覚や意欲が育つように、これからも取組を深化させていかなければならないと考えます。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見をしっかりと語れる子ども。

取組目標

地域とのつながりを大切にして地域に親しみ、地域の伝統、産業に触れ興味関心を持つ。

【今年度の取組紹介】

5月夏野菜植えからスタートしました。園の畑にキュウリ、ピーマン、ナスの植え方を教えてもらいました。夏には、キュウリやピーマン、ナスがたくさんできました。夏野菜カレーを作ってコーディネーターの徳家さんを招待し美味しいカレーを食べました。陶芸体験、お茶摘み、茶工場見学にも行きました。

6月小中学校のお兄さん、お姉さんと5歳児が梅の実とりをしました。お話の会では、だっこの会や108の会の皆さんに紙芝居、絵本、人形劇を見せてもらい楽しいひと時を過ごしました。

9月お茶会で、浴衣や甚平を着た子ども達が、お茶とお菓子をいただき、香り、味、色など5感で楽しみました。

11月地域散歩で5歳児が初めて龍王の滝へ行きました。由来を教えていただき、山道を歩き着いたところは、神秘的で綺麗な水が流れていました。

12月しめ縄づくりを体験しました。しめ縄にきれいな飾りをつけて世界に一つだけのしめ縄が出来ました。



【今年度のまとめ】

計画していた地域事業は、すべて行うことが出来ました。4歳・5歳を中心に進める中で、5歳児は去年の経験を覚えていて、コーディネーターの方との再会に喜んだり、活動を覚えていて陶芸体験で「おさらつくったことある」などと話したり、少しずつですが地域の方と交流したり、お茶や梅などの特産物も知ることが出来ました。

【来年度に向けて】

例年通りの計画を進めながら、その都度見直しを行い、新規事業にも挑戦して地域と子ども達を繋ぐ取組を進めていきたいです。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

学校園が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

【今年度の取組紹介】

現在、全国的に高齢化が進んでいることに加え、特に中山間地域においては、日常生活やコミュニティの維持が問題となっており、奈良市東部に位置する都祁中学校区（都祁地域）においても、ここ数年来、前述の課題が顕在化してきたことから、これらの解決に向け、日々の教育活動を地域からの協力・支援を得ながら進めてきました。

中学校が地域と関わり交流し連携・協働する取組として、「数学講座」「雅楽鑑賞」「エイサー学習」「世界遺産学習」「防災学習」「共同美化作業」を行っています。

「世界遺産学習」では、事前の学習に加え、奈良公園での散策をしながら、自分たちの郷土に誇りをもつことにつながりました。

「防災学習」では、地域防災の視点から「避難所運営」に関わる学習を深め、万一の災害発生時に備えること大切さについて学ぶことができました。

共同美化作業では、校内外の美化に多くの地域の方が協力をしてくださいました。



【今年度のまとめ】

コーディネーターや委員の方々を中心として、地域の方々からのご協力を得て各事業をすすめることができました。

また中学校区内のこども園・小学校・中学校とも機会を精選しつつも効率的に連携・交流を深めることができ、学びの連続性を踏まえた教育活動を行うことができました。

「防災学習」では防災士の方の協力により、地域防災の視点から避難所運営に関わる学習を深め、万一の災害に備えることの大切さについて学ぶことができました。

【来年度に向けて】

さまざまな配慮や対策を講じながらの活動となっていますが、地域の方のご支援のおかげで活動が再開されてきました。子どもたちの有意義な地域生活を送っていくために、今後ともご支援をお願いいたします。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

学校園が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

【今年度の取組紹介】

1. 防災教育への取組

「生きる力」を育むことを目的とし、防災教育の一環として、地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。地域在住の防災士の方よりご指導をいただき具体的に「命を守る行動」として何ができるかを考え日々 万一の災害発生時に備えること大切さについて学ぶことができました。



2. 学力向上に向けた取組

地域在住の元学校教員の方を講師に招いて「学力補充教室」を開催しました。「数学」の学力向上を目的として、教員4名とともにチームティーチングや少人数指導によるきめ細やかな学習指導により、基礎学力向上を図りました。



地域の方に関わっていただき「自分の思うように書を楽しむ『己書体験幸座』」を実施しています。

3. 伝統・文化理解教育への取組

「保健体育」カリキュラムや「総合的な学習の時間」における伝統文化理解の取組として、〔エイサー学習（沖縄民謡・舞踊）〕を行いました。



【今年度のまとめ】

地域の方々のご協力・ご支援をいただきながら、子どもたちの学習意欲の向上につなげることができました。体験的な活動をもとに生きた学力をつけていくことができました。

【来年度に向けて】

来年度においても、さまざまな配慮や対策を十分に講じながら、事業を精査・精選し、効率的・効果的に推進していきたいと考えます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域へのフィールドワークや地域の方々からの聞き取り、体験学習など、地域や地域の方々に学ぶ機会をできるだけ多く設定する。

【今年度の取組紹介】

○森の学校

今年度も校区内にある奈良県立野外活動センターで森の学校を実施しました。

午前中は学校からセンターまで徒歩で移動しました。6年生が計画し、途中の三陵墓古墳やセンター敷地内などでそれぞれ縦割り班活動を行いました。午後からは各学年で体験学習を行いました。地域で取れた木の実や落ち葉を使った作品作り、地域の方に教えていただき味噌づくりや奈良市写真美術館の方に協力していただき一眼レフを使って地域の秋の様子の撮影会などをしました。地域の自然や生活の工夫、文化に触れる豊かな体験学習に取り組むことができました。



○野菜作り

地域の方に協力していただき、栽培の仕方や収穫方法を聞きながら1年間を通して栽培体験等に取り組みました。苗植えや水やり、収穫、そして、収穫した野菜を生活科や総合的な学習で調理し食べることで地域の方との関わりを深めるだけでなく、食育の学習にもつなげることができました。



【今年度のまとめ】

今年度も、子どもたちが地域や地域の方々から学ぶことを大切にして活動に取り組んできました。コロナ禍が明け、昨年度まで以上に地域の方々と関わる機会を多く持つことができました。子どもたちは、地域の歴史や文化、自然等に触れることで、地域の良さや自分の生活との関わりを実感することができました。

【来年度に向けて】

今年度同様、地域の歴史や文化、自然等に触れることを中心に活動を行いたいと思います。また、都祁こども園や都祁中学校と連携し、さらに人との関わりを大切に取り組みたいと思います。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域とのつながりを感じながら、心豊かで、生き生きと生活する
子どもの育成

【今年度の取組紹介】

○文化体験事業〈生け花・剣道・茶道体験教室〉

今年度は、コロナの感染対策が緩和され、数年ぶりに山辺高等学校の茶道部の生徒の方々に来ていただきました。お抹茶の運び役になったり、お抹茶をいれたりしました。お辞儀の仕方から始まり、運び役の子は「お菓子をどうぞ」と友達の前に少し緊張した表情でしたが、お姉さんたちに優しく教えてもらい運んでいました。お抹茶を飲んで「ちょっとにがいけどおいしい」「初めて飲んだ」と感想を言っていました。日本の伝統的な優雅な作法を学ぶことができ、地域の学校との交流にもなって、高校生の方々にとっても園の子ども達にとっても貴重な体験となりました。また、生け花教室では、地域の先生方に来ていただいて生け方を教えてもらいました。たくさんの花の中から好きな花を選んで、思い思いに生ける中でも背の高いものを先に生けること、花と花が重ならないように等優しく教えていただき、個性的な素敵な生け花ができ、作品展で保護者にも見ていただきました。



○〈さつまいも掘りや焼き芋パーティー〉



地域の畑の先生に来ていただき、苗を植えるところから水やりの仕方も教えていただいて、今年は本当にとても大きなさつまいもが収穫できました。焼き芋パーティーで、もみ殻に煙突を立てて準備してくださり、子ども達はアルミ箔でさつまいもを巻く作業等を行いました。蜜たっぷりの甘いおいもで、お代わりをたくさんして秋の収穫と味覚を地域の方と一緒に楽しみました。

【今年度のまとめ】

地域の方々とともに菜園活動やおはなしのひろば、茶道体験や剣道体験、生け花体験など園だけでは経験できない様々な感動体験と人との出会いがありました。地域の方々への憧れと尊敬の気持ちが芽生え、地域の方から褒めてもらったり認めてもらったりすることで、子ども達が自信を持ち「心豊かで、生き生きと生活する子どもの育成」に繋がりました。

【来年度に向けて】

地域の方々の協力をいただきながら、地域の方と繋がりを感じ、「心豊かで生き生きとたくましく活動する子ども」を目指して、地域・園・家庭が一体となり取り組んでいけるよう、園児と小学生との交流等、相互の連携を深め、様々な感動体験ができるように取り組んでいきたいと思います。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自他を大切にし、 自ら学び、主体的に行動する子ども

取組目標

- ・ 将来必要な「生きる力」を培うための、学校では習わない知識・能力を育成する

【今年度の取組紹介】

昨年度に引き続き、小学部での絵本の読み聞かせを対面で実施しました。

今年度はこれに加え、校区内の「公私連携幼保連携型認定こども園 富雄藍咲学園」や、「奈良県立奈良西養護学校」からの要請を受けて、読み聞かせボランティアの方々を派遣し、地域内での活動の場を拡げました。また、今年初めての試みである帝塚山自治協議会主催の「帝塚山フェスタ」に、以前学校で飼育していたひつじの毛を使用した羊毛クラフト体験のブースを出店し、店番の中学部の生徒と、来場した地域の方々がワークショップを通して交流を深めることができました。

この「帝塚山フェスタ」への出店および準備段階でのボランティア募集等をきっかけに、地域の方々からも羊毛クラフトのワークショップの開催を依頼されるなど、学校外へも活動を拡げることができました。



絵本の読み聞かせ

羊毛クラフト体験ブース
「帝塚山フェスタ」にて

【今年度のまとめ】

手探り状態ながらできることを少しずつ増やせた一年でした。

羊毛クラフト体験ワークショップの開催や、小学部家庭科授業でのミシン掛けのお手伝いなど、新型コロナウイルス感染拡大前に実施していたことにもようやく取り組み、子どもと直接関わる機会を増やせたことで、意欲的に取り組んでくれるボランティアの数も増えました。

校内だけでなく、こども園での味噌作りやお茶会体験、養護学校での絵本の読み聞かせなど、活動の場が地域内の他の学校へも拡がりました。

【来年度に向けて】

活動制限が緩和されたとはいえ、自然災害や感染拡大など、まだまだ安心はできないが、少しずつ以前実施していた活動を復活すると同時に、こども達の成長の一助となるような新たな活動に取り組みたいです。

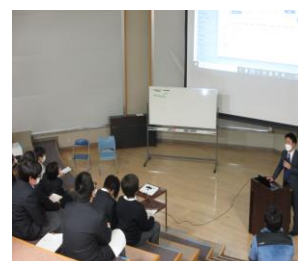
めざす子ども像 **心身ともにたくましく自他を大切にし、
自ら学び主体的に行動する子ども****取組目標** 子どもたちと地域の方々との関わりの中で、子どもたちは人との関係を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただくとともに、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。**【今年度の取組紹介】**

5月以降、新型コロナウイルスの扱いが変わり、計画していた事業について、状況を見ながら慎重に進めてきました。特に、中学部においては、引き続き生徒の学習環境として本校図書情報室の環境整備に力を入れ、図書ボランティアの方をはじめとして教職員、学校図書館司書の方の連携を密にしながら、納本された本へのブックカバー装備、本の修理、ブックエンドを利用した書架の表示など、生徒が図書情報室を利用する上で便利のように工夫をこらした作業を行いました。

キャリア教育支援事業としては、コロナ禍で希薄になったコミュニケーション力を身に着けるため、7年生では仲間づくりプログラムや職業人講話の実施。8年生は人間関係づくりプログラムや職場訪問学習の事前学習としてのマナー講習会。9年生は進路実現のための対策として、マナー講習会を実施しました。また、環境整備事業として、校門付近・グラウンド等、学校の敷地内外の草引き・草刈り・剪定作業等を行いました。ボランティアで来てくださる方のご都合やPTA、生徒の活動時間をうまく合わせることも難しい場面もあり、今年度は協働での活動が少なかったことが次年度への課題となりました。



仲間づくりプログラム



7年生職業人講話

【今年度のまとめ】

コロナ禍の影響で、計画した事業について慎重に状況を見ながらの実施となり、コーディネーター会議など、地域の方と打合せを重ねる中で、地域としてめざす子ども像に、いかに迫ることが出来るかについて、共に考えることが出来ました。小中学校として地域の皆様に登下校の見守りをはじめ、児童生徒の姿を日常的に地域の方が見ていただいていること、児童生徒の学習環境についても図書館司書の方とタイアップして読書環境の整備にご尽力をいただきました。

【来年度に向けて】

新型コロナの新しい扱いやその他の感染症対策を講じながら、コロナ前の取組を導入することや学力補充の取組を進めていきたいと考えています。また、新たな取組を計画し、地域の方の子どもを大切に守り育てるという思いを大切に取り組んでいきたいと考えています。子どもの実態をみつめ、地域としてめざす子ども像を共有し、具体的にどのような手立てで事業を実施していくのかを明確に共有しながら進めていきたいと思います。地域の方からはボランティアを新たに申し出てくださる方もあり、とてもありがたく感じております。大人の姿を見て子どもが育つような素晴らしい関係を地域の方と教職員とで築いていきたいと考えています。

めざす子ども像 **心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども**

取組目標 **子どもたちと地域の方々との関わりの中で、子どもたちは人との関係を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく。相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。**

【今年度の取組紹介】

コロナ禍の終息により、感染対策を考慮しながら可能な限りの活動を模索し、実践しました。

図書の読み聞かせの活動では、昨年度から学級ごとに対面での読み聞かせを実施しています。子どもたちも自席からだけでなく、絵本の周りに集まって聞くという形もとれました。また、年間通しての実施もできましたし、読んでいる近くで子どもたちの表情や反応を見ながら読めることがとても嬉しいと喜んでおられました。

また、環境整備活動では、校舎沿いの学級園で、ジャガイモとサツマイモの苗植えから収穫までを実施できました。ひまわりの児童と2年生の子どもたちが地域の方と一緒に取り組み、ちょうど教室から畑の様子が見える場所なので、大きくなっていく様子も良く分かり、ジャガイモもサツマイモもとても豊作で子どもたちの喜ぶ姿が微笑ましかったです。ジャガイモについては、ひまわり児童が、生活単元学習で販売してくれて、売れ行きも上々でよい学習ができました。

今年度も、3月にジャガイモの種芋をひまわり児童が植えます。毎年、地域の畑で収穫させていただいていましたが、今年からは学校の畑だけでジャガイモとサツマイモの収穫ができそうです。



サツマイモ収穫の様子

【今年度のまとめ】

環境整備支援、読書活動推進、学習補助等に、多くのボランティアの方が登録してくださっています。高齢化のため人数は減少傾向にありますが、工夫をしながら参加してくださっています。子どもたちと地域の方が出会い、ふれあい、ともに活動することで、大人も子どももこの地域のなかで暮らしていることを意識することができました。今年度は、多くの活動ができたため、「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

【来年度に向けて】

今年度も、地域のボランティアの方より「もっと役に立ちたい」という温かいご意見を複数いただきました。ボランティアの方が減少するなか、人数を確保することだけでなく、様々な活動を効果的に実施するため、新しい生活様式に対応する事業の視点をもつ必要性を感じています。今後も、地域とともに子どもたちのために有意義な活動が実現できるよう、連携を密にして取り組んでいくことに注力します。大人も子どもも地域のなかでの自己有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども

取組目標

- ・地域の教育力を活かした、こ小中連携教育の実践に取り組む
- ・「やってみたい」一人一人が輝き夢中になって遊ぶ子を目指して
～興味をもつ環境を探る～のテーマに沿った、地域との連携

【今年度の取組紹介】

昨年度同様、茶道の講師の先生より日本の伝統文化に触れる機会を継続してきたことは、地域の教育力が保育現場で活かされました。お茶のお点前だけではなく、茶器、掛け軸、生け花などの本物に触れ、それらの意味や由来などを教えていただき、季節が感じられました。豊かな経験を通して心を育み、情緒豊かに育つためには今後も地域力を多いに活用していきたいです。

ダンス教室では、子どもの体力作りに着目して、楽しい曲に合わせてダンスを踊りました。この経験からダンスに興味をもつ子も多くなりました。マリンバや吹奏楽は、本物の楽器の音色を聴くことは感動体験につながり、楽器や音楽への興味を高まりは心の育ちにもつながりました。



茶道教室の様子



マリンバの演奏会



近大農学部吹奏楽部の演奏



ダンス教室の様子

【今年度のまとめ】

一年を通して園児たちは、様々な経験を重ねてきました。今年度、園の活動に携わってくださった講師の方、コーディネーターに多大なるご協力をいただくとともに、多くのボランティアの方にもお世話になり、子どもたちの豊かな経験につながりました。ボランティアの方からも「やりがいがある。こちららも元気になれる。」というお声も聞かせていただき、相互に良好な機会となっていることを実感しました。今年度、地域の教育力を活かして、様々な機会をつくり貴重な経験を通して、自園が目指す子どもの姿に重ね、心揺さぶられる経験をできたことは成果として捉えています。

【来年度に向けて】

R6年度は、新たな取組を計画し、今年度以上に地域の方々とのふれあいや関わりを深め、地域に根差した富雄藍咲学園として地域の皆さんに愛される園に成長できるようにしたいです。そのためにも新たな取組に積極的に取り組み、子どもたちがこの地域で心身共にますます成長することを目指していきたいです。